

令和6年度（2024）

授業計画（シラバス）

東九州短期大学

学籍番号	
氏名	

目 次

教育課程

科目展開表（令和6年度）

科目ナンバリングの説明・成績評価基準について

カリキュラムツリー（令和6年度）

特設科目 1～4

基礎科目 5～28

専門科目（1年） 29～90

専門科目（2年） 91～159

教育課程

特設科目

アSEMBリーアワー（礼拝）1単位

基礎科目

授 業 科 目		単位数			備 考	
		必修	選択	卒業 要件 単位 数		
基礎 科目	一般 教養 科目	宗 教 学 I	2		6 単 位 必 修	
		宗 教 学 II		2		
		文 学		2		
		哲 学		2		
		仏 教 学		2		
		日 本 国 憲 法		2		
		歴 史 学		2		
		経 済 学		2		
		社 会 心 理 学		2		
		生 物 学		2		
		環 境 科 学		2		
		地 学 概 論		2		
		化 学 概 論		2		
		生 活 科 学		2		
		人 間 関 係 論		2		
		文章言語表現		2		
		キャリアフ ^o ランニング ^o		2		
	食 と 健 康		2			
	外国語 科目	英 語 (英 会 話)	2		2	
		韓 国 語		2		
中 国 語			2			
体育・スポ ーツ科目	健康スポーツ I	1		1	理論	
	健康スポーツ II	1		1	実技	
計		6	38			

専門科目

授業科目		単位数			備考
		必修	選択	卒業要件単位数	
専門科目	教 職 概 論	2		50 単 位以上	
	保 育 原 理		2		
	教 育 原 理	2			
	子 ども 家 庭 福 祉		2		
	社 会 福 祉		2		
	子 育 て 支 援		1		
	社 会 的 養 護 I		2		
	社 会 的 養 護 II		1		
	子 ども の 心 理	2			
	子 ども の 心 理 II		2		
	子ども家庭支援の心理学		2		
	子どもの理解と援助		1		
	子どもの保健		2		
	子どもの健康と安全	1			
	子どもの食と栄養 I		1		
	子どもの食と栄養 II		1		
	子ども家庭支援論		2		
	教 育 課 程 論	2			
	特別支援を必要とする子どもの理解 A	1			
	特別支援を必要とする子どもの理解 B		1		
	幼 児 と 健 康		1		
	幼 児 と 人 間 関 係		1		
	幼 児 と 環 境		1		
	幼 児 と 言 葉		1		
	幼 児 と 表 現		1		
	保 育 内 容 総 論	1			
	保育内容（健康）の指導法	1			
	保育内容（人間関係）の指導法	1			
保育内容（環境）の指導法	1				
保育内容（言葉）の指導法	1				
保育内容（表現 A）の指導法	1				
保育内容（表現 B）の指導法		1			

授業科目		単位数			備考	
		必修	選択	卒業要件単位数		
専 門 科 目	乳 児 保 育 I		2	50 単 位以上		
	乳 児 保 育 II		1			
	教 育 方 法		2			
	子 ど も と 情 報		1			
	幼 児 理 解 と 教 育 相 談		2			カウンセリングを含む
	ピ ア ノ I		1			
	ピ ア ノ II		1			
	伴 奏 法 I		1			
	伴 奏 法 II		1			
	子 ど も と 音 楽 I		1			
	子 ど も と 音 楽 II		1			
	音 楽 表 現 (リ ト ミ ッ ク)		1			
	図 画 工 作		1			
	幼 児 体 育		1			
	言 語 遊 び		1			
	教 育 実 習 I		2			
	教 育 実 習 II		2			
	教 育 実 習 指 導		1			
	保 育 実 習 I (保 育 所)		2			
	保 育 実 習 I (施 設)		2			
	保 育 実 習 指 導 I		2			
	保 育 実 習 II (保 育 所)		2			
	保 育 実 習 III (施 設)		2			
	保 育 実 習 指 導 II (保 育 所)		1			
	保 育 実 習 指 導 III (施 設)		1			
	保 育 ・ 教 職 実 践 演 習 (幼 稚 園)		2			
	情 報 処 理 論	1				
	情 報 処 理 演 習		1			
	心 の 教 育		2			
	真 宗 保 育		2			
医 学 一 般		2				
ゼ ミ ナ ー ル		4		卒業研究、卒業制作		
計	17	76	50			

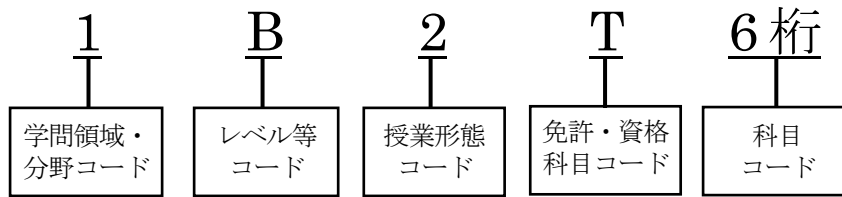
科目展開表 (令和6年度)

分野	科目ナンバリング	授業科目	授業形態	単位	卒業要件 単位数		幼稚園教諭二種 免許状単位数		保育士資格 単位数		保健児童 ソーシャル ワーカー	1年		2年		単位 修得時期	
					必修	選択	必修	選択	必修	選択		前期	後期	前期	後期		
																	2024
特設科目	1L2F10010	アセンブリーアワー (礼拝)	演習	1	1				1			○	○	○	○	2年後期	
基礎 科目	2L1N210010	宗教学Ⅰ	講義	2	2				2			○				1年前期	
	2L1E210011	宗教学Ⅱ	講義	2		2			2				○			1年後期	
	2L1T210050	日本国憲法	講義	2		2	2		2				○			1年後期	
	2L1E210150	文章言語表現	講義	2		2			2			○				1年前期	
	2L1E210160	キャリア学習	講義	2		2			2					○		2年前期	
	2L1E210170	食と健康	講義	2		2			2				○			1年後期	
	2L2C270010	英語(英会話)Ⅰ	演習	1	1		1		1				○			1年前期	
	2L2C270011	英語(英会話)Ⅱ	演習	1	1		1		1					○		1年後期	
	2L1C280010	健康スポーツⅠ	講義	1	1		1		1				○			1年前期	
	2L3C280011	健康スポーツⅡ	実技	1	1		1		1				○	○		1年後期	
専 門 科 目	4B1C310010	教職概論	講義	2	2		2		2				○			1年後期	
	4B1N310020	保育原理	講義	2		2			2		2					1年後期	
	4B1C310030	教育原理	講義	2	2		2		2				○			1年前期	
	4B1N310040	子ども家庭福祉	講義	2		2			2	2				○		2年前期	
	4B1N310050	社会福祉	講義	2		2			2	2		○				1年前期	
	6A2N310060	子育て支援	演習	1		1			1	1				○		2年前期	
	4B1N310070	社会的養護Ⅰ	講義	2		2			2	2			○			1年後期	
	6A2N310071	社会的養護Ⅱ	演習	1		1			1	1				○		2年前期	
	5B1C310080	子どもの心理	講義	2	2		2		2				○			1年前期	
	5B1N310090	子ども家庭支援の心理学	講義	2		2			2	2			○			1年前期	
	5B2N310100	子どもの理解と援助	演習	1		1			1					○		1年後期	
	5B1N310110	子どもの保健	講義	2		2			2	2				○		1年後期	
	6A2N310120	子どもの健康と安全	演習	1	1		1		1	1				○		2年前期	
	5B2N310130	子どもの食と栄養Ⅰ	演習	1		1			1					○		2年前期	
	5A2N310131	子どもの食と栄養Ⅱ	演習	1		1			1						○	2年後期	
	4B1N310140	子ども家庭支援論	講義	2		2			2	2					○	2年後期	
	6B1C310150	教育課程論	講義	2	2		2		2					○		2年前期	
	5B2C310160	特別支援を必要とする子どもの理解A	演習	1	1		1		1	1		○				1年前期	
	5A2C310161	特別支援を必要とする子どもの理解B	演習	1		1			1	1					○	2年後期	
	6B1C310170	幼児と健康	講義	1		1			1					○		2年前期	
	6B1C310180	幼児と人間関係	講義	1		1			1				○			1年前期	
	6B1C310190	幼児と環境	講義	1		1			1					○		1年後期	
	6B1C310200	幼児と言葉	講義	1		1			1						○	2年前期	
	6B1C310210	幼児と表現	講義	1		1			1				○			1年前期	
	7B2C310220	保育内容総論	演習	1	1		1		1	1			○			1年前期	
	7A2C310230	保育内容(健康)の指導法	演習	1	1		1		1						○	2年後期	
	7A2C310240	保育内容(人間関係)の指導法	演習	1	1		1		1						○	2年前期	
	7A2C310250	保育内容(環境)の指導法	演習	1	1		1		1						○	2年前期	
	7A2C310260	保育内容(言葉)の指導法	演習	1	1		1		1						○	2年後期	
	7A2C310270	保育内容(表現A)の指導法	演習	1	1		1		1						○	2年前期	
	7A2C310271	保育内容(表現B)の指導法	演習	1		1			1					○		1年後期	
	6B1N310280	乳児保育Ⅰ	講義	2		2			2				○			1年前期	
	6A2N310281	乳児保育Ⅱ	演習	1		1			1					○		1年後期	
	6B1C310290	教育方法	講義	2		2	2		2						○	2年前期	
	5A1C310310	幼児理解と教育相談	講義	2		2	2		2						○	2年後期	
	6B2N310320	ピアノⅠ	演習	1		1			1				○			1年前期	
	6B2N310321	ピアノⅡ	演習	1		1			1					○		1年後期	
	6A2N310330	伴奏法Ⅰ	演習	1		1			1						○	2年前期	
	6A2N310331	伴奏法Ⅱ	演習	1		1			1						○	2年後期	
	6B2N310360	図画工作	演習	1		1			1					○		1年前期	
	6A2N310370	幼児体育	演習	1		1			1						○	2年後期	
	6B2N310380	言語遊び	演習	1		1			1					○		1年後期	
	8P4T310390	教育実習Ⅰ	実習	2		2	2								○	2年後期	
	8P4T310400	教育実習Ⅱ	実習	2		2	2								○	2年後期	
	8G2T310410	教育実習指導	演習	1		1	1							○	○	2年後期	
	8P4N310420	保育実習Ⅰ(保育所)	実習	2		2			2					○	○	2年前期	
	8P4N310430	保育実習Ⅰ(施設)	実習	2		2			2					○	○	2年前期	
	8G2N310455	保育実習指導Ⅰ	演習	2		2			2					○	○	1年後期	
	8P4N310460	保育実習Ⅱ(保育所)	実習	2		2				2					○	○	2年後期
	8P4N310470	保育実習Ⅲ(施設)	実習	2		2					2				○	○	2年後期
8G2N310480	保育実習指導Ⅱ(保育所)	演習	1		1					1				○	○	2年後期	
8G2N310490	保育実習指導Ⅲ(施設)	演習	1		1									○	○	2年後期	
8A2C310500	保育・教職実践演習(幼稚園)	演習	2		2	2		2							○	2年後期	
6B1T310511	情報処理論	講義	1	1		1							○			1年前期	
6A2T310520	情報処理演習	演習	1		1	1							○	○		1年後期	
3B1T310530	心の教育	講義	2		2	2									○	2年後期	
3B1F310540	真宗保育	講義	2		2										○	2年後期	
6B1F310550	医学一般	講義	2		2					2				○		2年前期	
3B2F310560	ゼミナールⅠ	演習	1		1								○			1年前期	
3A2F310561	ゼミナールⅡ	演習	1		1								○			1年後期	
3A2F310562	ゼミナールⅢ	演習	1		1									○		2年前期	
3A2F310563	ゼミナールⅣ	演習	1		1										○	2年後期	

※1「ピアノⅠ」・「ピアノⅡ」については1単位以上単位を取得しなければならない。ただし、「ピアノⅠ」を履修しなければ「ピアノⅡ」の履修はできない。

※2「伴奏法Ⅰ」・「伴奏法Ⅱ」については1単位以上単位を取得しなければならない。ただし、「伴奏法Ⅰ」を履修しなければ「伴奏法Ⅱ」の履修はできない。

科目ナンバリングについて



【学問領域・分野コード】(1桁の数字)

区分	コード
建学の精神	1
社会人としての教養	2
独自の科目	3
保育・教育の本質・目的	4
保育・教育の対象の理解	5
保育・教育の内容・方法	6
指導法	7
実習・総合演習	8

【レベル等コード】(1文字のアルファベット)

区分	コード
基礎・基本 (Basic)	B
深化・応用 (Advanced)	A
教養科目 (Liberal arts Subjects)	L
実習指導 (Guidance)	G
実習 (Practice)	P

※いずれにも当てはまらないもの「F」

【授業形態コード】(1桁の数字)

区分	コード
講義	1
演習	2
実技	3
実習	4
他の形態	5

【免許・資格科目コード】(1文字のアルファベット)

区分	コード
教職課程必修科目 (Teaching Subjects)	T
保育士必修科目 (Nursery teacher training Subjects)	N
共通科目 (Common Subjects)	C
選択科目 (Elective Subjects)	E

※いずれにも当てはまらないもの「F」

【科目コード】(6桁の数字)

科目 ID

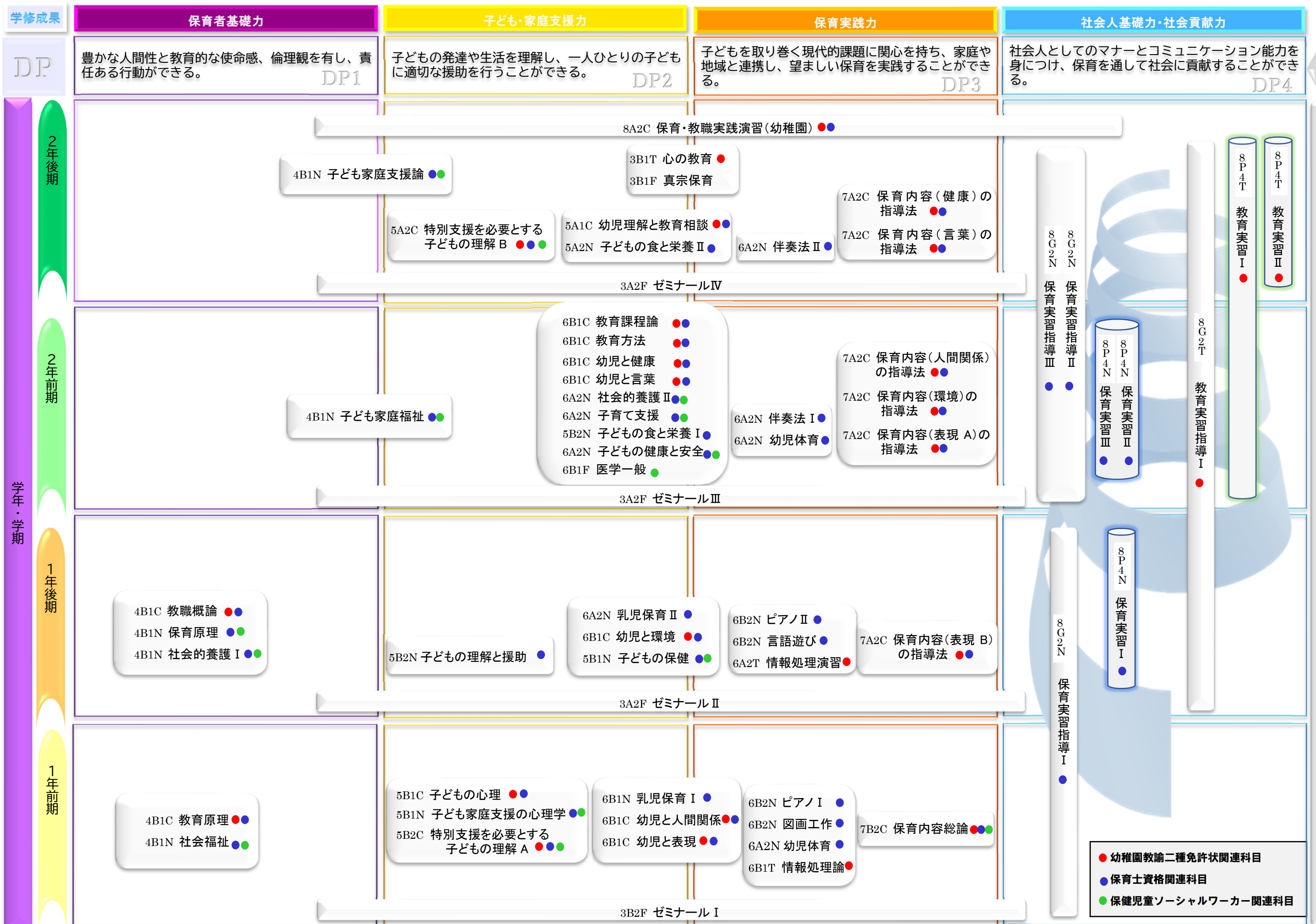
成績評価基準について

1. 成績の評価は、シラバスに明記された評価の方法に基づいて授業担当者が行う。
2. 成績評価の基準は、次のとおりとする。

成績	評価
100-90点	秀 (AA)
89-80点	優 (A)
79-70点	良 (B)
69-60点	可 (C)
59-0点	不可 (D) …不合格

3. 各授業科目は授業総時間数の三分の二以上の出席をもって履修したものとする。
4. 追・再試験については別に定め、「学生生活のしおり」P25に明記している。

カリキュラム・ツリー (令和6年度)



- 幼稚園教諭二種免許状関連科目
- 保育士資格関連科目
- 保健児童ソーシャルワーカー関連科目

2L 基礎科目(一般教養科目・外国語科目・体育・スポーツ科目)
1L2F アセンブリーアワー(礼拝)

2年後期
2年前期
1年後期
1年前期
学年・学期

特設科目

1L2F100010		授業科目名 (英文名)		アセンブリーアワー (礼拝) (Assembly Hour (worship))		関係資格		幼稚園教諭二種免許状 保育士資格	
学年	1・2年	学期	2年間	卒業 必修・選択	必修	単位数	1	授業形態	演習
担当教員名		緒方 義英			担当形態		単独		
メールアドレス		ogata@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		月～木曜日 16:30～17:00		
【授業の概要】 建学の精神を具現化する科目の一つとして、「心豊かな人間の形成」を目的とした宗教的情操教育の時間とするべく、音楽礼拝と講話で授業を構成する。									
【授業の到達目標】 (1)受講者一人ひとりが、如来の智慧と慈悲について学び、いのちの尊厳、生かされて生きていることへの慶び、感謝の心などについて考え、それを言葉（文章）で表現することができる。 (2)東九州短期大学の建学の精神を自らのものとして理解し、述べることができる。 (3)自分自身の内面（人格的側面や心理的な側面）について見つめ直すことができる。									
【本科目と学修成果との関連】			知識・技能		思考力・判断力・表現力		態度・志向性		
I：保育者基礎力									
II：子ども・家庭支援力									
III：保育実践力					○		○		
IV：社会人基礎力・社会貢献力					◎		○		
【アクティブラーニング】			知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造
			—		○		—		—
			<具体的な方法> 聖歌の歌唱						
学修成果のフィードバック			レポートは次回授業前に返却する。						
【成績評価の方法及び基準】			定期試験 (%)	課題・作品・ レポート (100%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
学修成果 I	知識・技能								
	思考力・判断力・表現力								
	態度・志向性								
学修成果 II	知識・技能								
	思考力・判断力・表現力								
	態度・志向性								
学修成果 III	知識・技能								
	思考力・判断力・表現力			○					
	態度・志向性			○					
学修成果 IV	知識・技能								
	思考力・判断力・表現力			○					
	態度・志向性			○					

実務経験	有	高等学校教員（宗教）、浄土真宗本願寺派教師として活動
実務経験をいかした教育内容		浄土真宗本願寺派の教師として礼拝作法を指導
担当教員以外で指導に関わる実務経験者		浄土真宗本願寺派の僧侶、教育者、有識者など
テキスト・参考図書・参考資料		〈参考図書〉 『聖典 聖歌』、『さとの知恵を読む』（仏教伝道協会）
授業計画	授業項目	授業内容
第1回	1年次オリエンテーション	授業の概要、礼拝時の作法、聴聞の姿勢について説明（1年次・4月）
第2回	花祭り・宗祖降誕会	釈尊の誕生を祝う「花祭り」と親鸞聖人の誕生を祝う「降誕会」を併修（1年次・5月）
第3回	定期礼拝	音楽礼拝と講話による法会（1年次・6月）
第4回	定期礼拝	音楽礼拝と講話による法会（1年次・7月）
第5回	定期礼拝	音楽礼拝と講話による法会（1年次・10月）
第6回	定期礼拝	音楽礼拝と講話による法会（1年次・11月）
第7回	報恩講	親鸞聖人の恩徳に報いる法要（1年次・12月）
第8回	追悼会	本学の関係物故者追悼の法会（1年次・1月）
第9回	2年次オリエンテーション	礼拝時の作法、聴聞の姿勢について（2年次・4月）
第10回	花祭り・宗祖降誕会	釈尊の誕生を祝う「花祭り」と親鸞聖人の誕生を祝う「降誕会」を併修（2年次・5月）
第11回	定期礼拝	音楽礼拝と講話による法会（2年次・6月）
第12回	定期礼拝	音楽礼拝と講話による法会（2年次・7月）
第13回	定期礼拝	音楽礼拝と講話による法会（2年次・10月）
第14回	定期礼拝	音楽礼拝と講話による法会（2年次・11月）
第15回	報恩講	親鸞聖人の恩徳に報いる法要（2年次・12月）
第16回	追悼会	本学の関係物故者追悼の法会（2年次・1月）
定期試験は実施しない。		
準備学修	サブテキスト「さとの知恵を読む」を一読しておく。（各回 1h）	
事後学修	所定のレポート用紙に講話要旨と感想を書き、指定された期日までに提出する。（各回 1h）	
注意事項	聖典と念珠を持参し、礼拝行事に相応しい服装で出席すること。	
備考	各回の授業内容と連絡事項は事前に掲示で確認しておくこと。	

基礎科目

2L1N210010		授業科目名 (英文名)		宗教学 I (Religious Studies I)		関係資格		幼稚園教諭二種免許状 保育士資格		○
学年	1年	学期	前期	卒業 必修・選択	必修	単位数	2	授業形態	講義	
担当教員名		緒方 義英			担当形態		単独			
メールアドレス		ogata@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		月～木曜日 16:30～17:00			
【授業の概要】										
本授業では、前半で原始宗教、民族宗教、世界宗教を取り上げ、それぞれの特色から「宗教の本質と意義」について考察する。後半では、釈尊の生涯と教えを取り上げて、人生苦の問題とその解決法について考察する。講義は、担当教員の用意するプリントを中心に進めるが、適宜、DVD等の視聴覚教材を用いる。										
【授業の到達目標】										
宗教、特に仏教に関する基礎的な教義の理解を通して、本学の「建学の精神」である大乘仏教の精神に触れ、心豊かな社会性のある人格を涵養する。										
(1)宗教の本質と意義について考えることができる。										
(2)世界の多様な思想について、柔軟で、幅広い見方ができる。										
(3)釈尊の求道について説明することができる。										
【本科目と学修成果との関連】			知識・技能		思考力・判断力・表現力			態度・志向性		
I：保育者基礎力										
II：子ども・家庭支援力										
III：保育実践力										
IV：社会人基礎力・社会貢献力			◎		○			○		
【アクティブラーニング】			知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造	
			○		-		-		○	
			<具体的な方法> 対話型授業							
学修成果のフィードバック			課題は次回授業時に返却する。							
【成績評価の方法及び基準】			定期試験 (70%)	課題・作品・ レポート (30%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
学修成果 I	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修成果 II	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修成果 III	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修成果 IV	知識・技能		○	○						
	思考力・判断力・表現力		○							
	態度・志向性		○							

実務経験	有	高等学校教員（宗教） 浄土真宗本願寺派教師
実務経験をいかした教育内容		浄土真宗本願寺派教師の立場で日常的に法話をしており、その経験を生かして授業内容を工夫する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者		—
テキスト・参考図書・参考資料		〈テキスト〉 『仏教聖典』（仏教伝道協会）、『さとの知恵を読む』（仏教伝道協会）、『真宗保育の基礎』（真宗保育学会）、担当者が配布する教材
授業計画	授業項目	授業内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要と学修成果の説明、建学の精神、浄土真宗の教章
第2回	宗教とは何か	宗教の本質と原始的宗教（課題1）
第3回	さまざまな宗教1	民族宗教① インドの宗教：バラモン教とジャイナ教
第4回	さまざまな宗教2	民族宗教② アラブの宗教：ユダヤ教（課題2）
第5回	さまざまな宗教3	民族宗教③ 東アジアの宗教 道教・儒教・神道（課題3）
第6回	さまざまな宗教4	世界宗教 キリスト教とイスラム教（課題4）
第7回	釈尊の生涯1	釈尊の誕生① 釈尊の周辺と時代背景
第8回	釈尊の生涯2	釈尊の誕生② 降誕伝説（課題5）
第9回	釈尊の生涯3	釈尊の誕生③ 三界と六道（課題6）
第10回	釈尊の生涯4	釈尊の求道① 四門出遊
第11回	釈尊の生涯5	釈尊の求道② 出家と修行（課題7）
第12回	釈尊の生涯6	釈尊の成道① 降魔成道（課題8）
第13回	釈尊の生涯7	釈尊の成道② 初転法輪（課題9）
第14回	釈尊の生涯8	釈尊の入滅 DVD「釈尊の生涯」鑑賞（課題10）
第15回	総括	これまでの授業内容の振り返り
定期試験		
準備学修	授業計画に示す項目について、テキストの当該ページを一読しておく。（各回1h）	
事後学修	授業計画に示す課題に向けて講義内容を振り返り、整理しておく。（各回1h）	
注意事項	配布する教材プリント、返却する課題及びレポートはファイリングしておくこと。	
備考	—	

2L1E210011		授業科目名 (英文名)		宗教学Ⅱ (Religious StudiesⅡ)		関係資格		幼稚園教諭二種免許状 保育士資格		△
学年	1年	学期	後期	卒業 必修・選択	選択	単位数	2	授業形態	講義	
担当教員名		緒方 義英			担当形態		単独			
メールアドレス		ogata@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		月～木曜日 16:30～17:00			
【授業の概要】 本授業では、前半で仏教の根本思想を取り上げて、仏教教義の特徴について考察する。後半では親鸞聖人の生涯を辿りながら、その求道と思想について取り上げる。授業は、担当教員の用意するプリントを中心に進めるが、適宜、DVD等の視聴覚教材を用いる。										
【授業の到達目標】 親鸞聖人の生涯と教えを通して、宗教的な価値観と世俗的な価値観を比較・検討し、人間の本当に拠り所とすべき「真実の教え」とは何かを問いながら、宗教の本質について考察する。 (1) 仏教の本質を理解し、説明することができる。 (2) 浄土真宗と他の仏教の違いについて説明することができる。										
【本科目と学修成果との関連】			知識・技能		思考力・判断力・表現力		態度・志向性			
Ⅰ：保育者基礎力										
Ⅱ：子ども・家庭支援力										
Ⅲ：保育実践力										
Ⅳ：社会人基礎力・社会貢献力			◎		○		○			
【アクティブラーニング】			知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造	
			○		-		-		-	
			<具体的な方法> 対話型授業							
学修成果のフィードバック			課題は次回授業時に返却する。							
【成績評価の方法及び基準】			定期試験 (60%)	課題・作品・ レポート (40%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
学修成果Ⅰ	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修成果Ⅱ	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修成果Ⅲ	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修成果Ⅳ	知識・技能		○	○						
	思考力・判断力・表現力		○	○						
	態度・志向性		○							

実務経験	有	高等学校教員（宗教） 浄土真宗本願寺派教師
実務経験をいかした教育内容		浄土真宗本願寺派教師の立場で日常的に法話をしており、その経験をいかして授業内容を工夫する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者		—
テキスト・参考図書・参考資料		〈テキスト〉 『仏教聖典』（仏教伝道協会）、『さとの知恵を読む』（仏教伝道協会）、『真宗保育の基礎』（真宗保育学会）、担当教員が配布する教材
授業計画	授業項目	授業内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要と学修成果の説明、浄土真宗の教章について
第2回	仏教とは何か1	仏教の本質について ～ 転迷開悟/智慧と慈悲 ～
第3回	仏教とは何か2	仏教の根本教理① ～ 四法印と縁起1 ～ （課題1）
第4回	仏教とは何か3	仏教の根本教理② ～ 四法印と縁起2 ～
第5回	仏教とは何か4	抜苦与楽の法① ～ 四諦八正道 1 ～ （課題2）
第6回	仏教とは何か5	抜苦与楽の法② ～ 四諦八正道 2 ～
第7回	親鸞聖人の生涯と教え1	抜苦与楽の法③ ～ 四諦八正道 3 ～ （課題3）
第8回	親鸞聖人の生涯と教え2	誕生から出家まで （課題4）
第9回	親鸞聖人の生涯と教え3	比叡山での修行
第10回	親鸞聖人の生涯と教え4	吉水での生活 （課題5）
第11回	親鸞聖人の生涯と教え5	法難と流罪 （課題6）
第12回	親鸞聖人の生涯と教え6	伝道と執筆活動
第13回	親鸞聖人の生涯と教え7	往生浄土 （課題7）
第14回	親鸞聖人の生涯と教え8	DVD「親鸞聖人の見た風景」 レポート提出 （課題8）
第15回	まとめ	これまでの授業内容の振り返り
定期試験		
準備学修	授業計画に示す項目について、テキストの当該ページを一読しておく。（各回 1h）	
事後学修	授業計画に示す課題に向けて講義内容を振り返り、整理しておく。（各回 1h）	
注意事項	配布する教材プリント、返却する課題はファイリングしておくこと。	
備考	—	

2L1T210050		授業科目名 (英文名)		日本国憲法 (The Constitution of Japan)		関係資格		幼稚園教諭二種免許状 保育士資格		○ △
学年	1年	学期	後期	卒業 必修・選択	選択	単位数	2	授業形態	講義	
担当教員名		桑原 広治			担当形態		単独			
メールアドレス		kuwahara@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		月・木			
【授業の概要】 権力制限規範としての憲法の意義について説明し、日本国憲法の基本原理、特に保育者として理解しておくべき人権保障の意義と限界について具体的事例を題材にして解説する。										
【授業の到達目標】 (1) 日本国憲法についての基礎的知識を習得し、説明することができる。 (2) 日本国憲法を学ぶことを通じて法的思考の基礎を身につけ、表現することができる。 (3) 人権意識の醸成、他者への思いやりの心を醸成し、表現することができる。										
【本科目と学修成果との関連】			知識・技能		思考力・判断力・表現力		態度・志向性			
I：保育基礎力			○		○		○			
II：子ども・家庭支援力			○		○					
III：保育実践力										
IV：社会人基礎力・社会貢献力			◎		◎		◎			
【アクティブラーニング】			知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造	
			○		○		—		○	
			<具体的な方法> コミュニケーション、アウトプット、グループワーク、ディスカッション							
学修成果のフィードバック			・毎時の振り返りシートを随時、取り上げ、共有化を図る							
【成績評価の方法及び基準】			定期試験 (40%)	発表 (30%)	コメントシート (30%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
学修成果Ⅰ	知識・技能		○	○	○					
	思考力・判断力・表現力		○	○	○					
	態度・志向性			○						
学修成果Ⅱ	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修成果Ⅲ	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修成果Ⅳ	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性			○						

実務経験	有	小学校教員
実務経験をいかした教育内容	「保・幼・小」の具体的事例を踏まえて「理論と実践の往還」をめざし、教育への理解と実践的指導力について学ぶ。	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	—	
テキスト・参考図書・参考資料	<p>〈テキスト〉『教育小六法』晃洋書房</p> <p>※国語辞書（紙の辞書）は、各自持参すること。</p> <p>他、適宜プリントを配布する。</p> <p>〈参考図書〉『いちばんやさしい憲法入門（第6版）』有斐閣アルマ、『憲法判例百選Ⅰ、Ⅱ（第7版）』</p>	
授業計画	授業項目	授業内容
第1回	オリエンテーション 憲法総論	授業概要・授業計画・授業形態・評価方法の説明・辞書（紙の辞書）の活用・教育小六法の活用 法と立憲主義、天皇制、国民主権
第2回	憲法総論、人権の限界	平和主義、基本的人権の保障とその限界（公共の福祉による人権の制約）と、私人間における人権の侵害に対する憲法の適用について（私人間効力）
第3回	人権の享有主体	子どもや外国人等の人権の保障とその限界
第4回	新たな人権	プライバシー権や自己決定権など憲法に直接明記されていない権利の保障の可否および限界について
第5回	法の下での平等	法の下での平等の意味と内容および、差別を是正するための人権制約の限界について
第6回	精神的自由1	思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由について
第7回	精神的自由2	表現の自由について
第8回	経済的自由	職業選択の自由、営業の自由、居住・移転の自由、財産権について
第9回	社会権	生存権、教育権を始めとする社会権の内容とその限界について
第10回	人身の自由、受益権、参政権	人身の自由の保障とその限界について、裁判を受ける権利を始めとする受益権や、参政権など
第11回	統治機構、国会	権力分立について三権（立法、行政、司法）との関わりを理解する。国会については、両院制や、国会の地位を通じて理解を深める。
第12回	内閣	議院内閣制、内閣の権能と内閣の責任について
第13回	裁判所	裁判所の地位と性格、司法権の概念や司法権の独立
第14回	財政、地方自治、憲法改正	財政の基本原則について。地方自治の意義や性質、条例など 憲法改正の手続およびその限界について
第15回	まとめ、問題演習	今まで学んだところを問題演習を通じて理解を深める
定期試験		
準備学修	次回講義の展開を予測しつつ、キーワードを調べる等、主体的に取り組むこと。（各回1h）	
事後学修	配布資料や講義ノートを用いて授業内容の理解度を深める。（各回1h）	
注意事項	授業はパワーポイントで進める。条文の音読、メモの習慣化、講義ノートを意識する。	
備考	新聞記事等を毎回配布するので、可能な限り目を通しておく。国語辞書（紙の辞書）は必ず持参する。	

2L1E210150		授業科目名 (英文名)		文章言語表現 (Japanese Phrases for Written Communication)			関係資格		幼稚園教諭二種免許状 保育士資格		△
学年	1年	学期	前期	卒業 必修・選択	選択	単位数	2	授業形態	講義		
担当教員名		桑原 広治			担当形態		単独				
メールアドレス		kuwahara@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		月・木				
【授業の概要】 保育者にとって、文章を書くということは不可欠であり、基礎的な文章力を備えていることが求められる。本講義では、小学校国語科の目標及び内容を手がかりに保育者として必要な正しく書く文章力と、よりよく伝えるための文章表現力の基礎を養っていく。											
【授業の到達目標】 (1)社会人として必要な言葉や敬語の意味・使い方を理解し、適切に使うことができる。 (2)主張、根拠、対立意見、対立意見への反論を入れて意見文を書くことができる。 (3)保育の観察記録や手紙、連絡の文章を書くことができる。											
【本科目と学修成果との関連】			知識・技能		思考力・判断力・表現力		態度・志向性				
I：保育基礎力			◎		○		○				
II：子ども・家庭支援力											
III：保育実践力											
IV：社会人基礎力・社会貢献力											
【アクティブラーニング】			知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造		
			○		○		-		○		
			<具体的な方法> コミュニケーション、アウトプット、グループワーク、ディスカッション								
学修成果のフィードバック			・毎時の振り返りシートをスライドにして取り上げ共有化を図る。								
【成績評価の方法及び基準】			定期試験 (30%)		発表 (30%)		コメントシート (40%)		(%)		(%)
学修成果 I	知識・技能		○		○						
	思考力・判断力・表現力				○		○				
	態度・志向性										
学修成果 II	知識・技能										
	思考力・判断力・表現力										
	態度・志向性										
学修成果 III	知識・技能										
	思考力・判断力・表現力										
	態度・志向性										
学修成果 IV	知識・技能										
	思考力・判断力・表現力										
	態度・志向性										

実務経験	有	小学校教員
実務経験をいかした教育内容		「保・幼・小」の具体的事例を踏まえて「理論と実践の往還」をめざし、教育への理解と実践的指導力について学ぶ。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者		—
テキスト・参考図書・参考資料		〈テキスト〉 文部科学省「小学校学習指導要領解説国語編」（東洋館出版）
授業計画	授業項目	授業内容
第1回	オリエンテーション	授業概要・授業計画・授業形態・評価方法の説明、国語の歴史と国語の概観・辞書（紙の辞書）の活用について
第2回	「話すこと・聞くこと」①	小学校国語科における「話すこと・聞くこと」の目標依及び内容の目標および内容、グループワークの基礎
第3回	「話すこと・聞くこと」②	アウトプットとインプットについて
第4回	「書くこと」①・「読むこと」①	小学校国語科における「書くこと」「読むこと」の目標及び内容、国語の文字・語彙・文法・文章・敬語・方言について①
第5回	「書くこと」②・「読むこと」②	国語の文字・語彙・文法・文章・敬語・方言について② 時事問題・読解力・要約力・考察力①
第6回	「書くこと」③・「読むこと」③ のフィードバック	文章を中心に、具体的な実践場面での「読むこと」の指導 時事問題・読解力・要約力・考察力②
第7回	「話すこと・聞くこと」③	TPOに応じた話し方・聞き方① 模擬授業における「話し方・聞き方」①
第8回	「話すこと・聞くこと」④	TPOに応じた話し方・聞き方② 模擬授業における「話し方・聞き方」②
第9回	「読むこと」④・「話すこと・聞くこと」⑤	グループワークにおける「司会力」「質問力」について プレゼンテーションにおける話し方、聞き方
第10回	「書くこと」④・「読むこと」⑤	国語の文字・語彙・文法・文章・敬語・方言について②フィードバック
第11回	「書くこと」⑤・「読むこと」⑥	TPOに応じた書き方・読み方
第12回	「話すこと・聞くこと」⑥・「書くこと」⑥・「読むこと」⑦	実習関連文書 実習日誌、指導案、連絡帳、クラスだよりなど
第13回	「話すこと・聞くこと」⑦・「書くこと」⑦・「読むこと」⑧	幼児期から小学校への学びの連続性①
第14回	「話すこと・聞くこと」⑧・「書くこと」⑧・「読むこと」⑨	幼児期から小学校への学びの連続性②
第15回	まとめ	振り返りレポートをもとにフィードバック
定期試験		
準備学修	指示された資料を読んで予習する。（各回 1h）	
事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎時、振り返りレポートを提出する。 ・ 配布資料や講義ノートを用いて講義内容を深める。（各回 1h） 	
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義はパワーポイントで進める。 	
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 辞書（紙の辞書）は必ず準備する。 ・ 新聞記事を毎時間配布する。 	

2L1E210160		授業科目名 (英文名)		キャリアプランニング (Career Planning)			関係資格		幼稚園教諭二種免許状 保育士資格		△
学年	2年	学期	前期	卒業 必修・選択	選択	単位数	2	授業形態	講義		
担当教員名		緒方 義英			担当形態		単独				
メールアドレス		ogata@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		月～木曜日 16:30～17:00				
【授業の概要】											
初回の授業でキャリアプランニング法の概要について説明をし、第2回目以降の授業で、それに必要なノウハウや情報を取り上げていく。さらに、就職講座として、社会人に必要なマナー・知識・能力、就職試験に必要な準備、労働者の義務と権利、福利厚生などについても取り上げる。											
【授業の到達目標】											
(1)キャリアプランニングの意味を理解し、その重要性について説明することができる。											
(2)職業にたいする中長期的な展望を持ち、具体的な職業設計(キャリアプラン)を立てることができる。											
(3)社会人、職業人に必要とされる知識や能力について理解を深め、労働者の権利について説明することができる。											
【本科目と学修成果との関連】			知識・技能			思考力・判断力・表現力			態度・志向性		
I: 保育者基礎力											
II: 子ども・家庭支援力											
III: 保育実践力											
IV: 社会人基礎力・社会貢献力			○			○			◎		
【アクティブラーニング】			知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造		
			-		-		○		○		
			<具体的な方法>対話型授業								
学修成果のフィードバック			課題は次回授業時に返却する。								
【成績評価の方法及び基準】			定期試験 (%)	課題・作品・ レポート (100%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	
学修成果 I	知識・技能										
	思考力・判断力・表現力										
	態度・志向性										
学修成果 II	知識・技能										
	思考力・判断力・表現力										
	態度・志向性										
学修成果 III	知識・技能										
	思考力・判断力・表現力										
	態度・志向性										
学修成果 IV	知識・技能			○							
	思考力・判断力・表現力			○							
	態度・志向性			○							

実務経験	無	—
実務経験をいかした教育内容		—
担当教員以外で指導に関わる実務経験者		外部講師
テキスト・参考図書・参考資料		〈テキスト〉なし 担当教員が配布する教材プリント
授業計画	授業項目	授業内容
第1回	キャリアプランニングとは	キャリアプランニングの必要性和キャリアアップについて
第2回	社会人に求められる能力とは	職業能力について 保育者の職場（保育園・幼稚園・認定こども園）
第3回	労働者の義務と権利 I	労働基準法について（1）（課題1「保育園と幼稚園の違い」）
第4回	労働者の義務と権利 II	労働基準法について（2）
第5回	職業ハラスメント	ハラスメント（課題2「労働基準法1」）
第6回	就職講座 ①	ワークルール 出前講座（外部講師招聘） レポート課題
第7回	労働者の義務と権利 III	社会保険について知る（課題3「労働基準法2+ハラスメント」）
第8回	労働者の義務と権利 IV	納税について1（課題4「社会保険」）
第9回	労働者の義務と権利 V	納税について2
第10回	就職講座 ②	租税教室（外部講師） レポート課題 ※時期変更の可能性あり
第11回	就職対策 I	求人票の見方 就職試験に向けた準備（課題5「納税」）
第12回	就職対策 II	面接対策、履歴書の作成法
第13回	就職講座 ③	生命保険教室（外部講師） レポート課題 ※時期変更の可能性あり
第14回	社会人としての常識	ビジネスマナーについて
第15回	まとめ	キャリアプランニングする（課題6「面接+ビジネスマナー」）
定期試験は実施しない。		
準備学修	自身のキャリアプランニング作成に向けた取り組みと課題に向けた学習をする。（各回 1h）	
事後学修	配布された教材プリントをまとめ、理解を深める。（各回 1h）	
注意事項	配布された教材プリント、返却する課題プリントはファイリングしておくこと。	
備考	就職講座は、講師の都合によって実施日の変更あり。	

2L1E210170		授業科目名 (英文名)		食と健康 (Food and Health)		関係資格	幼稚園教諭二種免許状 保育士資格		△
学年	1年	学期	後期	卒業 必修・選択	選択	単位数	2	授業形態	講義
担当教員名		麻生 愛子			担当形態		単独		
メールアドレス		asou@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		平日放課後(～17:00まで)		
【授業の概要】 成長期から老年期までの各ライフステージにおける食生活のあり方について、どのような食事をどれくらい摂ったらよいのか等、対象者の特性に応じた食生活面のポイントを理解する。さらに調理や献立作成についての基本的な考え方や、アンケート調査を行うための方法を学ぶ。									
【授業の到達目標】 (1)各ライフステージにおいて健康な食生活を送るために必要な基礎知識を述べることができる。 (2)自分の生活活動レベルやBMI(肥満度)の計算ができる。 (3)食事バランスガイドについて理解し、自分の食生活に活かすことができる。 (4)アンケート調査の一連の流れを理解し、アンケート用紙や報告書を作成することができる。									
【本科目と学修成果との関連】		知識・技能			思考力・判断力・表現力		態度・志向性		
I: 保育者基礎力		○							
II: 子ども・家庭支援力									
III: 保育実践力									
IV: 社会人基礎力・社会貢献力		◎			○				
【アクティブラーニング】		知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造	
		○		○		-		-	
		<具体的な方法> グループワークでアンケート調査を実施し、報告書をまとめて発表する。							
学修成果のフィードバック		受講記録シートは、可能な限り次回授業時に返却する。							
【成績評価の方法及び基準】		定期試験 (%)	課題・作品・ レポート (30%)	発表 (10%)	受講記録 シート提出 (60%)	(%)	(%)		
学修成果 I	知識・技能		○						
	思考力・判断力・表現力								
	態度・志向性								
学修成果 II	知識・技能								
	思考力・判断力・表現力								
	態度・志向性								
学修成果 III	知識・技能								
	思考力・判断力・表現力								
	態度・志向性								
学修成果 IV	知識・技能		○						
	思考力・判断力・表現力			○	○				
	態度・志向性								

実務経験	無	—
実務経験をいかした教育内容		—
担当教員以外で指導に関わる実務経験者		—
テキスト・参考図書・参考資料	〈テキスト〉なし（適宜、学習プリント配布） 〈参考図書〉堤ちはる、土井正子編著者『子育て・子育てを支援する子どもの食と栄養』萌文書林	
授業計画	授業項目	授業内容
第1回	オリエンテーション	講義内容と授業計画について、栄養の基礎知識について
第2回	妊産婦の食生活	妊婦の食事、授乳期の食事
第3回	乳児期・幼児期の食生活	離乳期・乳児期の食事
第4回	学童期・思春期の食生活	学校給食、小児の疾病と食生活
第5回	成人期の食生活（1）	青年期・壮年期の食生活（生活習慣病について、BMI 計算）
第6回	成人期の食生活（2）	身体活動レベルと消費エネルギーの算出
第7回	成人期の食生活（3）	食事バランスガイドの活用について
第8回	老年期の食生活	老年期の食事（骨粗鬆症予防など）
第9回	調理の基礎	調理の基本、献立作成の意義
第10回	食に関する調査・研究方法について（1）	調査・研究のための基礎知識（アンケートの基本）
第11回	食に関する調査・研究方法について（2）	調査・研究のための基礎知識（計画・立案）
第12回	食に関する調査・研究方法について（3）	調査・研究のための情報収集の方法（実施・集計）
第13回	食に関する調査・研究方法について（4）	調査・研究のための情報収集の方法（評価）
第14回	食に関する調査・研究方法について（5）	調査結果のまとめ方について
第15回	食に関する調査・研究報告書まとめ	調査内容についてのプレゼンテーションの方法
定期試験は実施しない。		
準備学修	第6回は自分の1日(24h)の行動(分単位)を前もって記録しておくこと。(10min 程度) 第7回は、前日の自分の食事を記録しておくこと。(10min 程度) 第10回～15回は、作業が遅れないように、各自空き時間等に準備をすること。(30min～1h)	
事後学修	配布資料や返却された受講記録シートを確認し、講義内容の理解を深める。(30min～1h) また、講義資料をファイルに整理して閉じこむ。(15～30min 程度)	
注意事項	—	
備考	—	

2L2C270010		授業科目名 (英文名)		英語(英会話) I (English I)		関係資格		幼稚園教諭二種免許状	○
								保育士資格	○
学年	1年	学期	前期	卒業 必修・選択	必修	単位数	1	授業形態	演習
担当教員名		奥田 沙千子			担当形態		単独		
メールアドレス		support@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		授業開始前 10分間		
【授業の概要】 ・教科書を使用し、4つのスキル（Reading, Writing, Speaking, Listening）を習得 ・フラッシュカード、アクティビティを活用し正しい発音、表現力を身につける ・幼児教育の現場で使用されている副教材を用いた幼児向け英語学習の模擬授業									
【授業の到達目標】 (1) 4つのスキルである読むこと、書くこと、話すこと、聴くことができる。 (2) 幼児向け英語学習の組み立て、レベルに合わせた教材の作成、指導を行うことができる。 (3) 正確なアクセントで、社会の成り立ちや自然の法則等基礎的な知識を英語で教えることができる。 (4) 英語圏の国々の習慣、風習、文化について理解し、述べることができる。									
【本科目と学修成果との関連】		知識・技能		思考力・判断力・表現力		態度・志向性			
I：保育基礎力		○		○					
II：子ども・家庭支援力									
III：保育実践力		○		◎		○			
IV：社会人基礎力・社会貢献力		○							
【アクティブラーニング】		知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造	
		○		○		○		○	
		<具体的な方法> 模擬英語指導、グループディスカッション、教材作成、グループワーク							
学修成果のフィードバック		週末課題は次回授業時に返却							
【成績評価の方法及び基準】		定期試験 (50%)	課題・作品・ レポート (10%)	発表 (10%)	模擬授業 (30%)	(%)	(%)		
学修成果 I	知識・技能	○	○						
	思考力・判断力・表現力	○	○	○	○				
	態度・志向性								
学修成果 II	知識・技能								
	思考力・判断力・表現力								
	態度・志向性								
学修成果 III	知識・技能	○			○				
	思考力・判断力・表現力	○		○	○				
	態度・志向性			○	○				
学修成果 IV	知識・技能	○	○	○					
	思考力・判断力・表現力								
	態度・志向性								

実務経験	有	保育園英語教室講師 5年
実務経験をいかした教育内容	幼児教育現場での英語指導の経験を活用し、ESL の子どもたちへの実践的な指導法の know-how を講義する。	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	-	
テキスト・参考図書・参考資料	<テキスト> 『Oxford Discover Student Book 1 2nd Edition』 (Oxford University Press) 『Magic Time 2』 (Oxford University Press)	
授業計画	授業項目	授業内容
第1回	Welcome to English Class	A description of the class. Let's introduce yourself. Greetings. Making Flash Cards A-Z.
第2回	Unit 1	Warm Up:Flash Cards Text: Social Studies:Community / Verb Be
第3回	Unit 2	Warm Up: Flash Cards Text: Story(Fiction) / This,That,These,Those
第4回	Activity 1	Animals, Aquarium, Occupations p2-19
第5回	Unit 3	Warm Up: Flash Cards Text: Poems / There is (are) ~
第6回	Unit 4	Warm Up: Flash Cards Text: Art / Prepositions of Places
第7回	Activity 2	Food, Toys, Clothes p20-35
第8回	Unit 5	Warm Up: Flash Cards Text: Life Science / Where Question
第9回	Unit 6	Warm Up: Flash Cards Text: Realistic fiction / What and Who Question
第10回	Activity 3	Time, Days of the week, Weather p36-51
第11回	Unit 7	Warm Up: Flash Cards Text: Earth Science / Simple Present with It
第12回	Unit 8	Warm Up: Flash Cards Text: Fiction / Simple Present
第13回	Activity 4	School activities, Sports and Hobbies, Rooms of a house p52-67
第14回	学期末 Activity	Classroom Activities, and ESL Games
第15回	Presentation	模擬授業
定期試験		
準備学修	次の Unit の本文を読み、未知語を調べ、次回の講義で翻訳できるようにする。(各回 1h)	
事後学修	講義内容を復習し、各講義時に配布される週末課題で確認、理解を深める。(各回 1h)	
注意事項	準備学修を必ず行い、授業中に発言を求められた際は発表できるようにする。	
備考	配布される課題及びプリントを収納するファイル (A4) を用意する。	

2L2C270011		授業科目名 (英文名)		英語 (英会話) II (English II)		関係資格		幼稚園教諭二種免許状		○
								保育士資格		○
学年	1年	学期	後期	卒業 必修・選択	必修	単位数	1	授業形態	演習	
担当教員名		奥田 沙千子			担当形態		単独			
メールアドレス		support@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		授業開始前 10分間			
【授業の概要】										
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を使用し、4つのスキル (Reading, Writing, Speaking, Listening) を習得 ・フラッシュカード、アクティビティを活用し正しい発音、表現力を身につける ・幼児教育の現場で使用されている副教材を用いた幼児向け英語学習の模擬授業及び英語での読み聞かせ 										
【授業の到達目標】										
(1) 4つのスキルである読むこと、書くこと、話すこと、聴くことができる。										
(2) 幼児向け英語学習の組み立て、レベルに合わせた教材の作成、指導を行い、読み聞かせができる。										
(3) 正確なアクセントで、社会の成り立ちや自然の法則等基礎的な知識を英語で教えることができる。										
(4) 英語圏の国々の習慣、風習、文化について理解し、述べることができる。										
【本科目と学修成果との関連】			知識・技能		思考力・判断力・表現力		態度・志向性			
I : 保育基礎力			○		○					
II : 子ども・家庭支援力										
III : 保育実践力			○		◎		○			
IV : 社会人基礎力・社会貢献力			○							
【アクティブラーニング】			知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造	
			○		○		○		-	
			<具体的な方法> 模擬授業、グループディスカッション、教材作成、グループワーク							
学修成果のフィードバック			週末課題は次回授業時に返却する							
【成績評価の方法及び基準】			定期試験 (50%)	課題・作品・ レポート (10%)	発表 (10%)	模擬授業 (30%)	(%)	(%)		
学修 成果 I	知識・技能		○	○						
	思考力・判断力・表現力		○	○	○	○				
	態度・志向性									
学修 成果 II	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修 成果 III	知識・技能				○	○				
	思考力・判断力・表現力		○		○	○				
	態度・志向性				○					
学修 成果 IV	知識・技能		○	○	○					
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									

実務経験	有	保育園英語教室講師 5年
実務経験をいかした教育内容	幼児教育現場での英語指導の経験を活用し、ESL の子どもたちへの実践的な指導法の know-how を講義する。	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	—	
テキスト・参考図書・参考資料	<テキスト> 『Oxford Discover 1 2 nd Edition』 (Oxford University Press) 『Dominoes “Crying wolf and other tales”』 (Oxford University Press)	
授業計画	授業項目	授業内容
第1回	Unit 9	Warm Up:Flash Cards , Text: Maths / Verb Have
第2回	Unit 10	Warm Up:Flash Cards , Text: Folk Tale / Questions with Have
第3回	Activity 1	Crying Wolf Part1-2, Activities
第4回	Unit 11	Warm Up:Flash Cards , Text: Fable / Verb Has
第5回	Unit 12	Warm Up:Flash Cards , Text: Economics / Questions with Has
第6回	Activity 2	The Goose with the Golden Eggs Part1-2, Activities
第7回	Unit 13	Warm Up:Flash Cards , Text: Social Studies / Possessive
第8回	Unit 14	Warm Up:Flash Cards , Text: Fable / Possessive Adjectives
第9回	Activity 3	The Bear and the Two Travellers Part1-2, Activities
第10回	Unit 15	Warm Up:Flash Cards , Text: Music / Present Continuous
第11回	Unit 16	Warm Up:Flash Cards , Text:Problems and Solutions / Present Continuous Question
第12回	Activity 4	Project A-B, Word work, Grammar
第13回	Christmas Activity	Holiday Seasons Games and Activities
第14回	総復習	Text : 9-16 Revise
第15回	Presentation	模擬授業
定期試験		
準備学修	次の Unit の本文を読み、未知語を調べ、次回の講義で翻訳できるようにする。(各回 1h)	
事後学修	講義内容を復習し、各講義時に配布される週末課題で確認、理解を深める。(各回 1h)	
注意事項	準備学修を必ず行い、授業中に発言を求められた際は発表できるようにする。	
備考	配布される課題及びプリントを収納するファイル (A4) を用意する。	

2L1C280010		授業科目名 (英文名)		健康スポーツ I (Fitness Sports I)		関係資格		幼稚園教諭免許状 保育士資格		○ ○	
学年	1年	学期	前期	卒業 必修・選択	必修	単位数	1	授業形態	講義		
担当教員名		小林 宜義			担当形態		単独				
メールアドレス		kobayashi@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		月～木曜日放課後(17:00 まで)				
【授業の概要】 近年、医療費が年々増加している。この講義では、心身の健康に及ぼす病気について理解を深めると共に、それらを未然に防ぐヘルスプロモーションについて理解を深めていく。											
【授業の到達目標】 (1) 心身の健康について様々な知識を得ることで、ヘルスプロモーションに取り組み、より健康に過ごせる可能性を模索することができる。 (2) 健康寿命の維持に務められるよう、生活の中に、運動に取り組んでいく習慣を加え、実施することができる。											
【本科目と学修成果との関連】			知識・技能			思考力・判断力・表現力			態度・志向性		
I：保育基礎力											
II：子ども・家庭支援力			○			○			○		
III：保育実践力						○					
IV：社会人基礎力・社会貢献力			◎			◎			◎		
【アクティブラーニング】			知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造		
			○		—		—		○		
			<具体的な方法> パワーポイントを活用した学習、グループディスカッション								
学修成果のフィードバック			提出課題は、次回授業時に返却する。								
【成績評価の方法及び基準】			定期試験 (50%)	課題・作品・ レポート (50%)	(%)	(%)	(%)	(%)			
学修 成果 I	知識・技能										
	思考力・判断力・表現力										
	態度・志向性										
学修 成果 II	知識・技能		○								
	思考力・判断力・表現力			○							
	態度・志向性			○							
学修 成果 III	知識・技能										
	思考力・判断力・表現力			○							
	態度・志向性										
学修 成果 IV	知識・技能		○								
	思考力・判断力・表現力			○							
	態度・志向性			○							

実務経験	有	日本健康運動指導士会埼玉支部依頼講師・スポーツクラブ勤務経験有
実務経験をいかした教育内容		研修会での講義内容や、スポーツクラブでの実践指導の経験を交えた講義を行う。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者		—
テキスト・参考図書・参考資料		〈テキスト〉 なし 〈参考資料〉 適宜、補助資料を配布する
授業計画	授業項目	授業内容
第1回	オリエンテーション ライフスタイルと健康	授業の概要説明。昨今における我が国の生活の変化による医療費増加について考える。
第2回	生活習慣病について	高血圧やメタボリックシンドロームなど、生活習慣病について理解を深める。
第3回	肥満について	肥満が健康にどのような影響を及ぼすか理解を深める。
第4回	脂肪燃焼（ダイエット）	効果的に脂肪を燃焼させる具体的な方法を学ぶ。
第5回	加齢について	加齢が健康にどのような影響を及ぼすか理解を深める。
第6回	色々な環境下で安全に運動を行う	熱中症などの予防法について学ぶ。
第7回	ストレスと運動	ストレスと運動の関係性について理解を深める。
第8回	健康の概念について まとめ	健康の概念について理解を深めるとともに、これまで学んだ内容を振り返る。
定期試験		
準備学修	次回の授業項目を、インターネットなどを活用し予習する。（各回 1h）	
事後学修	授業で学習したことを、配布資料を用いて授業内容の理解を深める。（各回 1h）	
注意事項	—	
備考	—	

2L3C280011		授業科目名 (英文名)		健康スポーツⅡ (Fitness SportsⅡ)		関係資格	幼稚園教諭免許状	○
							保育士資格	○
学年	1年	学期	前期	卒業 必修・選択	必修	単位数	—	授業形態 実技
担当教員名		小林 宜義			担当形態		単独	
メールアドレス		kobayashi@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		月～木曜日放課後(17:00 まで)	
【授業の概要】 講義の前半では、運動に親しむ資質や各種運動能力を楽しみながら高められることで注目されているコーディネーション運動を通じ、人間が生きる上で最大のルーツとなる根源的な能力である5つの基礎コーディネーション能力を高めていく。後半では、バドミントン・卓球など各自で種目を選択し取り組み、仲間と共に人との関わりを通じ、非認知能力を高めていく。								
【授業の到達目標】 (1) コーディネーション運動理論に基づき、楽しく運動に取り組むことができる。 (2) 各種運動を通じ、非認知能力の向上を図り、積極的に社会に参加をすることができる。 (3) 心身の健康づくりの運動を理解し、生涯に渡って運動に取り組むことができる。								
【本科目と学修成果との関連】		知識・技能		思考力・判断力・表現力		態度・志向性		
Ⅰ：保育基礎力				○				
Ⅱ：子ども・家庭支援力		○		○		○		
Ⅲ：保育実践力				○		○		
Ⅳ：社会人基礎力・社会貢献力		◎		◎		◎		
【アクティブラーニング】		知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造
		○		○		○		—
		<具体的な方法> ディスカッション						
学修成果のフィードバック		—						
【成績評価の方法及び基準】		定期試験 (%)	課題・作品・ レポート (40%)	実技 (60%)	(%)	(%)	(%)	(%)
学修成果Ⅰ	知識・技能							
	思考力・判断力・表現力			○				
	態度・志向性							
学修成果Ⅱ	知識・技能		○					
	思考力・判断力・表現力			○				
	態度・志向性			○				
学修成果Ⅲ	知識・技能							
	思考力・判断力・表現力		○					
	態度・志向性			○				
学修成果Ⅳ	知識・技能		○					
	思考力・判断力・表現力			○				
	態度・志向性			○				

実務経験	有	日本健康運動指導士会埼玉支部依頼講師・スポーツクラブ勤務経験有
実務経験をいかした教育内容		研修会での実技指導や、スポーツクラブでの実践指導の経験を活かした内容にて実践していく。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者		—
テキスト・参考図書・参考資料		〈テキスト〉 なし 〈参考資料〉 適宜、補助資料を配布する
授業計画	授業項目	授業内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要説明。コーディネーション運動を体験する。
第2回	コーディネーション運動① 体力測定①	運動感覚的分化能力を高める運動を実践する。20m 走・反復跳び・開眼片足立ちの体力測定を行う。
第3回	コーディネーション運動② 体力測定②	空間定位能力を高める運動を実践する。テニスボール投げ・立ち幅跳びの体力測定を行う。
第4回	コーディネーション運動③ スポーツ①	反応能力を高める運動を実践する。ドッチビー・バドミントン・バレーボール・卓球などから選択。
第5回	コーディネーション運動④ スポーツ②	リズム化能力を高める運動を実践する。ドッチビー・バドミントン・バレーボール・卓球などから選択。
第6回	コーディネーション運動⑤ スポーツ③	バランス能力を高める運動を実践する。ドッチビー・バドミントン・バレーボール・卓球などから選択。
第7回	レクリエーション	ゲーム形式のコーディネーション運動にて、総合的にコーディネーション能力を高めていく。
定期試験は実施しない。		
準備学修	配布した資料を読んで学習する。(各回 1h)	
事後学修	配布した資料を用いて、講義内容の理解度を深める。(各回 1h) 講義で学習したことを活かし、レポート提出(1回)の準備をする。(各回 30min)	
注意事項	体育実技の講義にふさわしい服装で参加をすること。運動用室内シューズが必要。	
備考	—	

2L3C280011		授業科目名 (英文名)		健康スポーツⅡ (Fitness SportsⅡ)		関係資格	幼稚園教諭免許状	○	
							保育士資格	○	
学年	1年	学期	後期	卒業 必修・選択	必修	単位数	1	授業形態	実技
担当教員名		小林 宜義			担当形態		単独		
メールアドレス		kobayashi@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		月～木曜日放課後(17:00 まで)		
【授業の概要】 講義の前半では、コーディネーション運動理論に基づき、認知症や健康寿命の予防、さらには、持久力の向上への取り組みをねらいとし、その基づくりを実践していく。 後半では、バドミントン・卓球など各自で種目を選択し取り組み、仲間との関わりを通じ、非認知能力を高めていく。									
【授業の到達目標】 (1) コーディネーション運動理論に基づき、認知症の予防や健康寿命の維持に取り組むことができる。 (2) 各種運動を通じ、持久力や非認知能力の向上を図り、生活リズムを整えることができる。 (3) 心身の健康づくりの運動を理解し、生涯に渡って運動に親しみ、取り組むことができる。									
【本科目と学修成果との関連】			知識・技能		思考力・判断力・表現力		態度・志向性		
Ⅰ：保育基礎力					○				
Ⅱ：子ども・家庭支援力			○		○		○		
Ⅲ：保育実践力					○		○		
Ⅳ：社会人基礎力・社会貢献力			◎		◎		◎		
【アクティブラーニング】			知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造
			○		○		○		—
			<具体的な方法> ディスカッション						
学修成果のフィードバック			—						
【成績評価の方法及び基準】			定期試験 (%)	課題・作品・ レポート (40%)	実技 (60%)	(%)	(%)	(%)	
学修成果Ⅰ	知識・技能								
	思考力・判断力・表現力			○					
	態度・志向性								
学修成果Ⅱ	知識・技能			○					
	思考力・判断力・表現力			○	○				
	態度・志向性				○				
学修成果Ⅲ	知識・技能								
	思考力・判断力・表現力			○					
	態度・志向性				○				
学修成果Ⅳ	知識・技能			○					
	思考力・判断力・表現力			○					
	態度・志向性				○				

実務経験	有	日本健康運動指導士会埼玉支部依頼講師・スポーツクラブ勤務経験有
実務経験をいかした教育内容		研修会での実技指導や、スポーツクラブでの実践指導の経験を活かした内容にて実践していく。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者		—
テキスト・参考図書・参考資料		〈テキスト〉 なし 〈参考資料〉 適宜、補助資料を配布する
授業計画	授業項目	授業内容
第1回	オリエンテーション	講義の概要説明。前期の振り返り。
第2回	コーディネーション運動① スポーツ①	コーディネーション運動理論に基づき、認知症予防を理解し実践する。各種競技から選択。
第3回	コーディネーション運動② スポーツ②	コーディネーション運動を活用し、認知症予防に役立てられる運動を実践する。各種競技から選択。
第4回	重心同様測定	重心同様測定器を用い、身体のバランス機能を理解する。
第5回	コーディネーション運動③ スポーツ③	コーディネーション運動理論に基づき、健康寿命を理解し実践する。各種競技から選択。
第6回	コーディネーション運動④ スポーツ④	コーディネーション運動を活用し、健康寿命、特に身体機能向上に役立てられる運動を実践する。各種競技から選択。
第7回	これまでの振り返り①	これまで学習したことを振り返り、実践する。
第8回	エアロビックエクササイズ①	有酸素性運動理論を理解し、脂肪燃焼・認知症予防に役立てられるウォーキングを実践する。
第9回	エアロビックエクササイズ②	コーディネーション運動を活用し、有酸素性能力を高める。
第10回	レジスタンスエクササイズ①	自重やボールを使用し、レジスタンスエクササイズを理解し、実践する
第11回	レジスタンスエクササイズ②	スイスポールを使用し、レジスタンスエクササイズを実践する。
第12回	コーディネーション運動⑤ スポーツ⑤	素早い動きのコーディネーション運動を活用し、転倒予防に役立てられる運動を実践する。各種競技から選択。
第13回	コーディネーション運動⑥ スポーツ⑥	グループ・ペアでのコーディネーション運動を活用し、協調性を育む運動を実践する。各種競技から選択。
第14回	これまでの振り返り②	これまで学習したことを振り返り、実践する。
第15回	まとめ	講義で学んだことを、レポートに纏める。
定期試験は実施しない。		
準備学修	配布した資料を読んで学習する。(各回 1h)	
事後学修	配布した資料を用いて、講義内容の理解度を深める。(各回 1h) 講義で学習したことを活かし、レポート提出(1回)の準備をする。(各回 30min)	
注意事項	体育実技の講義にふさわしい服装で参加をすること。運動用室内シューズが必要。	
備考	—	

専門科目（1年）

4B1C310010		授業科目名 (英文名)		教職概論 (Introduction to the Teaching Profession)			関係資格		幼稚園教諭二種免許状	○
							保育士資格		○	
学年	1年	学期	後期	卒業 必修・選択	必修	単位数	2	授業形態	講義	
担当教員名		桑原 広治			担当形態		単独			
メールアドレス		kuwahara@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		月・木			
【授業の概要】										
<p>教職概論では、公教育を担う教職（教員という仕事）の目的・使命、役割・資質能力、教員の仕事の内容、チーム学校運営への対応、専門職としての教員・保育者の在り方について、事例や映像の分析等を通して学ぶとともに、「教職の職業的特徴は何か」「自分はどのような教員を目指すのか」等をグループディスカッションやグループワークを通して検討する。</p>										
【授業の到達目標】										
(1)我が国の教職の目的・使命を理解しており、どのような教員を目指すのか、説明することができる。										
(2)教職観の変遷を踏まえ、これからの教員に求められる役割と資質能力について述べることができる。										
(3)教員の仕事の内容の全体像と教員に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障について述べるができる。										
(4)学校の担う役割が拡大・多様化する中で、教員は校内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応する必要性について説明することができる。										
【本科目と学修成果との関連】			知識・技能			思考力・判断力・表現力		態度・志向性		
I：保育者基礎力			◎			○		○		
II：子ども・家庭支援力										
III：保育実践力										
IV：社会人基礎力・社会貢献力										
【アクティブラーニング】			知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造	
			○		—		—		○	
<具体的な方法>コミュニケーション、アウトプット、グループワーク、ディスカッション										
学修成果のフィードバック			・毎時の振り返りシートを随時、取り上げ、共有化を図る							
【成績評価の方法及び基準】			定期試験 (40%)	発表 (30%)	コメントシート (30%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
学修成果 I	知識・技能		○	○	○					
	思考力・判断力・表現力		○	○	○					
	態度・志向性		○	○	○					
学修成果 II	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修成果 III	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修成果 IV	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									

実務経験	有	小学校教員
実務経験をいかした教育内容	「保・幼・小」の具体的事例を踏まえて「理論と実践の往還」をめざし、教育への理解と実践的指導力について学ぶ。	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	—	
テキスト・参考図書・参考資料	〈テキスト〉 古橋和夫編著『新訂 教職入門 未来の教師に向けて』（萌文書林） 〈参考書・参考資料〉 授業中に適宜資料を配布する。	
授業計画	授業項目	授業内容
第1回	オリエンテーション—教育を受ける立場から教師としての立場へ	授業概要・授業計画・授業形態・評価方法の説明、国語の歴史と国語の概観・辞書（紙の辞書）の活用について
第2回	公教育を担う教職の目的・使命	公教育を担う教職の目的・使命、教員の仕事の内容
第3回	教職観の変遷とこれからの教員に求められる役割—聖職者的教職観・労働者的教職観・専門職的教職観	聖職者的教職観・労働者的教職観・専門職的教職観、これからの教員に求められる役割
第4回	教員に求められる資質能力—学び続ける教員像の確立に向けて	これからの教員に求められる「いつの時代にも求められる資質能力」と「これからの時代に求められる資質能力」
第5回	保育者に求められる資質能力—カウンセリングマインド	カウンセリングマインドなど保育者に求められる資質能力
第6回	保育者の仕事の内容①—就学前教育の展開・指導	就学前教育の展開・指導技術
第7回	保育者の仕事の内容②—子ども理解に基づくクラス運営	子ども理解に基づくクラス運営・養護及び教育の一体的展開
第8回	保育者の仕事の内容③—連携・分担・協力	保育者の連携と協働、家庭との連携と保護者に対する支援
第9回	教職への道—教職の職業的特徴は何か	教職の職業的特徴、保育者という仕事の職業的特徴
第10回	専門職としての教員・保育者	保育者の資質向上とキャリア形成
第11回	教員研修の意義と法律上の位置づけ	研修（研究と修養）の重要性、研修の法律上の位置づけ、学び続ける教員像
第12回	教員の職務上・身分上の義務及び身分保障	教員の職務上の義務、教員の身分上の義務、分限と懲戒
第13回	組織人としての教師—チームとしての学校の在り方について	組織人としての教師、公務分掌、教職員組織、学校組織マネジメント、チームとしての学校
第14回	学校を支える体制—多様な専門性を持つ人材	公教育制度、保護者・地域住民の学校参画
第15回	教育改革とこれからの教師—アクティブラーニングとカリキュラムマネジメントの視点	アクティブラーニングの視点、カリキュラムマネジメントの視点、これからの学校・教師の在り方
定期試験は実施しない。		
準備学修	配布した資料に目を通しておく。（各回 1h）	
事後学修	毎時、授業の振り返りを提出する。（各回 1h）	
注意事項	授業はパワーポイントで進める。メモの習慣化、講義ノートを意識する。	
備考	※辞書（紙の辞書）を準備すること。	

4B1N310020		授業科目名 (英文名)		保育原理 (Principles of Child Care)		関係資格		幼稚園教諭二種免許状 保育士資格		○
学年	1年	学期	後期	卒業 必修・選択	選択	単位数	2	授業形態	講義	
担当教員名		桑原 広治			担当形態		単独			
メールアドレス		kuwahara@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		月・木			
【授業の概要】 すこやかな子どもの育ちと子育て支援を目的・課題とするときの基本的な考え方について学ぶ。保育の指導、歴史、法制度、保育計画、保育の現状とかだいについて理解し、具体例やグループワークを通して、保育者になるための基礎的知識を修得する。										
【授業の到達目標】 (1)代表的な子ども観を説明することができ、自分の子ども観と教育観を述べることができる。 (2)幼稚園、保育所・認定こども園の役割や法制度を理解し、自分自身の資質・適性を述べるができる。 (3)保育者に必要な知識をふまえて、保育者に必要とされる態度・使命・責任について省察し、述べるができる。										
【本科目と学修成果との関連】			知識・技能		思考力・判断力・表現力		態度・志向性			
I：保育者基礎力			◎		○					
II：子ども・家庭支援力					○					
III：保育実践力					○					
IV：社会人基礎力・社会貢献力					○					
【アクティブラーニング】			知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造	
			○		○		-		○	
			<具体的な方法> コミュニケーション、アウトプット、グループワーク、ディスカッション							
学修成果のフィードバック			・毎時の振り返りシートを随時、取り上げ、共有化を図る							
【成績評価の方法及び基準】			定期試験 (40%)	発表 (30%)	コメントシート (30%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
学修成果 I	知識・技能		○		○					
	思考力・判断力・表現力		○	○	○					
	態度・志向性									
学修成果 II	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力		○	○						
	態度・志向性									
学修成果 III	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力		○	○						
	態度・志向性									
学修成果 IV	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力		○	○						
	態度・志向性									

実務経験	有	小学校教員
実務経験をいかした教育内容		「保・幼・小」の具体的事例を踏まえて「理論と実践の往還」をめざし、教育への理解と実践的指導力について学ぶ。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者		—
テキスト・参考図書・参考資料		〈テキスト〉 汐見稔幸他監修『保育原理』ミネルヴァ書房 2019 〈参考図書〉 適時資料を配布する。
授業計画	授業項目	授業内容
第1回	オリエンテーション 保育とは何か	授業概要・授業計画・授業形態・評価方法の説明、国語の歴史と国語の概観・辞書（紙の辞書）の活用について
第2回	保育と子ども理解へ	子どもの「主体的・対話的な深い学び」を支えるために
第3回	保育の内容	保育内容とは何か 保育内容の構造と変遷
第4回	保育の方法	「保育の子どもを中心に保育者がつないで発展」する保育の方法
第5回	保育の計画と評価	保育の計画と評価の特徴 カリキュラム・マネジメント
第6回	保育と子育て支援	何が子育てを困難にしているのか？ 保育の場で行われる支援
第7回	健康・安全と保育	「主体性」が健康と安全をつくり出す 「くう・ねる・みずあそび」に注意
第8回	保育者の専門性	保育の特質と「省察的实践者」 保育者の資質向上 保育者の研修について
第9回	保育の歴史に学ぶ	保育の種類 保育思想：フレーベル モンテッソーリ レッジョエミリア プロジェクト
第10回	多様な子どもの理解と保育	外国籍家庭・貧困家庭の子ども、障害のある子どもの理解と保育 全ての子どものために
第11回	学校や地域との連携	エピソードから小学校や地域との連携を考える 園を中心に地域をつくる
第12回	保育に関わる法律と制度	法律の意味 保育に関わる制度 地域子ども・子育て支援事業の概要
第13回	これからの保育の課題	幼児期の教育の共通性の確立 乳児期からの連続としての教育・保育を考える
第14回	人間科学としての保育学	「未来からの保育原理」 「発達保育実践政策学の挑戦」 全ての学問は保育につながる
第15回	授業の総復習とまとめ	授業の細部の理解と「総まとめ」を行う
定期試験		
準備学修	次回講義の展開を予測しつつ、キーワードを調べる等、主体的に取り組むこと。（各回 1h）	
事後学修	配布資料や講義ノートを用いて授業内容の理解度を深める（各回 1h）。	
注意事項	講義はパワーポイントを中心に進める。	
備考	配布する新聞記事にも目を通しておく。辞書（紙の辞書）は持参すること。	

4B1C310030		授業科目名 (英文名)		教育原理 (Principles of Education)		関係資格		幼稚園教諭二種免許状		○
								保育士資格		○
学年	1年	学期	前期	卒業 必修・選択	必修	単位数	2	授業形態	講義	
担当教員名		江玉 睦美			担当形態		単独			
メールアドレス		edama@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		昼休み(金曜日を除く)			
【授業の概要】										
<p>本授業では、教育の基本的概念や本質、目標、教育を成り立たせる諸要因(子ども・教員・学校など)、教育・学校の歴史、家庭・子ども・学校・学習に関する教育思想について、事例や映像の分析等を通して学ぶとともに、歴史的な視点から現代社会における教育の現状や課題をグループワークやグループディスカッションを通して検討する。また、近年の社会と子どもの変化やその変化が学校教育にもたらす影響と課題、それに対応するための教育政策の動向、学校と家庭及び地域の連携・協働、学校安全への対応に関する基本的な知識について、事例や映像の分析等を通して学ぶ。</p>										
【授業の到達目標】										
<p>(1)教育の基本的概念や本質、目標、教育を成り立たせる諸要因(子ども・教員・学校)について述べることができる。</p> <p>(2)教育・学校の歴史を理解し、歴史的な視点から現代社会における教育の現状や課題について説明することができる。</p> <p>(3)家庭・子ども・学校・学習に関する教育思想と、実際の教育、学校の在り方を関係づけて説明することができる。</p> <p>(4)社会や子どもの変化が学校教育にもたらす影響とそこから生じる課題、それに対応するための教育政策の動向について説明することができる。</p> <p>(5)学校と地域の連携の意義や地域との協働の仕方、学校安全の目的と具体的な取り組みについて述べるができる。</p>										
【本科目と学修成果との関連】		知識・技能			思考力・判断力・表現力			態度・志向性		
I：保育者基礎力		◎			◎			○		
II：子ども・家庭支援力										
III：保育実践力										
IV：社会人基礎力・社会貢献力										
		知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造		
【アクティブラーニング】		○		○		-		○		
		<具体的な方法> グループワーク、グループディスカッション								
学修成果のフィードバック		レポートにより授業内容の理解度をはかり、質問については次回の授業に反映できるようにする。								
【成績評価の方法及び基準】		定期試験 (60%)	課題・作品・ レポート (40%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
学修成果 I	知識・技能	○	○							
	思考力・判断力・表現力	○	○							
	態度・志向性		○							
学修成果 II	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修成果 III	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修成果 IV	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									

実務経験	有	幼稚園で幼稚園教諭として勤務
実務経験をいかした教育内容		幼稚園での幼稚園教諭の経験に基づき、保育現場の実態に即した授業を行う。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者		—
テキスト・参考図書・参考資料		〈テキスト〉 ・名須川知子・大方美香監修、三宅茂夫編集『教育原理（はじめて学ぶ保育2）』ミネルヴァ書房、2020年 ・『幼稚園教育要領解説』（平成29年告示 文部科学省）フレーベル館、2018年 〈参考図書〉 ・『保育所保育指針解説』（平成29年告示 厚生労働省）フレーベル館、2018年 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成29年告示 内閣府）フレーベル館、2018年
授業計画	授業項目	授業内容
第1回	オリエンテーションー教育の理念、歴史、思想を学ぶことの意義ー	教育の理念、歴史、思想を学ぶことの意義
第2回	教育の基本的概念と教育の本質、目標	なぜ人間は教育を必要とするのか
第3回	教育と子ども、学校・教員、家庭	教育と子ども、学校、教員、家庭など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係
第4回	近代以前の教育ー家族と社会による教育	近代以前の教育の歴史
第5回	近代教育制度の成立と展開①欧米	欧米における近代以降の教育の歴史
第6回	近代教育制度の成立と展開②日本	日本における近代以降の教育の歴史
第7回	家庭や子どもに関わる教育の思想ーアリエス、ロックなどー	アリエス、ロックなど、家庭や子どもに関する教育思想
第8回	学校や学習に関わる教育思想ーコメニウス、ルソー、ペスタロッチなどー	コメニウス、ルソー、ペスタロッチなど学校や学習に関する教育思想
第9回	幼児教育を築いた教育家の思想ーフレーベル、モンテッソーリ、倉橋惣三などー	フレーベル、モンテッソーリ、倉橋惣三など幼児教育に関する教育思想
第10回	歴史的な視点から見た現代社会における教育課題	歴史的な視点からの現代社会における教育の現状や課題
第11回	子どもの生活の変化と指導上の課題	乳幼児期の教育の特性、子どもの発達の特徴と遊び、活動における目的の変化と育ち
第12回	我が国の幼児教育の教育政策の動向と教育福祉事情	我が国の幼児教育の教育政策の動向、教育事情、教育制度
第13回	諸外国の幼児教育の教育政策の動向と教育福祉事情	諸外国の幼児教育の教育政策の動向、教育事情、教育制度
第14回	幼稚園と小学校、家庭、地域との連携・協働	幼稚園と小学校・家庭・地域との連携・協働、コミュニティスクール、教育と子ども家庭福祉の関連性
第15回	学校安全への対応	危機管理、事故対応、安全教育
定期試験		
準備学修	テキストの指示されたページを読んで予習する。(各回 90min)	
事後学修	配布資料や講義ノートを用いて授業内容の理解を深める。(各回 90min)	
注意事項	—	
備考	—	

4B1N310050		授業科目名 (英文名)		社会福祉 (Social Welfare)		関係資格	幼稚園教諭二種免許状 保育士資格		○
学年	1年	学期	前期	卒業 必修・選択	選択	単位数	2	授業形態	講義
担当教員名		古屋 康博			担当形態		単独		
メールアドレス		support@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		授業後 10分程度		
【授業の概要】 ・保育士の基礎的知識として必要な社会福祉の基本的な考え方や諸制度について概説する。 ・社会福祉を構成する各分野（児童・障害・低所得）のサービスについて理解し、対人援助やソーシャルワーク技法について学ぶ。									
【授業の到達目標】 (1)保育士として実践現場で展開できる社会福祉の価値（倫理）・知識・技術について説明することができる。 (2)社会福祉の基本的な考え方（価値・倫理）について説明することができる。 (3)各種社会保障制度や社会福祉サービスについて知識について説明することができる。 (4)対人援助やソーシャルワークの基本的な技術について説明することができる。									
【本科目と学修成果との関連】		知識・技能			思考力・判断力・表現力		態度・志向性		
I：保育基礎力		◎			◎				
II：子ども・家庭支援力		○			○		○		
III：保育実践力									
IV：社会人基礎力・社会貢献力							◎		
【アクティブラーニング】		知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造	
		○		○		-		-	
		<具体的な方法> KJ法、グループディスカッション							
学修成果のフィードバック		課題は次回授業時に返却する。							
【成績評価の方法及び基準】		定期試験 (60%)	課題・作品・ レポート (40%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
学修 成果 I	知識・技能	○							
	思考力・判断力・表現力		○						
	態度・志向性								
学修 成果 II	知識・技能	○							
	思考力・判断力・表現力		○						
	態度・志向性		○						
学修 成果 III	知識・技能								
	思考力・判断力・表現力								
	態度・志向性								
学修 成果 IV	知識・技能								
	思考力・判断力・表現力								
	態度・志向性		○						

実務経験	有	児童養護・児童家庭福祉センター勤務 24 年
実務経験をいかした教育内容	経験に基づき事例等を交えながら実践的な講義を行う。	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	—	
テキスト・参考図書・参考資料	〈テキスト〉 一瀬早百合 著『社会福祉と私たち』（萌文書林）	
授業計画	授業項目	授業内容
第 1 回	社会福祉の理念と概念	社会福祉の基本的な考え方や人間の理解について概説する
第 2 回	社会福祉の歴史の変遷と現在	社会福祉の歴史や経過、現在の実施体系・諸制度を概説する
第 3 回	社会福祉施設と専門職	社会福祉を担う社会資源(施設)やその専門職について概説する
第 4 回	社会保障制度	各種社会保険および労働保険制度について概説する
第 5 回	子ども家庭支援と社会福祉①	子ども家庭福祉の考え方や各種子育て支援制度について概説する
第 6 回	子ども家庭支援と社会福祉②	児童虐待予防対策と社会的養護・養育システムについて概説する
第 7 回	子ども家庭支援と社会福祉③	ひとり親家庭福祉や子どもの貧困の現状と対策について概説する
第 8 回	公的扶助と生活困窮者支援	生活保護制度や生活困窮者自立支援制度について概説する
第 9 回	障害児・者福祉と共生社会	障害児福祉サービスや地域共生社会の考え方について概説する
第 10 回	相談援助理論	対人援助やソーシャルワークの基本的な考え方について概説する
第 11 回	相談援助とソーシャルワーク①	基本的な面接技法や社会福祉援助技術について概説する
第 12 回	相談援助とソーシャルワーク②	ソーシャルワークを活用した事例について概説する
第 13 回	地域福祉とネットワーク推進	関係機関との連携やネットワークの構築方法について概説する
第 14 回	社会福祉における利用者保護	苦情解決制度や第三者評価、アドボカシーについて概説する
第 15 回	社会福祉の動向と課題	近年の社会福祉の動向や課題について概説する
定期試験		
準備学修	授業終了時に次回講義テキスト範囲を伝えます。事前学習として読んだ上で受講してください。(各回 1h)	
事後学修	配布資料を用いて授業内容の理解度を深める。(各回 1h)	
注意事項	授業終了時にまとめとして課題を提示しますので、小レポートとして提出してください。	
備考	テキストは購入し、授業に持ってきてください。なお講義で配布する資料に関しては、ファイルに綴じておくこと。	

4B1N310070		授業科目名 (英文名)		社会的養護 I (Social Care I)			関係資格		幼稚園教諭二種免許状 保育士資格		○
学年	1 年	学期	後期	卒業 必修・選択	選択	単位数	2	授業形態	講義		
担当教員名		森 依子			担当形態		単独				
メールアドレス		mori@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		月金以外の 4 限終了後 1 時間				
【授業の概要】 ①社会的養護の意義、歴史、制度、実施体系及び課題について、講義兼参考資料等により体系的に学び理解する。 ②社会的養護における現場から児童の権利擁護や自立支援、虐待等の現状と課題について学び、よりよい支援について考え、保育士としての専門性を高める。											
【授業の到達目標】 (1)社会的養護の必要性と重要性を学び、その現状や課題等について述べるができる。 (2)社会的養護施設にはどのようなものがあるか、それぞれの役割について説明することができる。 (3)児童福祉の観点から保育士として適切に考え、行動することができるようになる。											
【本科目と学修成果との関連】			知識・技能		思考力・判断力・表現力			態度・志向性			
I：保育者基礎力											
II：子ども・家庭支援力			◎		○			○			
III：保育実践力											
IV：社会人基礎力・社会貢献力											
【アクティブラーニング】			知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造		
			○		-		-		○		
			<具体的な方法>グループまたは個人での事例検討、発表 事例を分析し、図式やパワーポイント、Word 等でレポート提出。								
学修成果のフィードバック			調査物に関しては内容を講義内で提示や共有・返却。課題は後で共有または返却。								
【成績評価の方法及び基準】			定期試験 (50%)	課題 (10%)	レポート (20%)	発表 (20%)	(%)		(%)		
学修成果 I	知識・技能										
	思考力・判断力・表現力										
	態度・志向性										
学修成果 II	知識・技能		○								
	思考力・判断力・表現力			○	○	○					
	態度・志向性					○					
学修成果 III	知識・技能										
	思考力・判断力・表現力										
	態度・志向性										
学修成果 IV	知識・技能										
	思考力・判断力・表現力										
	態度・志向性										

実務経験	無	—
実務経験をいかした教育内容		—
担当教員以外で指導に関わる実務経験者		社会福祉施設職員や、児童相談所等の職員または地域行政の職員
テキスト・参考図書・参考資料		〈テキスト〉 原田旬哉、杉山宗尚編著『図解で学ぶ社会的で養護 I』（萌文書林） 〈参考資料〉 公益財団法人児童育成会監修 相澤仁、林浩康編集『新・基本保育シリーズ⑥社会的養護 I』（中央法規）
授業計画	授業項目	授業内容
第 1 回	現代社会と社会的養護 1	社会的養護とはなにか・虐待について
第 2 回	現代社会と社会的養護 2	子どもの権利（「子どもの権利」について調べる）
第 3 回	社会的養護の仕組み 1	施設養護と家庭養護、家庭的養護について学ぶ
第 4 回	社会的養護の仕組み 2	社会的養護に関係する機関（関連する法律を調べる）
第 5 回	措置を基本とする施設	措置制度：措置を基本とする施設(施設の内容を調べる)
第 6 回	利用・契約を基本とする施設	利用・契約制度：利用・契約を基本とする施設（施設の内容を調べる）
第 7 回	社会的養護の歴史 1	日本の社会的養護の歴史（歴史を調べる）
第 8 回	社会的養護の歴史 2	海外の社会的養護の歴史（歴史を調べる）
第 9 回	支援の実際	施設養護の職員の支援内容とは（ゲストティチャー予定）
第 10 回	支援の実際	社会的養護での関係機関との連携（ゲストティチャー予定）
第 11 回	ソーシャルワークと家庭支援	ファミリーソーシャルワーク 1
第 12 回	ソーシャルワークと家庭支援	ファミリーソーシャルワーク 2 事例検討
第 13 回	ソーシャルワークと家庭支援	ライフストーリーワーク
第 14 回	里親制度と里親支援	里親制度・養子縁組制度・里親支援
第 15 回	児童福祉施設の運営管理	施設運営・施設内のリスクマネジメント・倫理の確立 社会的養護 I のまとめ
定期試験		
準備学修	テキストを読み、新出の用語の意味調べや指定した課題を行うこと。（各 1h 程度）	
事後学修	授業のふり返し考察（各回 1h） レポート（各 1h 程度）	
注意事項	講義中、または講義の事前事後で出された課題、ゲストティーチャーの講話のレポートなどは評価点となります。提出の無い場合は失点となります。	
備考	社会的養護に関する時事やニュースなどに気をつけるようにしてください。	

5B1C310080		授業科目名 (英文名)		子どもの心理 (Child Psychology I)		関係資格		幼稚園教諭二種免許状		○
								保育士資格		○
学年	1年	学期	前期	卒業 必修・選択	必修	単位数	2	授業形態	講義	
担当教員名		阿南 寿美子			担当形態		単独			
メールアドレス		support@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		授業前後各 10 分間程度			
【授業の概要】										
乳幼児期は子どもの人格を形成するうえで最も重要な時期であり、心身の成長や発達の様子は著しい。保育者は子どもの心身の発達過程を深く理解し関与することが重要である。本講義では、子どもの心身の発達の特性や発達過程について理解し、発達に応じた子どもへの働きかけについて理解を深められるようにする。										
【授業の到達目標】										
(1)発達の概念及び教育における発達理解の意義及び発達を捉える視点について説明することができる。										
(2)各時期における運動・言語・認知・社会性の発達について、その具体的な内容及び援助の基本となる子どもについて説明することができる。										
(3)子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的かかわりや体験、環境の意義について説明することができる。										
【本科目と学修成果との関連】			知識・技能		思考力・判断力・表現力		態度・志向性			
I：保育基礎力			◎		○		○			
II：子ども・家庭支援力			○		○					
III：保育実践力										
IV：社会人基礎力・社会貢献力										
【アクティブラーニング】			知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造	
			○		-		-		-	
			<具体的な方法> 講義の中で提示された事例についてディスカッションを行う。							
学修成果のフィードバック			コミュニケーションシートを用いて内容理解度を把握し、次回授業時に確認する。							
【成績評価の方法及び基準】			定期試験 (30%)	課題・作品・ レポート (20%)	レポート等 の提出物 (40%)	授業貢献度 (10%)	(%)		(%)	
学修 成果 I	知識・技能		○	○	○					
	思考力・判断力・表現力		○	○	○					
	態度・志向性					○				
学修 成果 II	知識・技能		○		○					
	思考力・判断力・表現力		○		○					
	態度・志向性									
学修 成果 III	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修 成果 IV	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									

実務経験	無	—
実務経験をいかした教育内容		—
担当教員以外で指導に関わる実務経験者		—
テキスト・参考図書・参考資料	〈テキスト〉適宜プリントを配布 〈参考書〉『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成 29 年告示）、『他者と関わる心の発達心理学』（清水由紀・林創 編著、金子書房）	
授業計画	授業項目	授業内容
第 1 回	オリエンテーション	子どもの発達を理解することの意義と講義概要について理解する。
第 2 回	子どもの発達理解 1（発達観・保育観・子ども観）	保育者の発達観、保育観、子ども観が与える影響について理解し、各自の保育観、子ども観について考える。
第 3 回	子どもの発達理解 2（保育の環境）	子どもを取り巻く環境について理解し、環境が子どもの発達に与える影響について考察する。初期経験の重要性について理解する。
第 4 回	子どもの発達理解 3（感情・自我）	乳幼児の感情および自我の発達について理解する。
第 5 回	胎児期から乳児期の発達	胎児期から乳児期の発達の特徴について理解する。
第 6 回	幼児期前期の発達	幼児期前期の発達の特徴（身体機能・運動機能の発達含む）と保育者の援助について理解する。
第 7 回	幼児期後期の発達	幼児期後期の発達の特徴（身体機能・運動機能の発達含む）と保育者の援助について理解する。
第 8 回	学童期～青年期の発達	学童期～青年期の発達の特徴について理解する。
第 9 回	知覚と認知の発達と遊び	乳幼児の知覚・思考と認知の発達及び遊びとの関連について理解する。
第 10 回	言葉の獲得	乳幼児期の言葉の発達と絵本、保育者の援助について理解する。
第 11 回	人との相互的にかかわりと子どもの発達 1	養育行動と愛着の関連、基本的信頼感獲得の重要性について理解する。
第 12 回	人との相互的にかかわりと子どもの発達 2	家族、保育者、他児との関わりから育まれる他者理解について理解する。
第 13 回	人との相互的にかかわりと子どもの発達 3	園における仲間関係の発達と仲間との関わりの重要性について理解する。社会的葛藤場面による子どもの育ちについて理解する。
第 14 回	子どもの学びと保育	子どもにとっての学び＝遊びの意義と保育者の援助方法について理解する。
第 15 回	まとめ	前期の授業全般について振り返りを行う。
定期試験		
準備学修	子どもや保育に関連する時事問題について意識する。（各回 1h）	
事後学修	配布資料を用いて授業内容の理解度を深める。（各回 1h）	
注意事項	配布された資料は、毎回ファイルに整理してください。スライドに示した内容について解説しながら授業を行いますので、書き留められるよう努力してください。	
備考	授業への貢献度は、授業時の発言や態度等授業への取組の状況を示します。	

5B1N310090		授業科目名 (英文名)		子ども家庭支援の心理学 (Psychology of Child and Family Support)		関係資格		幼稚園教諭二種免許状 保育士資格		○
学年	1年	学期	前期	卒業 必修・選択	選択	単位数	2	授業形態	講義	
担当教員名		上田 真由美			担当形態		単独			
メールアドレス		ueda@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		授業終了後、又は事前連絡後			
【授業の概要】										
乳幼児期から老年期まで連続した発達段階を学び、心と体によどのような特徴があるのかについて知る。子どもの心理だけではなく、周囲の援助者の心の発達についても学ぶ。毎回の講義では、教員が資料やプリントを配布し、終了後にふりかえりとして、小レポートを提出する。タブレットや携帯電話を使用し、教科書中のQRコードから動画を視聴することもある。										
【授業の到達目標】										
(1)乳児期から老年期までの発達段階の特徴や連続しについて理解し、説明することができる。										
(2)現代における子育ての環境の多様性を理解し、子どもや家庭のニーズに合った支援について説明することができる。										
(3)データやグラフを読み取ることができ、資料から現在の日本の動向を述べるすることができる。										
【本科目と学修成果との関連】		知識・技能			思考力・判断力・表現力			態度・志向性		
I：保育者基礎力										
II：子ども・家庭支援力		◎			○			○		
III：保育実践力										
IV：社会人基礎力・社会貢献力										
【アクティブラーニング】		知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造		
		○		-		-		○		
		<具体的な方法>タブレットや携帯電話を使用し、教科書中のQRコードから動画を視聴し情報を得る。授業終了時に、小レポートを提出する。								
学修成果のフィードバック		授業終了時に小レポートを提出し、次回の授業時に教員が返却する。								
【成績評価の方法及び基準】		定期試験 (70%)	課題・作品・ レポート (30%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
学修成果 I	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修成果 II	知識・技能	○	○							
	思考力・判断力・表現力	○	○							
	態度・志向性	○	○							
学修成果 III	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修成果 IV	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									

実務経験	有	保育士として勤務 13 年
実務経験をいかした教育内容		保育所での保育士経験から、保育現場では子どもや家庭にどのような支援が行われているか、事例を交えて講義を行う。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者		—
テキスト・参考図書・参考資料		〈テキスト〉 常田美穂他『子ども家庭支援の心理学』ひとなる書房 2021 〈参考資料〉 適宜資料やプリントを配付します。
授業計画	授業項目	授業内容
第 1 回	乳児期の発達	・乳児期の発達の特徴 ・乳児期の親子関係の理解
第 2 回	幼児期の発達	・幼児期の発達の特徴 ・幼児期の親子関係の理解
第 3 回	学童期の発達	・学童期の発達の特徴 ・学童期の親子関係の理解
第 4 回	思春期から青年期の発達の特徴	・思春期の仲間関係と家族関係 ・青年期の発達課題 ・思春期及び青年期の心理社会的問題
第 5 回	成人期から老年期の発達の特徴	・成人期の発達と役割 ・老年期の発達と役割
第 6 回	子育て環境の社会的変化	・世帯人数から見た戦後日本の家族の変遷
第 7 回	現代社会と子育て	・現代家族の育児環境と親の心情 ・現代日本の育児実践
第 8 回	多様な子育て家庭	・ひとり親家庭 ・ステップファミリー ・外国にルーツを持つ子ども ・育児サポート環境のない家庭 ・LGBT ファミリー
第 9 回	特別な配慮を必要とする家庭への支援	・貧困家庭 ・虐待が疑われる家庭 ・保護者が精神障害や疾病を抱える家庭 ・専門機関との連携 ・守秘義務
第 10 回	子どもをとりまく生活環境と心身の健康	・環境の力と子どもの発達 ・子どもの生きる環境とメディア ・発達初期への教育・援助の重要性
第 11 回	子どもの心の健康に関わる問題	・子どもの心の健康に関わる問題について（分離不安・緘黙・チック・夜泣きなど）
第 12 回	障害のある子どもの理解と対応	・乳幼児期の発達障害の特徴 ・発達障害児をもつ親の障害受容 ・発達障害のある子どもの日常生活
第 13 回	保育・子育て支援に期待される役割	・親としての発達とその支援 ・保育所・幼稚園・こども園と親の育ち
第 14 回	保育者として子育て家庭を支える	・子育て支援の目的 ・保育を通して子育て家庭を支える ・子育て支援の難しさ
第 15 回	子育て支援センター等の役割	・地域子育て支援拠点の誕生 ・親子にとっての子育て支援拠点 ・地域社会を耕す子育て支援
定期試験		
準備学修	指定されたページを読んで予習することで、授業の見通しをもつ。(各回 1h)	
事後学修	授業中に配布した、資料をまとめ知識の定着を図る。(各回 1h)	
注意事項	保交えて講義を行う。タブレットや携帯電話を使用し、動画を視聴する授業の回があります。機器の充電をしておいて下さい。	
備考	—	

5B2N310100		授業科目名 (英文名)		子どもの理解と援助 (Understanding and Support of Children)		関係資格		幼稚園教諭二種免許状 保育士資格		○
学年	1年	学期	後期	卒業 必修・選択	選択	単位数	1	授業形態	演習	
担当教員名		上田 真由美			担当形態		単独			
メールアドレス		ueda@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		授業終了後, 又は事前連絡後			
【授業の概要】 保育現場で、子どもへの望ましい援助を行うことができるように、保育士として子どもの理解を深める。講義および事例のワークシートを用いて、現場での子どもへの援助をイメージして見通しを立てることで、実践に繋がられるようにする。										
【授業の到達目標】 (1)子ども一人ひとりに応じた、心身の発達や学びの把握の意義について理解し、説明することができる。 (2)子どもを理解するための、保育者の視点や態度を身につけ、実践することができる。 (3)観察や記録、ふりかえりを通して、子どもの理解について具体的な方法を知り、どのような援助が必要なのかについて見通しを述べることができる。 (4)子どもの実態を理解し、どのような援助や関わりが必要なのかを考え、説明することができる。										
【本科目と学修成果との関連】		知識・技能			思考力・判断力・表現力			態度・志向性		
I：保育者基礎力										
II：子ども・家庭支援力		○			◎			○		
III：保育実践力										
IV：社会人基礎力・社会貢献力										
【アクティブラーニング】		知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造		
		-		○		○		○		
		<具体的な方法> 教科書の事例を使用し、グループ討議や個人やグループでの発表をおこなう。保育ドキュメンテーションの作成。								
学修成果のフィードバック		提出したワークシートは次回の授業時に返却する。								
【成績評価の方法及び基準】		定期試験 (%)	課題・作品・ レポート (75%)	発表 (25%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
学修成果 I	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修成果 II	知識・技能		○	○						
	思考力・判断力・表現力		○							
	態度・志向性			○						
学修成果 III	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修成果 IV	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									

実務経験	有	保育士として勤務 13 年
実務経験をいかした教育内容		保育所での保育士の経験から、保育現場では子どもにどのような援助が行われているか、事例を交えて講義を行う。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者		—
テキスト・参考図書・参考資料		〈テキスト〉 藪中征代/玉瀬友美編著『子どもの理解と援助』 萌文書林 2020 (参考図書) 『保育所保育指針』、福田恭介著『ペアレントトレーニング実践ガイドブック』 あいり出版 2011 〈参考資料〉 入江礼子他『子ども理解の理論及び方法』 萌文書林
授業計画	授業項目	授業内容
第 1 回	保育における子ども理解の意義	・ 保育における子ども理解 ・ 保育者に求められる子ども理解 ・ 保育所保育指針にみる子ども理解
第 2 回	子どもに対する関わりと共感的理解	・ 保育における共感的理解 ・ 子ども理解に基づく養護と教育の一体的な展開
第 3 回	子どもの生活や遊び	・ 子どもの生活と保育 ・ 子ども理解と基本的な生活習慣の獲得 ・ 子どもの生活や遊びと学び
第 4 回	人的環境としての保育者	・ 子どもの発達と保育者の役割 ・ 子どもを取り巻く人的環境のあり方 ・ 保育者と子どもの関わりから生じる相互作用
第 5 回	子ども相互の関わりと関係作り	・ 世界を広げていく子ども ・ 事例から学ぶ遊びとこどもの関わり ・ 子ども相互の関係性と関係づくり
第 6 回	集団における経験と育ち	・ クラス集団での育ち ・ 集団への参加、集団の発展に関わる保育者の援助 ・ 異年齢集団のなかでの子どもの育ち
第 7 回	発達における葛藤やつまずき	・ 葛藤とは・ 葛藤が現れるとき
第 8 回	保育の環境（理解と構成・変化や移行）	・ 環境とは ・ 環境構成とは ・ 環境の変化や移行とは ・ 環境の変化や移行と保育者の援助
第 9 回	観察・記録・省察・評価①	・ 子ども理解と観察・記録・省察・評価 ・ 保育における観察・記録・省察・評価
第 10 回	観察・記録・省察・評価②	・ 保育においてドキュメンテーションを用いることの意義 ・ 保育ドキュメンテーションの作成・活用
第 11 回	子ども理解のための職員間の対話	・ 保育における対話と協働 ・ 保育カンファレンスの取り組み
第 12 回	保護者との情報共有	・ 保育所保育指針などにおける保護者との情報共有 ・ 保護者との情報共有の意義 ・ 保育者と保護者との情報共有の方法
第 13 回	発達の課題に応じた援助と関わり	・ 発達過程と個人差 ・ 発達の最近接領域 ・ 発達課題に応じた援助と関わり
第 14 回	特別な配慮を必要とする子ども	・ 特別な配慮を必要とする子どもについての理解 ・ 気になる子どもについての理解 ・ 特別な配慮とインクルーシブ保育
第 15 回	発達の連続性と就学への支援	・ 保幼小接続期における子どもの発達と学びの連続性 ・ 接続期の子どもと保護者への支援 ・ 接続期における様々な連携
定期試験は実施しない。		
準備学修	テキストの指定されたページを読んで予習する。(各回 1h) 事例やワークシートについても自分の考えをイメージしておく。(各回 1h)	
事後学修	グループ討議では多方面から視点がある事を理解し、現場への見通しを持つ。(各回 1h)	
注意事項	ワークシートは、講義終了時に提出すること。	
備考	—	

5B1N310110		授業科目名 (英文名)		子どもの保健 (Child Health)		関係資格	幼稚園教諭免許状 保育士資格		○
学年	1年	学期	後期	卒業 必修・選択	選択	単位数	2	授業形態	講義
担当教員名		小林 芳子			担当形態		単独		
メールアドレス		support@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		授業開始 10 分前		
【授業の概要】 ・子どもの健康状態の把握をし、心身の発育・発達と、健康増進を図る保健活動の意義と目的を学習する。 ・子どもの疾病との特徴と予防法、及び他職種間との連携と協働による適切な対応を学習する。									
【授業の到達目標】 (1)子どもの心身の発育・発達について説明することができる。 (2)子どもの健康増進を図る保健活動の意義と目的について説明することができる。 (3)子どもの心身の健康状態の観察と不調などの早期発見のための健康診断の意義について説明することができる。 (4)子どもの疾病の特徴と適切な対応について説明することができる。									
【本科目と学修成果との関連】			知識・技能		思考力・判断力・表現力		態度・志向性		
I：保育者基礎力			◎		○		○		
II：子ども・家庭支援力									
III：保育実践力									
IV：社会人基礎力・社会貢献力									
【アクティブラーニング】			知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造
			○		○		-		-
			<具体的な方法> KJ法、ディスカッションに参加し、意見を述べる。						
学修成果のフィードバック			課題は提出し、次回授業時に返却する。						
【成績評価の方法及び基準】			定期試験 (70%)	課題・作品・ レポート (20%)	発表 (10%)	(%)	(%)	(%)	(%)
学修成果 I	知識・技能		○	○					
	思考力・判断力・表現力		○	○	○				
	態度・志向性				○				
学修成果 II	知識・技能								
	思考力・判断力・表現力								
	態度・志向性								
学修成果 III	知識・技能								
	思考力・判断力・表現力								
	態度・志向性								
学修成果 IV	知識・技能								
	思考力・判断力・表現力								
	態度・志向性								

実務経験	有	看護師 病院勤務 6年
実務経験をいかした教育内容	病院勤務や高等学校での講義や実習の経験を通し、講義を行う。	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	—	
テキスト・参考図書・参考資料	〈テキスト〉 小林美由紀『子どもの保健テキスト』改定第2版診断と治療社 〈参考図書〉 中根淳子『子どもの保健』（ななみ書房 2019年） 堀 浩樹『子どもの保健』（建帛社 2020年）	
授業計画	授業項目	授業内容
第1回	子どもの心身の健康と保健の意義	子どもの保健とは 保健所指針での取り扱い これからの子どもの保健
第2回	子どもの出生と母子保健の意義	胎児の発育 出生の過程 新生児 母子保健の意義 母子手帳の歴史
第3回	現代の子どもの健康の現状と課題	健康の概念 諸統計から現状と課題 発育と発達 運動能力の変化
第4回	子どもの発育・発達と保健①	子どもの発育と発達 乳幼児の計測 身体発育に影響する因子と評価
第5回	子どもの発育・発達と保健②	生理機能の発達（体温、呼吸、循環、体液、消化、排泄、睡眠）
第6回	地域の保健活動と子どもの虐待防止	地域の保健活動 子どもの虐待の現状、対応と虐待防止の取り組み
第7回	子どもの心身の健康状態とその把握	健康状態の観察と把握、体調不良時にみられる症状
第8回	免疫の発達と感染症の特徴	免疫の発達、感染症（おもな症状、ウイルス感染症）DVD
第9回	感染症の予防及び適切な対応	感染経路と対策、学校感染症、予防接種、母子感染症の予防
第10回	救急疾患の特徴と適切な対応	重症な状態の判断と対応、事故や怪我の時の特徴と急性疾患の対応
第11回	新生児の病気・先天性の病気と対応	早産児と低出生体重児、新生児の病気、先天性疾患の対応、染色体異常
第12回	アレルギー疾患の特徴と適切な対応	診断、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、喘息、アナフィラキシー
第13回	慢性疾患の特徴と適切な対応	慢性疾患とは 種類と特徴と適切な対応（慢性疾患の支援制度）
第14回	保護者との情報共有と家族の支援	集団生活前（入所時、入園時）保護者との健康情報の共有 子育て支援
第15回	子どもの健康診断と関係機関の連携	妊婦健診、出生前診断、マスキング、乳幼児・学校健診 連携
定期試験		
準備学修	テキストを読んで予習する。（各回 1h）	
事後学修	配布資料を用いて授業内容の理解度を深める。（各回 1h） 授業で学習したことを、振り返り問題を通して知識を定着させる。（各回 30min）	
注意事項	講義ごとに配布するプリントを解き、振り返り問題を解く。	
備考	—	

5B2C310160		授業科目名 (英文名)		特別支援を必要とする子どもの理解 A (Understanding Children with Special Needs A)		関係資格		幼稚園教諭二種免許状		○
								保育士資格		○
学年	1年	学期	前期	卒業 必修・選択	必修	単位数	1	授業形態	演習	
担当教員名		森 依子			担当形態		単独			
メールアドレス		mori@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		月金以外の4限終了後1時間			

【授業の概要】

通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的発達をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする子どもが授業において学習活動に参加している実感・達成感を持ちながら学び、生きる力を身につける事ができるよう、子どもの学習上または生活上の困難と支援方法を調べ学習、グループ内による意見交換やグループ全体への発表等の方法を用いながら理解する。

【授業の到達目標】

- (1)特別の支援を必要とする子どもについて説明することができる。
- (2)特別の支援を必要とする子どもの教育課程及び支援方法について説明することができる。
- (3)障害はないが特別の教育的ニーズのある子どもの把握や支援について説明することができる。

【本科目と学修成果との関連】	知識・技能	思考力・判断力・表現力	態度・志向性
I：保育者基礎力			
II：子ども・家庭支援力	◎	○	
III：保育実践力	○	◎	○
IV：社会人基礎力・社会貢献力			

【アクティブラーニング】	知識の定着・確認	表現志向	応用志向	知識の活用・創造
	○	○	○	○
	<具体的な方法>①模擬障害体験活動 ②事例の検討(グループ)を行い意見を出し合う。③遊具を使つての支援方法を考えたり体験する			

学修成果のフィードバック 課題・レポートは共有し、返却する。

【成績評価の方法及び基準】		定期試験 (40%)	課題・作品・ レポート (10%)	発表 (10%)	体験活動1 (20%)	体験活動2 (20%)	(%)
学修成果 I	知識・技能						
	思考力・判断力・表現力						
	態度・志向性						
学修成果 II	知識・技能	○	○	○			
	思考力・判断力・表現力		○	○			
	態度・志向性						
学修成果 III	知識・技能	○					
	思考力・判断力・表現力		○	○			
	態度・志向性		○	○	○	○	
学修成果 IV	知識・技能						
	思考力・判断力・表現力						
	態度・志向性						

実務経験	無	—
実務経験をいかした教育内容		—
担当教員以外で指導に関わる実務経験者		—
テキスト・参考図書・参考資料	〈テキスト〉『障がい児保育』監修小橋明子他（中山書店） 〈参考資料〉『特別支援教育：共生社会の実現に向けて』吉田武男、小林秀之、米田宏樹、安藤隆男編著（ミネルヴァ書房）	
授業計画	授業項目	授業内容
第1回	インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育の理念と制度	インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育の理念と制度
第2回	インクルーシブな教育・保育の場と特別な支援が必要な子どもについて	インクルーシブな教育・保育の場と特別な支援が必要な子どもについて
第3回	特別支援教育の歴史について	特別支援教育の歴史について
第4回	特別な支援を必要とする子どもの教育課程（通級・自立活動を含む）・保育内容について	特別な支援を必要とする子どもの教育課程（通級・自立活動） 幼稚園・保育所・認定こども園における特別支援教育
第5回	視覚障がいのある子どもの理解と支援方法について	視覚障害の定義と原因 視覚障害児の学習の特性とニーズ：視覚障害教育の現状と課題
第6回	聴覚障がいのある子どもの理解と支援方法について	聴覚障害の定義と原因 聴覚障害児の学習の特性とニーズ：聴覚障害教育の現状と課題
第7回	知的障がいのある子どもの理解と支援方法について	知的障害の定義と原因 肢体不自由の学習の特性とニーズ：肢体不自由教育の現状と課題
第8回	肢体不自由のある子どもの理解と支援方法について	病弱・身体虚弱の定義と原因 病弱・身体虚弱児の学習の特性とニーズ：病弱・身体虚弱教育の現状と課題
第9回	病弱・身体虚弱のある子どもの理解と支援方法について	自閉症・情緒障害の定義と原因：自閉症・情緒障害児の学習の特性とニーズ 自閉症・情緒障害教育の現状と課題
第10回	自閉症・情緒障がいのある子どもの理解と支援方法について	言語障害の定義と原因 言語障害児の学習の特性とニーズ：言語障害教育の現状と課題
第11回	言語障がいのある子どもの理解と支援方法について	学習障害の定義と原因 学習障害児の学習の特性とニーズ：学習障害教育の現状と課題
第12回	学習障がいのある子どもの理解と支援方法について	注意欠陥・多動性障害の定義と原因：注意欠陥・多動性障害児の学習の特性とニーズ 注意欠陥・多動性障害児教育の現状と課題
第13回	注意欠陥・多動性障がいのある子どもの理解と支援方法について	インクルーシブ教育による障害以外の教育的ニーズへの積極的対応
第14回	障がいはないが特別な教育的ニーズのある子どもの理解と支援方法について	教育・保育と福祉・医療・労働との連携：教師の専門性と研修
第15回	行動上の問題を示す特別な教育的ニーズのある子どもの理解と支援方法について	教育・保育と福祉・医療・労働との連携：教師の専門性と研修
定期試験		
準備学修	指示された課題を読んで予習する。（各回 1h）	
事後学修	ふり返りを行なう。（各回 1h） 課題（レポート等）で理解を深める。（各回 2h）	
注意事項	欠席をした場合は自分で課題と資料を確認。演習課題等は出席をしていなければ失点。また課題を提出していなければ評価で失点します。	
備考	障がいのある子どもたちへの理解のため、ボランティア活動等を積極的に参加してください。	

6B1C310180		授業科目名 (英文名)		幼児と人間関係 (Infant and Human Relationships)		関係資格		幼稚園教諭二種免許状		○
								保育士資格		○
学年	1年	学期	前期	卒業 必修・選択	選択	単位数	1	授業形態	講義	
担当教員名		上田 真由美			担当形態		単独			
メールアドレス		ueda@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		授業終了後、又は事前連絡後			
【授業の概要】										
現代の幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児教育で保障すべき教育内容に関する知識を身につける。特に、領域「人間関係」の指導の地盤となる基礎理論として、関係発達論的視点について学び、他者との関係や集団との関係の中で幼児期の人と関わる力が育つことを理解する。										
【授業の到達目標】										
(1) 幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題について説明することができる。										
(2) 幼児期の人間関係の発達について、幼稚園生活における関係発達論的視点（人と関わる力、自立心の育ち、協同性の育ち、道徳性・規範意識の芽生え、家族や地域との関わりと育ち）から説明することができる。										
【本科目と学修成果との関連】			知識・技能			思考力・判断力・表現力			態度・志向性	
I：保育者基礎力										
II：子ども・家庭支援力			◎							
III：保育実践力			◎							
IV：社会人基礎力・社会貢献力										
【アクティブラーニング】			知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造	
			—		○		—		—	
			<具体的な方法>グループディスカッション							
学修成果のフィードバック			小レポートにより授業内容の理解度をはかり、質問については次回の授業に反映できるようにする。							
【成績評価の方法及び基準】			定期試験 (50%)	課題・作品・ レポート (50%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
学修 成果 I	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修 成果 II	知識・技能		○	○						
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修 成果 III	知識・技能		○	○						
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修 成果 IV	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									

実務経験	有	保育士として勤務 13 年
実務経験をいかした教育内容	保育士の経験に基づき、保育現場の実態に即した授業を行う。	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	—	
テキスト・参考図書・参考資料	〈テキスト〉 ・菊池篤子『ワークで学ぶ保育内容「人間関係」』みらい、2019 年 ・『幼稚園教育要領解説』（平成 29 年告示 文部科学省）フレーベル館、2018 年 〈参考図書〉 ・『保育所保育指針解説』（平成 29 年告示 厚生労働省）フレーベル館、2018 年 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成 29 年告示 内閣府）フレーベル館、2018 年	
授業計画	授業項目	授業内容
第 1 回	現代社会と幼児の人間関係	家庭・地域での経験と幼児教育に期待されるものについて学ぶ
第 2 回	3 歳未満児における人間関係の発達	身近な大人との関係を基盤として育つ子どもの発達的特徴について学ぶ
第 3 回	幼児期の遊びや生活の中で見られる人と関わる力の育ち	関係性の育ちや個と集団の育ちを視点として人間関係の発達的特徴について学ぶ
第 4 回	乳幼児期の自立心の育ち	「イヤイヤ」「ジブンデ」から始まる自立への発達過程について学ぶ
第 5 回	幼児期の協同性の育ち	目標を共有し、協力してやり遂げようとする力の育ちについて学ぶ
第 6 回	幼児期の道徳性・規範意識の芽生えと育ち	他者との葛藤体験を通してきまりの必要性を理解し、気持ちを調整し折り合いをつける力の育ちについて学ぶ
第 7 回	乳幼児期の人間関係のひろがり	家庭生活～園生活～地域へとひろがる場と関係性の中での人間関係の発達について学ぶ
第 8 回	幼児期に育みたい資質・能力と人間関係	乳児期・幼児期・学童期以降の育ちのつながりについて学ぶ
定期試験		
準備学修	テキストの指示されたページを読んで予習する。(各回 1h)	
事後学修	配布資料や講義ノートを用いて授業内容の理解を深める。(各回 1h)	
注意事項	—	
備考	テキストは 2 年次後期開講の「保育内容（人間関係）の指導法」で引き続き使用します。	

6B1C310190		授業科目名 (英文名)		幼児と環境 (Infant and Environment)		関係資格		幼稚園教諭二種免許状		○
								保育士資格		○
学年	1年	学期	後期	卒業 必修・選択	選択	単位数	1	授業形態	講義	
担当教員名		梅高 賢正			担当形態		単独			
メールアドレス		support@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		授業後 10分			
【授業の概要】 領域「環境」の指導の背景となる、幼児を取り巻く環境や、幼児と環境との関わりについての感性を養い、領域「環境」に関する基礎的な知識・技能の習得を目指す。										
【授業の到達目標】 (1) 幼児を取り巻く環境の重要性、幼児と環境の関わり、現代的課題について説明することができる。 (2) 幼児の身近な環境との関わりにおける思考・科学的概念の発達を説明することができる。 (3) 幼児の身近な環境との関わりにおける標識・文字等、情報・施設との関わり方の発達を理解し、説明することができる。										
【本科目と学修成果との関連】		知識・技能			思考力・判断力・表現力			態度・志向性		
I：保育者基礎力		◎			○					
II：子ども・家庭支援力		◎								
III：保育実践力		◎			○			○		
IV：社会人基礎力・社会貢献力										
【アクティブラーニング】		知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造		
		○		-		-		-		
		<具体的な方法> ディスカッション								
学修成果のフィードバック		課題は次回授業時に返却する。								
【成績評価の方法及び基準】		定期試験 (70%)	課題・作品・ レポート (30%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
学修 成果 I	知識・技能	○								
	思考力・判断力・表現力		○							
	態度・志向性									
学修 成果 II	知識・技能	○								
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修 成果 III	知識・技能	○	○							
	思考力・判断力・表現力		○							
	態度・志向性		○							
学修 成果 IV	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									

実務経験	有	幼稚園園長
実務経験をいかした教育内容	—	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	元高校教諭（理科）	
テキスト・参考図書・参考資料	〈テキスト〉 久保健太・高嶋景子・宮里暁美 編著、『新しい保育講座 9 保育内容「環境」』ミネルヴァ書房 〈参考資料〉 『幼稚園教育要領解説』（平成 29 年告示 文部科学省） フレーベル館、2018	
授業計画	授業項目	授業内容
第 1 回	幼児を取り巻く環境と現代的課題	幼児を取り巻く環境と現代的課題（E S D 等）
第 2 回	乳幼児の発達における環境との関わり	発達における環境の重要性、心理的観点
第 3 回	幼児期の認知的発達	幼児期の認知的発達の特徴
第 4 回	乳幼児の物理的、数量・図形との関わり	思考力の芽生え、数字や図形を使った遊具と遊び
第 5 回	乳幼児の自然との関わり①	身近な自然との関わり、遊び、動植物の飼育・栽培
第 6 回	乳幼児の自然との関わり②	遊びの中での自然体験、生物との関わり
第 7 回	乳幼児と標識・文字との関わり	遊びの中で身近な標識や文字を探し、関心を持つ
第 8 回	乳幼児と情報・施設との関わり	乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と具体的活動
定期試験		
準備学修	テキストの指示されたページを読んで予習する。（各回 1h）	
事後学修	配布資料や講義ノートを用いて授業内容の理解度を深める。（各回 1h） 課題や教材研究を完成させる。	
注意事項	—	
備考	—	

6B1C310210		授業科目名 (英文名)		幼児と表現 (Infant and Expression)		関係資格		幼稚園教諭二種免許状		○
								保育士資格		○
学年	1年	学期	前期	卒業 必修・選択	選択	単位数	1	授業形態	講義	
担当教員名		尾家 京子			担当形態		単独			
メールアドレス		oie@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		月・火曜日 16:30～17:00			
【授業の概要】										
領域「表現」の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現あそびや環境の構成などについて実践的に学び、幼児期の表現活動を支援するための知識・技能・表現力を身につける。										
【授業の到達目標】										
(1)領域「表現」の位置付けについて説明することができる。										
(2)表現の生成する過程について説明することができる。										
(3)幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。										
(4)様々な表現方法を通してイメージを豊かにすることができる。										
(5)素材の特性を生かした表現ができる。										
(6)表現する楽しさを生み出す要因について分析することができる。										
(7)協働して表現することを通し、共感し豊かな表現につなげていくことができる。										
(8)様々な表現の知識技能を生かし、幼児の表現活動を展開させることができる。										
【本科目と学修成果との関連】		知識・技能			思考力・判断力・表現力			態度・志向性		
I：保育基礎力		○								
II：子ども・家庭支援力		◎			○			○		
III：保育実践力		○			○			○		
IV：社会人基礎力・社会貢献力										
【アクティブラーニング】		知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造		
		-		○		-		-		
<具体的な方法>学修者が発見学習を行うことによって、認知的、倫理的、知識、教養などの能力の向上や育成を目指す。										
学修成果のフィードバック		課題は次回授業時に返却する。								
【成績評価の方法及び基準】		定期試験 (%)	課題・作品・ レポート (100%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
学修成果 I	知識・技能		○							
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修成果 II	知識・技能		○							
	思考力・判断力・表現力		○							
	態度・志向性		○							
学修成果 III	知識・技能		○							
	思考力・判断力・表現力		○							
	態度・志向性		○							
学修成果 IV	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									

実務経験	無	—
実務経験をいかした教育内容		—
担当教員以外で指導に関わる実務経験者		—
テキスト・参考図書・参考資料	〈テキスト〉 甲斐彰『楽譜が読める弾けるステップ20』（音楽之友社）、『楽しい音楽表現』圭文社、『幼稚園教育要領解説』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』、『保育所保育指針解説』	
授業計画	授業項目	授業内容
第1回	領域「表現」のねらい及び内容の理解	乳幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて理解する。また、自分自身の表現を振り返り、生成過程における「感じる・気付く・考える」といった内的な作用の重要性やモノとの関わりについて理解する。
第2回	幼児の表現の発達の理解	映像や事例から、乳幼児の表現の芽生えの姿や発達について理解し、幼児の素朴な表現に気付き、共感することができる。また、小学校低学年音楽科での学習内容を理解し、学びの連続性について考える。
第3回	環境との対話	身体の諸感覚を通して環境と対話し、感受性を豊かにする。自らの感性を環境にひらき、感性豊かな環境と表現の関係について理解する。
第4回	身の回りの音・声・楽器による音楽遊び	生活や遊びの中にある声や音の面白さに気付く。声や動き等、自ら作り出す音の多様性を活かした表現活動を行う。
第5回	豊かな表現方法	豊かな表現のために歌を用いて、言葉や情景が伝わるような、表情豊かな歌唱表現を身につける。合唱や合奏等のアンサンブルを聴くことを通し、音や声の重なり合う美しさを習得する。
第6回	音楽的な学び	音・歌遊びを「学び」の視点から捉える。簡易楽器を用いて、幼児の発達に即したリズム遊びの展開例を考える。わらべうたや手遊び歌を習得することを通し、音楽的な「学び」について考える。
第7回	創作活動	イメージを音に表現する心情や情景などを、楽器、身の回りの音を使い表現することを学ぶ。言葉のイントネーションやリズムを活かした平易な曲の和声を学ぶ。
第8回	ICTの活用と総括	ICTを活用した音楽表現活動を具体的に考える。学習のまとめをする。
定期試験は実施しない。		
準備学修	テキストの指示されたページを読んで予習する。(各回 1h)	
事後学修	配布資料や講義ノートを用いて授業内容の理解度を深める。(各回 1h)	
注意事項	—	
備考	—	

7B2C310220		授業科目名 (英文名)		保育内容総論 (Introduction to Child Care and Education)		関係資格		幼稚園教諭二種免許状		○
								保育士資格		○
学年	1年	学期	前期	卒業 必修・選択	必修	単位数	1	授業形態	演習	
担当教員名		江玉 睦美			授業形態		単独			
メールアドレス		edama@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		昼休み(金曜日を除く)			
【授業の概要】										
<p>本授業では、幼稚園教育は園生活全体を通して総合的に指導するという考え方を理解し、幼児教育の環境を構成し実践するために必要な知識を身につけることを目的とする。特に、保育ビデオや写真などで具体的な幼児の姿と関連づけながら遊びの中でどのような経験をしているのかについて学び、5領域のねらい及び内容とのつながりを確認し、遊びを通して育つことを理解していく。</p>										
【授業の到達目標】										
(1)幼稚園教育の基本に基づく指導の考え方について説明することができる。										
(2)発達を見通した指導計画の考え方、指導計画作成の手順と配慮点、評価の考え方について説明することができる。										
(3)幼児にとっての行事の意味を理解し、園行事の在り方を説明することができる。										
(4)幼稚園における具体的な指導について、教材を工夫したり、保育記録を書くことを通して幼児を理解する方法を身につけ、実践することができる。										
(5)模擬保育を通して、ねらい及び内容に沿って総合的に指導する力を身につけ、実践することができる。										
【本科目と学修成果との関連】			知識・技能		思考力・判断力・表現力		態度・志向性			
I：保育者基礎力			◎		○					
II：子ども・家庭支援力										
III：保育実践力			◎		○					
IV：社会人基礎力・社会貢献力										
【アクティブラーニング】			知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造	
			○		-		○		-	
			<具体的な方法>グループワーク、グループディスカッション、模擬保育							
学修成果のフィードバック			レポートにより授業内容の理解度をはかり、質問については次回の授業に反映できるようにする。また、指導案は個別に添削し、返却する。							
【成績評価の方法及び基準】			定期試験 (50%)	課題・作品・ レポート (30%)	模擬保育 (20%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
学修成果Ⅰ	知識・技能		○							
	思考力・判断力・表現力		○	○	○					
	態度・志向性									
学修成果Ⅱ	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修成果Ⅲ	知識・技能		○							
	思考力・判断力・表現力		○	○	○					
	態度・志向性									
学修成果Ⅳ	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									

実務経験	有	幼稚園で幼稚園教諭として勤務
実務経験をいかした教育内容		幼稚園教諭としての経験に基づき、保育現場の実態に即した実践的な授業を行う。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者		—
テキスト・参考図書・参考資料		<p>〈テキスト〉・金澤妙子・前田和代著『新訂 演習 保育内容総論』建帛社、2019年</p> <p>・『幼稚園教育要領解説』（平成29年告示 文部科学省）フレーベル館、2018年</p> <p>〈参考図書〉・川勝泰介他編著『ことばと表現力を育む児童文化』萌文書林、2018年</p> <p>・『保育所保育指針解説』（平成29年告示 厚生労働省）フレーベル館、2018年</p> <p>・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成29年告示 内閣府）フレーベル館、2018年</p>
授業計画	授業項目	授業内容
第1回	オリエンテーション	幼稚園教育要領の基本を踏まえ授業の内容を理解する
第2回	総合的発達援助	遊びを通しての総合的な指導を行う考え方を理解する
第3回	環境による教育	「環境」をとらえた基本的な視点での実践について学ぶ
第4回	幼児の遊びについて	幼児の遊びの実態について、園全体を通して遊びの中でどのような経験をしているのか学ぶ
第5回	遊びを通しての総合的な指導について	遊びを通しての総合的な指導・援助について話し合う
第6回	環境と保育	環境構成について、物的・人的・自然との関わりを学ぶ
第7回	5領域の内容	幼児教育における、5領域のねらい及び内容のつながりについて理解する
第8回	10の姿と育ち	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と活動のつながり
第9回	保・幼・小の連携	幼児教育と小学校教育の違いについて学ぶー幼保小接続の内容を理解するー
第10回	教育課程・全体的な計画・指導計画	教育課程、全体的な計画、指導計画の実際を参考に、長・短期計画を学ぶ
第11回	行事と保育	行事と園生活のあり方について学ぶ
第12回	特別支援保育	特別支援を要する子どもの生活・遊びと保育者の役割を理解する
第13回	教育・保育教材	遊びを分析し、幼児教育の見方・考え方について学ぶー視聴覚教材の活用ー
第14回	保育計画の作成	実習での保育を想定し、指導案を作成する
第15回	模擬保育	模擬保育をグループで実施するーねらい及び内容に沿って指導することを実践で学ぶー
定期試験		
準備学修	<p>テキストの指示されたページを読んで予習する。(各回 1h)</p> <p>模擬保育の準備をする。(第14・15回×1h)</p> <p>手遊びの練習をする。(30min)</p>	
事後学修	配布資料や講義ノートを用いて授業内容の理解を深める。(各回 90min)	
注意事項	—	
備考	—	

7A2C310271		授業科目名 (英文名)		保育内容(表現 B)の指導法 <small>(Teaching Methods of Contents of Childcare (ExpressionB))</small>		関係資格		幼稚園教諭二種免許状		○
								保育士資格		○
学年	1年	学期	後期	卒業 必修・選択	選択	単位数	1	授業形態	演習	
担当教員名		藤井 康子			担当形態		単独			
メールアドレス		support@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		担当授業終了後 10分程度			
【授業の概要】										
<p>領域(表現)のねらい及び内容について理解を深め、幼児の発達に即して領域を総合的に捉え、保育内容の展開や指導法を学ぶ。五感を働かせて色や形など様々な表現ツールを用いて造形表現活動の特徴や面白さを確認し、応用や発展を考えて実践を重ね、総合的な表現活動を構想、計画、指導、実践する力を身につける。</p>										
【授業の到達目標】										
(1)幼児が経験し身につけていく内容と指導上の留意点について説明することができる。										
(2)保育・教育における評価の考え方について説明することができる。										
(3)幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育の構想の重要性について説明することができる。										
(4)幼児の体験との関連性を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想への活用を工夫することができる。										
(5)保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。										
【本科目と学修成果との関連】		知識・技能			思考力・判断力・表現力			態度・志向性		
I: 保育者基礎力		◎			◎			○		
II: 子ども・家庭支援力								○		
III: 保育実践力		◎			○			○		
IV: 社会人基礎力・社会貢献力					◎			○		
【アクティブラーニング】		知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造		
		○		○		○		-		
		<具体的な方法> 調査学習、個人制作、共同制作								
学修成果のフィードバック		授業毎に「自分自身の学び」や「次に挑戦したいこと」等の振り返りを行う。作品を鑑賞したり、発表し合う機会を設ける。								
【成績評価の方法及び基準】		課題・作品・ レポート (60%)	準備物 (40%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
学修 成果 I	知識・技能	○								
	思考力・判断力・表現力	○								
	態度・志向性		○							
学修 成果 II	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性		○							
学修 成果 III	知識・技能	○								
	思考力・判断力・表現力	○	○							
	態度・志向性		○							
学修 成果 IV	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力		○							
	態度・志向性		○							

実務経験	無	—
実務経験をいかした教育内容		—
担当教員以外で指導に関わる実務経験者		—
テキスト・参考図書・参考資料		〈テキスト〉・槇英子『保育をひらく造形表現<第2版>』萌文書林・『幼稚園教育要領解説』（平成29年告示文部科学省） 〈参考資料〉・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成29年告示 内閣府）・『保育所保育指解説針』（平成29年告示 厚生労働省）
授業計画	授業項目	授業内容
第1回	領域（表現）について	授業の概要・進め方について映像を用いながら、幼児の様々な表現の姿を通して領域（表現）のねらい及び内容について理解する。
第2回	遊びの中の「造形表現」を考える	遊びの中の造形表現における幼児の思いを読み取り、表現や表出について場面を想定した指導法を考える
第3回	様々な造形表現の鑑賞	絵本の美術技法の効果を理解したうえで読み聞かせに活かし、自身の保育構想につなげる
第4回	造形表現活動の連続性	幼児期の造形表現活動から小学校の図画工作への学びの連続性について具体的な事例から学ぶ
第5回	幼児の造形表現活動のねらい	幼児の表現に対する素朴な気持ちを大切にし、意欲的に取り組めるような援助の方法や環境の構成を考える
第6回	自然と造形表現	自然物を用いた造形表現活動を実践し、幼児の表現活動が豊かになる環境について考える
第7回	身近な素材を用いた造形表現	廃材を用いた活動から素朴な表現に込められた思いを汲み取り、興味を持って取り組める環境について考える
第8回	五感を使った表現活動	五感を使った表現活動を実践し、豊かな感性を育て表現が深まる言葉かけや環境の構成について考える
第9回	情報機器や教材の活用	表現や鑑賞における情報機器及び教材の活用法を体験し、保育構想に活かすアイデアを発想する
第10回	造形表現発動の間接的援助とは	年齢や発達に応じた造形表現活動の体験を可能とする素材・用具・方法・場などの間接的な援助について学ぶ
第11回	模擬保育(1)	これまでの造形表現活動などについての学びを踏まえた模擬保育を実践するために、グループで多用な事例を提案し合い指導案を作成する。
第12回	模擬保育(2)	グループで作成した指導案に沿って教材研究を行う。
第13回	模擬保育(3)	作成した指導案に沿って模擬保育を行う。
第14回	模擬保育(4)	模擬保育の振り返りを通して改善を試みる。
第15回	本授業の振り返り	本授業で学んだ保育における造形表現活動などを振り返り、情報機器を使用した「表現の課題ファイル」を作成し保育の場で活用できるようにする。
定期試験は実施しない。		
準備学修	教科書を読んで予習する。(各回 1h) 準備物の調達と確認。(各回 30min)	
事後学修	「授業の記録用紙」を完成させる。(各回 1h)	
注意事項	汚れても構わない服装と靴で受講すること。携帯用ハサミとテープ糊は使用不可。	
備考	準備物については初回の授業で説明する。	

6B1N310280		授業科目名 (英文名)		乳児保育 I (Infant Care and Education I)		関係資格		幼稚園教諭二種免許状 保育士資格		○
学年	1年	学期	前期	卒業 必修・選択	選択	単位数	2	授業形態	講義	
担当教員名		上田 健二			担当形態		単独			
メールアドレス		support@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		終了後 10分程度			
【授業の概要】										
乳児保育を知り、その意義や目的を理解することを通して、乳幼児期の関りや知識習得の重要性を知る。さらに、保育現場での子どもや職員・保護者への細やかな対応等で大切なコミュニケーション能力の重要性を理解し磨きながら、乳児保育に対する考えを深めていく。										
【授業の到達目標】										
(1)乳児保育の意義と目的、歴史的変遷及び役割を理解し説明することができる。										
(2)乳児の発達の特徴や生活の理解及び発育発達を踏まえた保育内容と運営体制を理解し考察した内容を述べることができる。										
(3)対話の相互体験を通しその重要性に気づき考えを深め広げながら表現することができる。										
【本科目と学修成果との関連】		知識・技能			思考力・判断力・表現力		態度・志向性			
I：保育者基礎力		◎			○		○			
II：子ども・家庭支援力										
III：保育実践力										
IV：社会人基礎力・社会貢献力										
【アクティブラーニング】		知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造		
		○		○		-		-		
		<具体的な方法> ディスカッション、発表（アウトプット）								
学修成果のフィードバック		前回講義内容の振り返りとレポートに対するコメント								
【成績評価の方法及び基準】		定期試験 (50%)	課題・作品・ レポート (40%)	発表 (10%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
学修 成果 I	知識・技能	○	○							
	思考力・判断力・表現力		○	○						
	態度・志向性			○						
学修 成果 II	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修 成果 III	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修 成果 IV	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									

実務経験	有	26年
実務経験をいかした教育内容	保育所での施設管理者の経験に基づき、保育現場の実態に即した姿勢態度や思考及び実践について講義を行う。	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	幼保連携型認定こども園保育教諭	
テキスト・参考図書・参考資料	〈テキスト〉 松本園子編著『乳児の生活と保育』（ななみ書房 2019年） 厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館 2018年） 〈参考資料及び図書〉 随時配付及び紹介	
授業計画	授業項目	授業内容
第1回	乳児保育とは？	授業概要と評価方法 保育園の様子や乳児生活について
第2回	意義と目的役割	乳児保育の歴史と養護教育一体の機能について
第3回	現状と課題Ⅰ	乳児保育の現状と課題について
第4回	現状と課題Ⅱ	乳児保育の現状と課題を知り今後の取り組みを考察する
第5回	保育所の乳児保育	保育所の一日の流れやその他乳児保育をしている施設について
第6回	乳児保育の視点	改めて乳児保育の重要性について知り考察する
第7回	3歳未満児の保育Ⅰ	0,1,2歳児の生活と環境について
第8回	3歳未満児の保育Ⅱ	0,1,2歳児の遊びと環境について
第9回	3歳未満児の保育Ⅲ	0,1,2歳児の発育発達を踏まえた援助と関わり及び配慮①
第10回	3歳未満児の保育Ⅳ	0,1,2歳児の発育発達を踏まえた援助と関わり及び配慮②
第11回	乳児の発育発達	乳児の発育発達を踏まえた配慮や援助について考察する
第12回	身体機能の発達Ⅰ	運動機能の発達と保育者の援助について①
第13回	身体機能の発達Ⅱ	運動機能の発達と保育者の援助について②
第14回	身体機能の発達Ⅲ	運動機能の発達と遊びと安全について
第15回	保育現場の事例	乳児保育の事例について知り考察する
定期試験		
準備学修	テキストの指示されたページを読んで予習する。(各回 1h)	
事後学修	配付資料を見直し授業内容の理解度を深める。(各回 1h)	
注意事項	保育のプロを目指す上で受講態度や姿勢に留意してください。	
備考	—	

6A1N310281		授業科目名 (英文名)		乳児保育Ⅱ (Infant Care and EducationⅡ)		関係資格		幼稚園教諭二種免許状 保育士資格		○
学年	1年	学期	後期	卒業 必修・選択	選択	単位数	1	授業形態	演習	
担当教員名		上田 健二			担当形態		単独			
メールアドレス		support@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		終了後 10分程度			
【授業の概要】										
乳児保育Ⅰの理論と内容を踏まえ、具体的な演習や事例検討を通して実践的な理解を深める。また、乳児の遊びと発達の観点を意識しつつ「遊具」を作製し実際の保育現場で遊ぶことを通して知識や技術を深める。これらを基に乳児保育における計画作成や評価について具体的に理解する。										
【授業の到達目標】										
(1)乳児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関りの具体的な考え方を理解し表現することができる。										
(2)養護と教育の観点から、子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について理解し説明することができる。										
(3)乳児実習一連の体験を通し保育者としての自覚やイメージを深化させ各自の今後の課題を明確にし、述べるすることができる。										
【本科目と学修成果との関連】			知識・技能		思考力・判断力・表現力		態度・志向性			
Ⅰ：保育者基礎力			◎		○		○			
Ⅱ：子ども・家庭支援力			◎		◎		○			
Ⅲ：保育実践力										
Ⅳ：社会人基礎力・社会貢献力										
【アクティブラーニング】			知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造	
			○		○		○		○	
			<具体的な方法> ディスカッション、発表（アウトプット）、実習							
学修成果のフィードバック			前回講義内容の振り返りとレポートに対するコメント							
【成績評価の方法及び基準】			定期試験 (40%)	課題・作品・ レポート (40%)	発表 (20%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
学修 成果 Ⅰ	知識・技能		○							
	思考力・判断力・表現力				○					
	態度・志向性				○					
学修 成果 Ⅱ	知識・技能		○							
	思考力・判断力・表現力				○					
	態度・志向性				○					
学修 成果 Ⅲ	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修 成果 Ⅳ	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									

実務経験	有	26年
実務経験をいかした教育内容	保育所での施設管理者の経験に基づき、保育現場の実態に即した知識技術や思考及び実践について講義を行う	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	幼保連携型認定こども園保育教諭	
テキスト・参考図書・参考資料	〈テキスト〉 松本園子編著『乳児の生活と保育』（ななみ書房 2019年） 厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館 2018年） 〈参考資料及び図書〉 随時配付及び紹介	
授業計画	授業項目	授業内容
第1回	受容と応答	乳児保育における受容と応答について考え実践する
第2回	基本的生活習慣Ⅰ	乳児保育における「食べる」について理解を深める①
第3回	基本的生活習慣Ⅱ	乳児保育における「食べる」について理解を深める②
第4回	基本的生活習慣Ⅲ	乳児保育における「排泄」について理解を深める（模擬）
第5回	基本的生活習慣Ⅳ	乳児保育における「眠る」について理解を深める
第6回	乳児と遊びⅠ	各自考案した手作りおもちゃを製作する
第7回	乳児と遊びⅡ	おもちゃや遊びのプレゼンテーションをし評価する
第8回	乳児保育実習	保育教諭の講義と手遊び（沖代こども園）
第9回	乳児保育実習	手作りおもちゃで乳児と遊ぶ（沖代こども園）
第10回	実習の省察と課題	実際の保育現場を体験した後の省察や課題について話し合う
第11回	対人関係の発達Ⅰ	ことばの発達と配慮について
第12回	対人関係の発達Ⅱ	対人関係の発達と配慮援助について
第13回	計画・記録・評価	乳児保育における計画とPDCA
第14回	連携と協働	職員間や保護者、地域との関わり方と保育の関連性について
第15回	まとめ	乳児保育の重要性について改めて振り返り考察する
定期試験		
準備学修	テキストの指示されたページを読んで予習する。（各回 1h）	
事後学修	配付資料を見直し授業内容の理解度を深める。（各回 1h）	
注意事項	主体的に授業に参画する意識とその姿勢に留意してください。	
備考	第8回、第9回の乳児保育実習については、12月の土曜日に沖代こども園にて見学・参加実習を行う予定です。日程について授業時に連絡します。	

6B2N310320		授業科目名 (英文名)		ピアノ I (Piano I)		関係資格		幼稚園教諭二種免許状 保育士資格		○
学年	1年	学期	前期	卒業 必修・選択	選択	単位数	1	授業形態	演習	
担当教員名		尾家京子・松本朋美 宮崎望・前野涼子・松原千恵			担当形態		複数			
メールアドレス		oie@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		月・火曜日 16:30~17:00			
【授業の概要】 保育者として必要なピアノの基本的技能を身につけ、音楽的知識と表現力、音楽的感性を高め、子どもの発達に応じた音楽的な活動を工夫できる音楽能力の養成を行う。グレード制を設け、個々の到達度に応じた個人レッスンで進める。										
【授業の到達目標】 (1)ピアノテキストの中から指定された曲を演奏することができる。 (2)「ピアノグレード進捗表」グレードAの曲を演奏することができる。										
【本科目と学修成果との関連】			知識・技能		思考力・判断力・表現力		態度・志向性			
I：保育基礎力										
II：子ども・家庭支援力										
III：保育実践力			◎		◎		◎			
IV：社会人基礎力・社会貢献力										
【アクティブラーニング】			知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造	
			—		○		—		—	
			<具体的な方法>学修者が問題解決型学習を行い積極的に参加をすることにより、認知的、知識、ピアノ技術などの能力の向上や育成を目指す。							
学修成果のフィードバック			ピアノ課題は、次回授業時に確認する。							
【成績評価の方法及び基準】			定期試験 (%)	課題・作品・ レポート (50%)	演奏 (50%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
学修成果 I	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修成果 II	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修成果 III	知識・技能			○	○					
	思考力・判断力・表現力			○	○					
	態度・志向性			○	○					
学修成果 IV	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									

実務経験	有	ピアノ講師
実務経験をいかした教育内容	ピアノ指導経験に基づき、保育現場に対応する実践的なレッスンをを行う。	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	—	
テキスト・参考図書・参考資料	〈テキスト〉 全国大学音楽教育学会九州地区学会編『ピアノテキスト』（カワイ出版)	
授業計画	授業項目	授業内容
第1回	オリエンテーション	ピアノ実技の受講目的と内容説明、ピアノグレード進度表説明
第2回	ピアノレッスン 1	ピアノ実技の基礎を学ぶ 「ピアノグレード進度表」 グレード A を中心に
第3回	ピアノレッスン 2	ピアノ実技の基礎を学ぶ 「ピアノグレード進度表」 グレード A を中心に
第4回	ピアノレッスン 3	ピアノ実技の基礎を学ぶ 「ピアノグレード進度表」 グレード A を中心に
第5回	ピアノレッスン 4	ピアノ実技の基礎を学ぶ 「ピアノグレード進度表」 グレード A を中心に
第6回	ピアノレッスン 5	ピアノ実技の基礎を学ぶ 「ピアノグレード進度表」 グレード A を中心に
第7回	ピアノレッスン 6	ピアノ実技の基礎を学ぶ 「ピアノグレード進度表」 グレード A を中心に
第8回	ピアノレッスン 7	ピアノ実技の基礎を学ぶ 「ピアノグレード進度表」 グレード A を中心に
第9回	ピアノレッスン 8	ピアノ実技の基礎を学ぶ 「ピアノグレード進度表」 グレード A を中心に
第10回	ピアノレッスン 9	ピアノ実技の基礎を学ぶ 「ピアノグレード進度表」 グレード A を中心に
第11回	ピアノレッスン 10	ピアノ実技の基礎を学ぶ 「ピアノグレード進度表」 グレード A を中心に
第12回	ピアノレッスン 11	ピアノ実技の基礎を学ぶ 「ピアノグレード進度表」 グレード A を中心に
第13回	ピアノレッスン 12	ピアノ実技の基礎を学ぶ 「ピアノグレード進度表」 グレード A を中心に
第14回	ピアノレッスン 13	ピアノ実技の基礎を学ぶ 「ピアノグレード進度表」 グレード A を中心に
第15回	評価・まとめ	公開演奏
定期試験は実施しない。		
準備学修	毎回、次の授業の課題を指示するので各自で練習をしてください。(各回 2h)	
事後学修	ピアノ練習室や自宅で練習してください。(各回 2h)	
注意事項	手・指の消毒を必ず行ってください。毎回のレッスン時、ピアノ進度表を担当教員に提出し捺印をもらってください。	
備考	—	

6B2N310321		授業科目名 (英文名)		ピアノⅡ (PianoⅡ)		関係資格		幼稚園教諭二種免許状 保育士資格		○
学年	1年	学期	後期	卒業 必修・選択	選択	単位数	1	授業形態	演習	
担当教員名		尾家京子・松本朋美 宮崎望・前野涼子・松原千恵			担当形態		複数			
メールアドレス		oie@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		月・火曜日 16:30～17:00			
【授業の概要】 保育者として必要なピアノの基本的技能を身につけ、音楽的知識と表現力、音楽的感性を高め、子どもの発達に応じた音楽的な活動を工夫できる音楽能力の養成を行う。グレード制を設け、個々の到達度に応じた個人レッスンで進める。										
【授業の到達目標】 (1)ピアノテキストの基礎編の中から指定された曲を演奏することができる。 (2)「ピアノグレード進捗表」グレードBの曲を演奏することができる。										
【本科目と学修成果との関連】		知識・技能			思考力・判断力・表現力			態度・志向性		
Ⅰ：保育基礎力										
Ⅱ：子ども・家庭支援力										
Ⅲ：保育実践力		◎			◎			◎		
Ⅳ：社会人基礎力・社会貢献力										
【アクティブラーニング】		知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造		
		—		○		—		—		
		<具体的な方法>学修者が問題解決型学習を行い積極的に参加をすることにより、認知的、知識、ピアノ技術などの能力の向上や育成を目指す。								
学修成果のフィードバック		ピアノ課題は、次回授業時に確認する。								
【成績評価の方法及び基準】		定期試験 (%)	課題・作品・ レポート (50%)	演奏 (50%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
学修成果Ⅰ	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修成果Ⅱ	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修成果Ⅲ	知識・技能		○	○						
	思考力・判断力・表現力		○	○						
	態度・志向性		○	○						
学修成果Ⅳ	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									

実務経験	有	ピアノ講師
実務経験をいかした教育内容	ピアノ指導経験に基づき、保育現場に対応する実践的なレッスンを行う	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	—	
テキスト・参考図書・参考資料	〈テキスト〉 全国大学音楽教育学会九州地区学会編『ピアノテキスト』（カワイ出版）	

授業計画	授業項目	授業内容
第1回	ピアノレッスン 1	ピアノ実技の基礎を学ぶ 「ピアノグレード進度表」 グレード B を中心に
第2回	ピアノレッスン 2	ピアノ実技の基礎を学ぶ 「ピアノグレード進度表」 グレード B を中心に
第3回	ピアノレッスン 3	ピアノ実技の基礎を学ぶ 「ピアノグレード進度表」 グレード B を中心に
第4回	ピアノレッスン 4	ピアノ実技の基礎を学ぶ 「ピアノグレード進度表」 グレード B を中心に
第5回	ピアノレッスン 5	ピアノ実技の基礎を学ぶ 「ピアノグレード進度表」 グレード B を中心に
第6回	ピアノレッスン 6	ピアノ実技の基礎を学ぶ 「ピアノグレード進度表」 グレード B を中心に
第7回	ピアノレッスン 7	ピアノ実技の基礎を学ぶ 「ピアノグレード進度表」 グレード B を中心に
第8回	ピアノレッスン 8	ピアノ実技の基礎を学ぶ 「ピアノグレード進度表」 グレード B を中心に
第9回	ピアノレッスン 9	ピアノ実技の基礎を学ぶ 「ピアノグレード進度表」 グレード B を中心に
第10回	ピアノレッスン 10	ピアノ実技の基礎を学ぶ 「ピアノグレード進度表」 グレード B を中心に
第11回	ピアノレッスン 11	ピアノ実技の基礎を学ぶ 「ピアノグレード進度表」 グレード B を中心に
第12回	ピアノレッスン 12	ピアノ実技の基礎を学ぶ 「ピアノグレード進度表」 グレード B を中心に
第13回	ピアノレッスン 13	ピアノ実技の基礎を学ぶ 「ピアノグレード進度表」 グレード B を中心に
第14回	ピアノレッスン 14	ピアノ実技の基礎を学ぶ 「ピアノグレード進度表」 グレード B を中心に
第15回	評価・まとめ	公開演奏

定期試験は実施しない。

準備学修	毎回、次の授業の課題を指示するので各自で練習をしてください。(各回 2h)
事後学修	ピアノ練習室や自宅で練習をしてください。(各回 2h)
注意事項	手・指の消毒を必ず行ってください。毎回のレッスン時、ピアノ進度表を担当教員に提出し捺印をもらってください。
備考	—

6B2N310360		授業科目名 (英文名)		図画工作 (Arts and Crafts)		関係資格		幼稚園教諭二種免許状 保育士資格		○
学年	1年	学期	前期	卒業 必修・選択	選択	単位数	1	授業形態	演習	
担当教員名		藤井 康子			担当形態		単独			
メールアドレス		support@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		担当授業終了後 10 分程度			
【授業の概要】										
画材等の基本的な使用方法や、管理方法、平面と立体による表現を学びながら、ものづくりの楽しさを体験する。また、身近な環境から素材や課題を発見し、造形表現へと展開することで、保育者に必要な感性や創造力、柔軟性を育む。										
【授業の到達目標】										
(1)ものづくりの楽しさを味わうことができる。										
(2)画材等の特性を理解し、使用方法や表現方法を活用することができる。										
(3)画材の準備や作品の展示・保管を実践することができる。										
(4)道具や材料を正しく大切に扱い、効率よく使うことができる。										
(5)子どもの発達段階に応じた表現を知り、支援の方法について説明することができる。										
【本科目と学修成果との関連】			知識・技能		思考力・判断力・表現力		態度・志向性			
Ⅰ：保育者基礎力			◎		○		○			
Ⅱ：子ども・家庭支援力					○		○			
Ⅲ：保育実践力			◎		◎		○			
Ⅳ：社会人基礎力・社会貢献力					◎					
【アクティブラーニング】			知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造	
			○		○		○		-	
			<具体的な方法> 個人制作、共同制作							
学修成果のフィードバック			教室内に作品を展示して発表し合う機会を設ける。 授業毎に「学んだこと」「反省点」を記録用紙に記入し振り返りを行う。							
【成績評価の方法及び基準】			課題・作品・ レポート (60 %)		準備物 (40 %)		(%)		(%)	
学修 成果 Ⅰ	知識・技能		○							
	思考力・判断力・表現力		○							
	態度・志向性				○					
学修 成果 Ⅱ	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力				○					
	態度・志向性				○					
学修 成果 Ⅲ	知識・技能		○							
	思考力・判断力・表現力		○							
	態度・志向性				○					
学修 成果 Ⅳ	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力		○		○					
	態度・志向性									

実務経験	無	—
実務経験をいかした教育内容	—	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	—	
テキスト・参考図書・参考資料	〈テキスト〉なし 〈参考図書〉 ・『幼稚園教育要領解説』（平成 29 年告示 文部科学省） ・『保育所保育指針解説』（平成 29 年告示 厚生労働省） ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成 29 年告示 内閣府）	
授業計画	授業項目	授業内容
第 1 回	色を知る 1	三原色による混色を体験し、色相・彩度・明度について学ぶ
第 2 回	色を知る 2	ハサミの使用方法和折紙・色画用紙を使った配色の学習
第 3 回	色を知る 3	色水づくりと色遊びについて学ぶ
第 4 回	色を知る 4	折紙・色画用紙を使った作品づくり
第 5 回	紙を使った表現 1	和紙・ケント紙・画用紙など紙の特徴に合わせた作品づくり
第 6 回	紙を使った表現 2	紙の種類や扱い方の基礎を学び、立体カードを作成する
第 7 回	モダンテクニック 1	スクラッチを用いた作品づくり
第 8 回	モダンテクニック 2	バチックを用いた作品づくり
第 9 回	モダンテクニック 3	フィンガーペインティングによる作品づくり
第 10 回	モダンテクニック 4	フロッタージュを用いた作品づくり
第 11 回	版画 1	紙等を用いた版画作品づくり①版の作成
第 12 回	版画 2	紙等を用いた版画作品づくり②刷り
第 13 回	立体表現 1	粘土による造形①アイデアスケッチの作成
第 14 回	立体表現 2	粘土による造形②作品の完成
第 15 回	まとめ	自身の作品をファイルにまとめ、各技法の特徴について振り返る
定期試験は実施しない。		
準備学修	授業資料を基に予習に取り組む。(各回 1h) 準備物の調達と確認。(各回 30min)	
事後学修	「授業の記録用紙」を完成させる。(各回 1h)	
注意事項	汚れても構わない服装と靴で受講すること。携帯用ハサミとテープ糊は使用不可。	
備考	準備物については初回の授業で説明する。	

6B2N310380		授業科目名 (英文名)		言語遊び (Wordplay)		関係資格		幼稚園教諭二種免許状 保育士資格		○
学年	1年	学期	後期	卒業 必修・選択	選択	単位数	1	授業形態	演習	
担当教員名		江玉 睦美			担当形態		単独			
メールアドレス		edama@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		昼休み（金曜日を除く）			
【授業の概要】										
<p>本授業は、保育の現場で活用できる言語表現を中心とした保育実技を習得することを目的とするものである。そこで、保育現場で活用される児童文化財を中心に、演じ方の基礎ならびに製作方法を学び、各自が製作及び実技発表を行うこととする。</p>										
【授業の到達目標】										
(1)児童文化財を活用した保育活動に必要な基礎的知識・技術を理解し、実技を行うことができる。										
(2)絵本の読み聞かせに関する知識と技術を理解し、実技を行うことができる。										
(3)ペープサート、エプロンシアター、パネルシアターを製作、実演することができる。										
【本科目と学修成果との関連】			知識・技能			思考力・判断力・表現力			態度・志向性	
I：保育者基礎力										
II：子ども・家庭支援力			◎			◎				
III：保育実践力			◎			◎				
IV：社会人基礎力・社会貢献力										
【アクティブラーニング】			知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造	
			—		○		○		—	
			<具体的な方法> グループワーク							
学修成果のフィードバック			実技は個人指導を行い、その場で指導を行う。質問は次回の授業に反映できるようにする。							
【成績評価の方法及び基準】			定期試験 (%)	課題・作品・ レポート (50%)	実技 (50%)	(%)	(%)	(%)	(%)	
学修成果 I	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修成果 II	知識・技能			○	○					
	思考力・判断力・表現力			○	○					
	態度・志向性									
学習成果 3	知識・技能			○	○					
	思考力・判断力・表現力			○	○					
	態度・志向性									
学修成果 IV	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									

実務経験	有	幼稚園で幼稚園教諭として勤務
実務経験をいかした教育内容		幼稚園教諭の経験に基づき、保育実技の指導を行う
担当教員以外で指導に関わる実務経験者		—
テキスト・参考図書・参考資料		〈テキスト〉 川勝泰介、浅岡靖央、生駒幸子編『ことばと表現力を育む児童文化』萌文書林、2018年 〈参考図書〉 『保育所保育指針解説』（平成29年告示 厚生労働省）フレーベル館、2018年
授業計画	授業項目	授業内容
第1回	保育における言語表現の意義	保育における領域「言葉」および「表現」と言語表現について学ぶ
第2回	保育における児童文化財の意義	保育における児童文化財の意義について学ぶ
第3回	絵本の読み聞かせ①	絵本の読み聞かせの基礎的な知識と技術及び絵本の選び方について学ぶ
第4回	絵本の読み聞かせ②	絵本の読み聞かせの実技
第5回	紙芝居	紙芝居の基礎的な知識と技術について学び、紙芝居を実演する
第6回	わらべうた・ことばあそび	保育におけるわらべうたやことばあそび
第7回	ペープサート①	ペープサートの基礎的な知識と技術について学ぶ
第8回	ペープサート②	ペープサートの製作
第9回	ペープサート③	グループに分かれてペープサートを実演する
第10回	パネルシアター①	パネルシアターの基礎的な知識と技術について学ぶ
第11回	パネルシアター②	パネルシアターの製作
第12回	パネルシアター③	グループに分かれてパネルシアターを実演する
第13回	エプロンシアター①	エプロンシアターの基礎的な知識と技術を学ぶ
第14回	エプロンシアター②	エプロンシアターの製作
第15回	エプロンシアター③	グループに分かれてエプロンシアターの実演をする
定期試験は実施しない。		
準備学修	スケジュールに従って、製作物を準備及び実技の練習をする。(各回 2h)	
事後学修	保育実技の練習をする。(各回 2h)	
注意事項	製作にかかる費用は各自の負担となります。	
備考	—	

8G2T310410		授業科目名 (英文名)		教育実習指導 (Guidance for Teaching Practice)		関係資格		幼稚園教諭二種免許状	○
								保育士資格	
学年	1年	学期	後期	卒業 必修・選択	選択	単位数	—	授業形態	演習
担当教員名		江玉 睦美 麻生 愛子			担当形態		複数		
メールアドレス		edama@higashikyusyu.ac.jp asou@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		昼休み(金曜日を除く) 平日放課後(～17:00まで)		
【授業の概要】									
<p>本科目は、2年次に行う幼稚園における教育実習の事前指導として行うものである。幼稚園実習において必要となる基本的な知識や技能を習得するとともに、幼稚園での観察実習を通して観察記録の取り方や実習日誌の書き方を実践形式で習得していく。とくに、本演習のまとめとして、教材研究・指導案の作成・模擬保育・保育のふり返りのプロセスを経験することによって、保育実践の基礎を習得することを目指す。</p>									
【授業の到達目標】									
(1) 教育実習に必要な基礎的知識・技能を習得し、教育実習に向けた心構えについて述べることができる。									
(2) 幼稚園における観察の要点や記録の取り方について理解し、実施することができる。									
(3) 指導案の作成方法や教材研究などを含む保育実践の基礎を実施することができる。									
【本科目と学修成果との関連】			知識・技能		思考力・判断力・表現力		態度・志向性		
Ⅰ：保育者基礎力									
Ⅱ：子ども・家庭支援力									
Ⅲ：保育実践力			◎		○		○		
Ⅳ：社会人基礎力・社会貢献力			◎						
【アクティブラーニング】			知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造
			○		○		○		○
			<具体的な方法> グループディスカッション、グループワーク、模擬保育						
学修成果のフィードバック			観察記録、実習日誌、指導案は添削し、返却する。実習に向け、模擬保育等を通して自己課題を明確にできるよう助言する。						
【成績評価の方法及び基準】			定期試験 (%)	レポート (10%)	観察記録・ 実習日誌 (30%)	指導案 (20%)	模擬保育 (20%)	資料ファイル (20%)	
学修 成果 Ⅰ	知識・技能								
	思考力・判断力・表現力								
	態度・志向性								
学修 成果 Ⅱ	知識・技能								
	思考力・判断力・表現力								
	態度・志向性								
学修 成果 Ⅲ	知識・技能			○	○	○	○	○	○
	思考力・判断力・表現力			○			○		
	態度・志向性						○		
学修 成果 Ⅳ	知識・技能						○	○	
	思考力・判断力・表現力								
	態度・志向性								

実務経験	有 無	幼稚園で幼稚園教諭として勤務 —
実務経験をいかした教育内容		幼稚園での幼稚園教諭の経験に基づき、幼稚園現場の実態に即した実践的な授業を行う。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者		公立幼稚園の主任教諭
テキスト・参考図書・参考資料		〈テキスト〉 ・民秋言ほか編著『幼稚園実習（新版）』北大路書房、2020年 ・『幼稚園教育要領解説』（平成29年告示 文部科学省）フレール館、2018年 ・田中亨胤監修、山本淳子編著『実習の記録と指導案』ひかりのくに、2018年 〈参考資料〉教育実習指導ファイルならびに資料を配布します
授業計画	授業項目	授業内容
第1回	教育実習の基本	幼稚園教育の目的・内容及び教育実習の目的・意義・心構えについて学ぶ
第2回	附属幼稚園見学参加実習①	附属幼稚園運動会の見学ならびに運営補助
第3回	附属幼稚園見学参加実習②	附属幼稚園運動会の見学ならびに運営補助
第4回	保育をみる目	保育実践を通して幼児教育について学ぶ（VTR 視聴）
第5回	教育実習先輩ゼミ	2年生との交流を通して教育実習に関する情報を収集する
第6回	幼稚園見学参加実習事前指導	観察の要点及び観察記録の取り方について学ぶ
第7回	幼稚園見学参加実習①	公立幼稚園における見学・参加実習
第8回	幼稚園見学参加実習②	公立幼稚園における見学・参加実習
第9回	幼稚園見学参加実習事後指導	見学・参加実習に関する事後指導（観察記録の作成）
第10回	指導案の基本と作成	指導案作成の基本について学ぶ
第11回	模擬保育①	模擬保育に向けた教材研究・指導案の作成（絵本の読み聞かせ）
第12回	模擬保育②	模擬保育及び反省・評価
第13回	模擬保育③	模擬保育に向けた教材研究・指導案の作成（製作遊び）
第14回	模擬保育④	模擬保育及び反省・評価
第15回	教育実習 I オリエンテーション	教育実習 I に関する説明
定期試験は実施しない。		
準備学修	テキストの指示されたページ、資料を読んで予習する。（第1、6、10回×90min） 模擬保育の準備をする。（第11～14回×2h）	
事後学修	配布資料を用いて授業内容の理解を深める。（第1～5回×90min） 授業で学習したことを活かし、観察記録、実習日誌、指導案の完成度を高める。（第6～14回×2h）	
注意事項	・単位の認定は2年次後期に行い、3期（1年次後期・2年次前期・2年次後期）の平均点で評価する。 ・教育実習に直接関わる授業となるため、必ず出席すること。やむを得ず欠席する場合は、事前に担当教員に届け出ること。	
備考	・授業計画の順番は入れ替わる場合がある。 ・教育実習指導ファイル、テキストは2年次後期まで使用する。	

8P4N310420		授業科目名 (英文名)		保育実習 I (保育所) (Nurturing Practice I)		関係資格	幼稚園教諭二種免許状 保育士資格		○
学年	1年	学期	後期	卒業 必修・選択	選択	単位数	2	授業形態	実習
担当教員名		上田 真由美			担当形態		単独		
メールアドレス		ueda@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		授業狩猟後、又は事前連絡後		

【授業の概要】

1年後期終了後、2月初旬の10日間実習を行う。実習内容は、観察・参加・指導実習とする。実習期間中は、毎日保育記録をとり、実習日誌を園に提出しなければならない。また、実習指導担当保育士などの指導を受けながら、部分保育実習の指導案を立案し実践する。詳細については、保育実習指導の授業にて行う。実習中、幼児教育学科教員による訪問指導を行う。

【授業の到達目標】

- (1)保育所の生活の流れを知り、乳幼児への理解を深めながら実習を行い、事前・事後の取り組みができる。
- (2)保育所の機能と保育士の職務について実践を通して理解し、述べることができる。
- (3)部分実習の指導案を立案し、指導実習を行うことができる。

【本科目と学修成果との関連】	知識・技能	思考力・判断力・表現力	態度・志向性
I：保育者基礎力			
II：子ども・家庭支援力			
III：保育実践力			
IV：社会人基礎力・社会貢献力	○	◎	◎

【アクティブラーニング】	知識の定着・確認	表現志向	応用志向	知識の活用・創造
	—	—	—	—
	<具体的な方法> —			

学修成果のフィードバック 実習後、評価票をもとに面談する。

【成績評価の方法及び基準】		定期試験 (%)	(%)	(%)	実習園の 評価 (70%)	事前事後 の取組み (20%)	実習手続の 取組み (10%)
学修成果 I	知識・技能						
	思考力・判断力・表現力						
	態度・志向性						
学修成果 II	知識・技能						
	思考力・判断力・表現力						
	態度・志向性						
学修成果 III	知識・技能						
	思考力・判断力・表現力						
	態度・志向性						
学修成果 IV	知識・技能				○	○	○
	思考力・判断力・表現力				○	○	○
	態度・志向性				○	○	○

実務経験	有	保育士としての勤務 13 年
実務経験をいかした教育内容		保育士としての経験からの指導
担当教員以外で指導に関わる実務経験者		実習先保育所（園）・認定こども園における実習指導担当者他
テキスト・参考図書・参考資料		〈テキスト〉 厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館（2018） 田中亨胤監修、山本淳子編著『実習の記録と指導案』ひかりのくに（2018） 大豆生田啓友、渋谷行成、鈴木美枝子、田澤里喜編著『これからの時代の保育者養成・実習ガイド』中央法規（2020）
授業計画	授業項目	授業内容
<ul style="list-style-type: none"> ・ 観察実習 ・ 参加実習 ・ 指導実習（部分保育） 		
準備学修	実習前までに事前課題、指導案を作成する。（5h 程度）	
事後学修	実習日誌の作成を行う。（1 日 2h 程度）	
注意事項	「保育実習（保育所）心得」を確認する。	
備考	実習手続き（実習先への電話・訪問、持参文書等）等は期日を守り、自分で行う。	

8P4N310430		授業科目名 (英文名)		保育実習 I (施設) (Nurturing Practice I)		関係資格		幼稚園教諭二種免許状 保育士資格		○
学年	1年	学期	後期	卒業 必修・選択	選択	単位数	2	授業形態	実習	
担当教員名		森 依子			担当形態		単独			
メールアドレス		mori@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		-			
【授業の概要】 1年後期終了後、3月に10日間実習を行う。実習内容は、観察・参加・指導実習とする。実習期間中は、毎日保育記録をとり、実習日誌を施設に提出しなければならない。また、実習施設の指示により、実習指導担当保育士などの指導を受けながら、部分保育実習の指導案を立案し実践することがある。詳細については、保育実習指導の授業にて行う。実習中、幼児教育学科教員による訪問指導を行う。										
【授業の到達目標】 (1)児童福祉施設（保育所以外）、その他社会福祉施設の生活に参加し、子ども（利用者）への理解を深め、行動することができる。 (2)施設の機能とそこでの施設保育士の職務について理解して行動することができる。										
【本科目と学修成果との関連】			知識・技能		思考力・判断力・表現力		態度・志向性			
I：保育者基礎力										
II：子ども・家庭支援力										
III：保育実践力										
IV：社会人基礎力・社会貢献力			○		○		◎			
【アクティブラーニング】			知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造	
			-		-		-		-	
			<具体的な方法> -							
学修成果のフィードバック			実習後、評価票をもとに面談							
【成績評価の方法及び基準】			定期試験 (%)	(%)	(%)	実習園の 評価 (70%)	事前事後 の取組み (20%)	実習手続の 取組み (10%)		
学修 成果 I	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修 成果 II	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修 成果 III	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修 成果 IV	知識・技能					○	○	○		
	思考力・判断力・表現力					○	○	○		
	態度・志向性					○	○	○		

実務経験	無	—
実務経験をいかした教育内容	—	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	実習施設における実習指導担当者等	
テキスト・参考図書・参考資料	〈テキスト〉 守巧他『施設実習パーフェクトガイド』わかば社（2023） 厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館（2018） 田中亨胤監修、山本淳子編著『実習の記録と指導案』 ひかりのくに（2018） 〈参考図書〉 大豆生田啓友、渋谷行成、鈴木美枝子、田澤里喜編著『これからの時代の保育者養成・実習ガイド』 中央法規（2020）	
授業計画	授業項目	授業内容
<ul style="list-style-type: none"> ・ 観察実習 ・ 参加実習 ・ 指導実習 		
準備学修	実習前までに実習課題、実習中に指導案を作成する。（各 5h 程度）	
事後学修	実習日誌の作成。（1日 2～3h 程度）	
注意事項	「保育実習（施設）心得」を確認する。	
備考	実習手続き（実習先への電話・訪問、持参文書）等は期日を守り、自分で行う。また、受講状況及び単位取得状況によって実習に参加できない場合がある。	

8G2N310455		授業科目名 (英文名)		保育実習指導 I (Guidance For Nurturing Practice I)			関係資格		幼稚園教諭二種免許状 保育士資格		○
学年	1年	学期	前期	卒業 必修・選択	選択	単位数	—	授業形態	演習		
担当教員名		森 依子 上田 真由美			担当形態		オムニバス				
メールアドレス		mori@higashikyusyu.ac.jp ueda@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		月金以外の4コマ修了後1h 授業終了後、又は事前連絡後				
【授業の概要】 1年後期に実施する、初めての実習に向けての事前指導として行われる授業である。今後実施される全ての実習の基本について講義を行うと共に、前期では実際に学外の保育所に出かけて見学実習も行う。また、夏季休暇中の過ごし方としてボランティア活動の勧めなどを行う。前期・後期通年の授業内容である。											
【授業の到達目標】 (1) 保育実習の意義や目的を理解し、保育所での実習を円滑に進めていくための心構えや知識・技術を活用することができる。 (2) 実習での学習内容や課題を明確化し、子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシー保護や守秘義務について理解を踏まえて取り組むことができる。 (3) 実習先の施設等について種類や概要、利用者についてなどを具体的に理解し説明することができる。											
【本科目と学修成果との関連】		知識・技能			思考力・判断力・表現力			態度・志向性			
I：保育者基礎力											
II：子ども・家庭支援力											
III：保育実践力											
IV：社会人基礎力・社会貢献力		○			○			◎			
【アクティブラーニング】		知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造			
		○		○		○		○			
		<具体的な方法> 指導案作成をして模擬保育(演習)、必要物準備(名札制作)グループ話し合い									
学修成果のフィードバック		個人の課題はお互いに必要部分を共有したあと返却します。									
【成績評価の方法及び基準】		定期試験 (%)	課題・作品・ レポート (80%)	発表 (10%)	指導案 (10%)	(%)	(%)				
学修成果 I	知識・技能										
	思考力・判断力・表現力										
	態度・志向性										
学修成果 II	知識・技能										
	思考力・判断力・表現力										
	態度・志向性										
学修成果 III	知識・技能										
	思考力・判断力・表現力										
	態度・志向性										
学修成果 IV	知識・技能		○	○	○						
	思考力・判断力・表現力		○	○	○						
	態度・志向性		○	○	○						

実務経験	有 有	保育士として勤務 2 年 保育士として勤務 13 年
実務経験をいかした教育内容	保育士経験からの指導	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	現場の職員等のゲストティーチャー	
テキスト・参考図書・参考資料	<p>〈テキスト〉守巧他『施設実習パーフェクトガイド』わかば社 (2023) 厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館 (2018) 田中亨胤監修、山本淳子編著『実習の記録と指導案』ひかりのくに (2018)</p> <p>〈参考図書〉大豆生田啓友、渋谷行成、鈴木美枝子、田澤里喜編著『これからの時代の保育者養成・実習ガイド』中央法規 (2020) 小櫃智子他『実習日誌・実施道案パーフェクトガイド』わかば社 (2024) 『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社 (2023)</p>	
授業計画	授業項目	授業内容
第 1 回	オリエンテーション	実習の意義と目的・形態と方法・実施計画等 (担当：上田)
第 2 回	施設実習とはなにか	保育士資格取得における施設実習の意義や目的 (担当：森)
第 3 回	実習生とは	心得・マナー・守秘義務 (担当：上田)
第 4 回	施設実習の基本的理解	施設で働く保育士の職務内容：根拠となる法律 (担当：森)
第 5 回	保育所実習①	子どもの育ちを支える保育実践 (担当：上田)
第 6 回	施設実習に対する不安	実習への不安について： 事例から (担当：森)
第 7 回	保育所実習②	保育所の社会的役割 保育所見学事前学習 実習服用の名札製作 1 (担当：上田) *材料そろえまで
第 8 回	実習までに身につけておくこと	生活技術を身につけよう (担当：森) *名札製作 2
第 9 回	保育所見学実習①	学外保育所見学実習 前半グループ (担当：上田)
第 10 回	保育所見学実習②	学外保育所見学実習 後半グループ (担当：上田)
第 11 回	施設実習の種類と概要 1	各実習施設の種類と概要・業務内容の理解 前半 (担当：森)
第 12 回	施設実習の種類と概要 2	各実習施設の種類と概要・業務内容の理解 後半 (担当：森)
第 13 回	保育所見学事後学習	保育者に求められる資質・保育士の職務と役割等・敬語の使い方 (担当：上田)
第 14 回	夏期休暇中の過ごし方 1	実習生に求められるもの (夏期休業中の準備) (担当：森)
第 15 回	守秘義務	守秘義務と個人情報について (担当：森)
定期試験は実施しない。		
準備学修	指定された部分の予習 (各回 1h 程度)、名札製作。(1~3h 程度)	
事後学修	各回の振り返りで学びを深める (レポート課題)。(各 1~2h)	
注意事項	実習に出る人は必ず受けなければならないので、欠席はできません。	
備考	プレ実習、地域のボランティア活動への参加を推奨 (施設)。	

8G2N310455		授業科目名 (英文名)		保育実習指導 I (Guidance For Nurturing Practice I)			関係資格		幼稚園教諭二種免許状		
									保育士資格		○
学年	1年	学期	後期	卒業 必修・選択		選択	単位数	2	授業形態	演習	
担当教員名		森 依子 上田 真由美			担当形態			オムニバス			
メールアドレス		mori@higashikyusyu.ac.jp ueda@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー			月金以外の4コマ修了後1h 授業終了後、又は事前連絡後			
【授業の概要】											
1年後期に実施する、初めての実習に向けての事前指導として行われる授業である。この授業は前期・後期通年で行われる。前期に引き続き、今後実施される実習の基本について講義を行う。前期までの理解を踏まえて、後期は学生自身で内諾、事前訪問などの手続き等を進めていく。施設実習指導と保育所実習指導を交互に行なう。											
【授業の到達目標】											
(1)対象となる子どもや利用者に対しての、実習先でのかかわり方や援助、支援について理解し説明することができる。											
(2)保育所、施設での援助と環境構成について、観察、記録を行えるようになる。また、実習では短い時間の保育を任されることもあるので、保育の計画を理解し、取り組むことができる。											
(3)実習に必要な手続きを行うために必要な実習生としてふさわしい礼儀作法や行動することができる。											
【本科目と学修成果との関連】			知識・技能			思考力・判断力・表現力			態度・志向性		
I：保育者基礎力											
II：子ども・家庭支援力											
III：保育実践力											
IV：社会人基礎力・社会貢献力			○			○			◎		
【アクティブラーニング】			知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造		
			○		○		○		○		
			<具体的な方法> 指導案作成・必要物準備・模擬保育・実習先調査								
学修成果のフィードバック			個人の課題はお互いに必要部分を共有したあと返却します。								
【成績評価の方法及び基準】			定期試験 (%)	課題・作品・ レポート (50%)	発表 (20%)	指導案 (30%)	(%)	(%)			
学修成果 I	知識・技能										
	思考力・判断力・表現力										
	態度・志向性										
学修成果 II	知識・技能										
	思考力・判断力・表現力										
	態度・志向性										
学修成果 III	知識・技能										
	思考力・判断力・表現力										
	態度・志向性										
学修成果 IV	知識・技能			○	○	○					
	思考力・判断力・表現力			○	○	○					
	態度・志向性			○	○	○					

実務経験	有 有	保育士として勤務 2 年 保育士として勤務 13 年
実務経験をいかした教育内容	保育士経験からの指導	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	—	
テキスト・参考図書・参考資料	〈テキスト〉守巧他『施設実習パーフェクトガイド』わかば社 (2023) 厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館 (2018) 田中亨胤監修、山本淳子編著『実習の記録と指導案』 ひかりのくに (2018) 〈参考図書〉大豆生田啓友、渋谷行成、鈴木美枝子、田澤里喜 編著『これからの時代の保育者養成・実習ガイド』中央法規 (2020) 小櫃智子他『実習日誌・実施道案パーフェクトガイ ド』わかば社 (2024) 『幼稚園・保育所・認定こども園実習パ ーフェクトガイド』わかば社 (2023)	
授業計画	授業項目	授業内容
第 1 回	指導計画について①	指導案・実習課題・内諾について (担当：上田)
第 2 回	実習施設の利用者 (施設)	施設での子どもや利用者が抱える問題 (担当：森)
第 3 回	指導計画について②	指導案の立て方について ・実習課題の作成 (担当：上田)
第 4 回	施設先を調べる 1 (施設)	施設を調べる 1：実習課題・必要文書の説明と理解 (担当：森)
第 5 回	指導計画について③	指導案の立て方について (担当：上田)
第 6 回	施設先を調べる 2 (施設)	施設を調べる 2：実習課題・必要文書の準備 (担当：森)
第 7 回	実習日誌の書き方①	実習日誌の書き方① 事前訪問について (担当：上田)
第 8 回	施設事前訪問について (施設)	事前訪問の留意点と準備・必要文書の確認 (担当：森)
第 9 回	実習日誌の書き方②	オリエンテーションについて (担当：上田)
第 10 回	実習に向けての準備 (施設)	施設実習中の内容、留意事項、評価方法について (担当：森)
第 11 回	実習における心得	実習評価・全国保育士会倫理綱領【模擬保育】 (担当：上田)
第 12 回	実習日誌の書き方 1 (施設)	実習日誌の書き方と留意点 1 (担当：森)
第 13 回	指導案	指導案に基づいた模擬保育【模擬保育】 担当：上田
第 14 回	実習日誌の書き方 2 (施設)	実習日誌の書き方と留意点 2：必要部分の記入作業 (担当：森)
第 15 回	実習直前指導 (保育所)	直前チェック・連絡方法・終了後の手続き等【配付物】 (担当：上田)
定期試験は実施しない。		
準備学修	指定部分の予習 (各回 1h 程度)、指導案・模擬保育の準備 (3～5h)、実習課題 (2～3h)。	
事後学修	各回の振り返りで学びを深める (レポート課題)。(1～2h)	
注意事項	実習に出る人は必ず受けなければならないので、欠席しないようにしてください。	
備考	実習直前オリエンテーション (学内) 保育所・施設各々：持参文書・連絡方法・準備物の確 認・礼状書き方	

6B1T310511		授業科目名 (英文名)		情報処理論 (Information Processing Theory)		関係資格	幼稚園教諭二種免許状 保育士資格		○
学年	1年	学期	前期	卒業 必修・選択	必修	単位数	1	授業形態	講義
担当教員名		東 正治			担当形態		単独		
メールアドレス		support@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		担当授業終了後 10 分程度		
【授業の概要】 情報化社会の特徴と課題、ICT の活用の実践など、具体事例を中心とした講義、実習、および討議を中心に進める。									
【授業の到達目標】 (1)情報機器を適切に取り扱い、氾濫する「情報」を選択理解し、適切に処理するための情報リテラシーについて述べるができる。 (2)情報機器を活用した画像・文字・知識の情報処理の基礎理論について説明することができる。 (3)情報処理活用能力による問題解決力を身につけ、実施することができる。 (4)幼児教育の実践に必須の ICT 活用の基礎的な知識技術を理解し、活用することができる。									
【本科目と学修成果との関連】		知識・技能			思考力・判断力・表現力		態度・志向性		
I：保育基礎力		◎			○				
II：子ども・家庭支援力					○		○		
III：保育実践力					○				
IV：社会人基礎力・社会貢献力		○							
【アクティブラーニング】		知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造	
		○		-		-		○	
		<具体的な方法>KJ法、グループディスカッション							
学修成果のフィードバック		課題は次回授業時に返却する。							
【成績評価の方法及び基準】		課題・作品・ レポート (90%)	発表 (10%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
学修 成果 I	知識・技能	○							
	思考力・判断力・表現力	○							
	態度・志向性								
学修 成果 II	知識・技能								
	思考力・判断力・表現力	○							
	態度・志向性		○						
学修 成果 III	知識・技能								
	思考力・判断力・表現力	○							
	態度・志向性								
学修 成果 IV	知識・技能	○							
	思考力・判断力・表現力								
	態度・志向性								

実務経験	有	高等学校情報科教諭 20 年
実務経験をいかした教育内容	情報処理を活用し、保育現場での問題解決を実践できる講義を行う。	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	—	
テキスト・参考図書・参考資料	〈テキスト〉なし 〈参考資料〉適宜資料を配付する	
授業計画	授業項目	授業内容
第 1 回	オリエンテーション	情報処理論を学ぶ意味、情報化社会を生きる
第 2 回	コンピュータの歴史	コンピュータの歴史、特徴、種類
第 3 回	アプリケーション利用(1)	情報検索、図書検索の方法
第 4 回	アプリケーション利用(2)	ワープロ・表計算ソフトの特徴
第 5 回	アプリケーション利用(3)	レポートの書き方 1
第 6 回	アプリケーション利用(4)	プレゼンテーションの特徴、PowerPoint の基礎
第 7 回	インターネットと電子メール	インターネットの歴史と仕組み、ネットサービス、電子メール
第 8 回	情報モラル	著作権、知的財産権、インターネット利用のルールとマナー
定期試験は実施しない。		
準備学修	配布資料を読んで予習する。(各回 1h)	
事後学修	講義ノートを用いて授業内容の理解を深める。(各回 1h)	
注意事項	—	
備考	課題はファイルに保管する。	

6A2T310520		授業科目名 (英文名)		情報処理演習 (Information Processing Training)		関係資格		幼稚園教諭二種免許状 保育士資格		○
学年	1年	学期	通年	卒業 必修・選択	選択	単位数	1	授業形態	演習	
担当教員名		東 正治			担当形態		単独			
メールアドレス		support@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		担当授業終了後 10 分程度			
【授業の概要】 ・ 演習を通して、幼稚園での事務処理に必要な Office の活用技術を習得する。 ・ Excel ファイルや課題は個人フォルダに保存する。										
【授業の到達目標】 (1)幼稚園の事務処理に必要な Office の基本操作および応用技術を身につけ、活用することができる。 (2)「指導案」、「園だより」、「児童台帳」などの作成技術を習得し、作成することができる。										
【本科目と学修成果との関連】		知識・技能			思考力・判断力・表現力			態度・志向性		
I：保育者基礎力		◎			○					
II：子ども・家庭支援力					○					
III：保育実践力		◎						○		
IV：社会人基礎力・社会貢献力								○		
【アクティブラーニング】		知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造		
		○		○		-		-		
		<具体的な方法> KJ 法、グループディスカッション								
学修成果のフィードバック		課題は次回授業時に返却する。								
【成績評価の方法及び基準】		課題・作品・ レポート (90%)	発表 (10%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
学修 成果 I	知識・技能	○								
	思考力・判断力・表現力	○								
	態度・志向性									
学修 成果 II	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力	○	○							
	態度・志向性									
学修 成果 III	知識・技能	○								
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性		○							
学修 成果 IV	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性		○							

実務経験	有	高等学校情報科教諭 20 年
実務経験をいかした教育内容	教育現場での授業経験に基づき保育現場で適応できる実践的な講義を行う。	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	—	
テキスト・参考図書・参考資料	〈テキスト〉なし 〈参考資料〉適宜資料を配付する	
授業計画	授業項目	授業内容
第 1 回	オリエンテーション	Windows の起動、操作、ID と情報セキュリティ、E-mail
第 2 回	ワープロ(1)	文章作成の基本、Word の基本操作
第 3 回	ワープロ(2)	お便りを作ろう
第 4 回	ワープロ(3)	図が入ったお便りの作成
第 5 回	ワープロ(4)	表が入ったお便りの作成
第 6 回	表計算(1)	表計算の基礎、Excel の基本操作
第 7 回	表計算(2)	セルの操作、標準関数の機能と利用
第 8 回	表計算(3)	グラフの作成
第 9 回	表計算(4)	「クラス表」、「年間カレンダー」の作成
第 10 回	表計算(5)	「児童台帳」の作成
第 11 回	表計算(6)	「身体測定記録表」の作成
第 12 回	プレゼンテーション(1)	プレゼンテーションの技法、PowerPoint の基本操作
第 13 回	プレゼンテーション(2)	幼稚園の案内の作成
第 14 回	プレゼンテーション(3)	クラス紹介の作成
第 15 回	まとめ	フォルダ整理、PC の管理
定期試験は実施しない。		
準備学修	配布資料を読んで予習する。(各回 30min) 課題文章・表作成の事前準備をする。(各回 30min)	
事後学修	配付資料や講義ノートを用いて授業内容の理解度を深める。(各回 30min) 授業で活用した操作方法を利用した復習で完成度を高める。(各回 30min)	
注意事項	—	
備考	個人情報 (ID、PW)、フラッシュメモリの管理などの情報セキュリティに十分注意する。	

3B2F310560		授業科目名 (英文名)		ゼミナール I (Seminar I)		関係資格		幼稚園教諭二種免許状 保育士資格	
学年	1年	学期	前期	卒業 必修・選択	選択	単位数	1	授業形態	演習
担当教員名		江玉 睦美 ほか学科教員			担当形態		複数		
メールアドレス		edama@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		昼休み(金曜日を除く)		
【授業の概要】 専門科目を学ぶ大学生としての心構えや、保育者としての資質を理解するための基礎学習を行う。									
【授業の到達目標】 (1)大学生としての学習方法や言葉遣い、日常のマナーを理解し、実践することができる。 (2)保育者に必要な専門的な学修を行うための態度をとることができる。									
【本科目と学修成果との関連】		知識・技能			思考力・判断力・表現力		態度・志向性		
I：保育基礎力		○			○		○		
II：子ども・家庭支援力									
III：保育実践力									
IV：社会人基礎力・社会貢献力		◎			◎		◎		
【アクティブラーニング】		知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造	
		○		-		-		-	
		<具体的な方法> 学修者が問題解決型学習を行うことによって、認知的、倫理的、社会的能力、知識、教養などの能力の向上や育成を目指す。							
学修成果のフィードバック		課題は次回授業時に返却する。							
【成績評価の方法及び基準】		定期試験 (%)	課題・作品・ レポート (100%)	発表 (%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
学修 成果 I	知識・技能		○						
	思考力・判断力・表現力		○						
	態度・志向性		○						
学修 成果 II	知識・技能								
	思考力・判断力・表現力								
	態度・志向性								
学修 成果 III	知識・技能								
	思考力・判断力・表現力								
	態度・志向性								
学修 成果 IV	知識・技能		○						
	思考力・判断力・表現力		○						
	態度・志向性		○						

実務経験	—	—
実務経験をいかした教育内容		幼稚園、保育所、児童福祉施設での経験に基づき、現場の実態に即した実践的な講義を行う。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者		幼稚園教諭、保育士、児童福祉施設等の職員
テキスト・参考図書・参考資料		<p>〈テキスト〉 適宜資料を配布する。</p> <p>〈参考図書〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『幼稚園教育要領解説』（平成 29 年告示 文部科学省）フレーベル館、2018 年 ・『保育所保育指針解説』（平成 29 年告示 厚生労働省）フレーベル館、2018 年 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成 29 年告示 内閣府）フレーベル館、2018 年
授業計画	授業項目	授業内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の説明（担当：江玉）
第 2 回	大学での学び①	大学で学ぶということ、学内見学（担当：江玉）
第 3 回	大学での学び②	講義の受け方、レポートの書き方等（担当：江玉）
第 4 回	大学での学び③	プレゼンテーションの資料の作り方、発表等（担当：江玉）
第 5 回	保育者になるために	資格・免許の取得と授業について（担当：江玉）
第 6 回	保育者とは	保育者に求められるものについて考える（担当：江玉）
第 7 回	目指す保育者像	自分の目指す保育者像と明確にする（担当：江玉）
第 8 回	マナーを学ぶ I	保育者に求められる挨拶、身だしなみ、電話対応等（担当：上田）
第 9 回	マナーを学ぶ II	正しい敬語、訪問時のマナー、お茶のマナー等（担当：森）
第 10 回	マナーを学ぶ III	日常生活のマナーを身につけ、実習や訪問の機会を設定し考える（担当：上田、森）
第 11 回	はがき・手紙の書き方	はがき・手紙の書き方の基本を学び、恩師にはがきを書く（担当：桑原）
第 12 回	幼稚園を知る	卒業生を招いて（外部講師）（担当：江玉）
第 13 回	保育所（園）を知る	卒業生を招いて（外部講師）（担当：上田）
第 14 回	施設を知る	卒業生を招いて（外部講師）（担当：森）
第 15 回	評価・まとめ	レポート作成、ファイルを整理する（担当：江玉）
定期試験は実施しない。		
準備学修	指示された事項の予習をする。（各回 90min）	
事後学修	配布資料や講義ノートを用いて授業内容の理解度を深める。（各回 90min）	
注意事項	授業計画の順番は入れ替わることがある。	
備考	—	

3A2F310561		授業科目名 (英文名)		ゼミナールⅡ (SeminarⅡ)		関係資格		幼稚園教諭二種免許状 保育士資格	
学年	1年	学期	後期	卒業 必修・選択	選択	単位数	1	授業形態	演習
担当教員名		江玉睦美 ほか学科教員			担当形態		複数		
メールアドレス		edama@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		昼休み(金曜日を除く)		
【授業の概要】 音楽表現・造形表現・言語表現・身体表現を融合させた作品を制作し、発表する。前半は学園祭での発表に向けた準備、後半は幼稚園・保育所(園)で行う表現活動の発表に向けた準備として進める。									
【授業の到達目標】 (1)5領域における保育内容を総合的に捉え、各領域の相互関係について説明することができる。 (2)表現活動の発表を通して、保育者として必要な基礎的技術の深まりと豊かな人間力を表現することができる。									
【本科目と学修成果との関連】		知識・技能			思考力・判断力・表現力		態度・志向性		
Ⅰ：保育者基礎力									
Ⅱ：子ども・家庭支援力									
Ⅲ：保育実践力		◎			◎		○		
Ⅳ：社会人基礎力・社会貢献力									
【アクティブラーニング】		知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造	
		—		○		○		○	
		<具体的な方法>履修者が問題解決型学習を行い積極的に参加をすることにより、認知的、論理的、知識、教養などの能力の向上や育成を目指す。							
学修成果のフィードバック		レベルをあげるために必要に応じて教員から講評を行ったり、学生同士による進捗状況の確認や議論を行う。							
【成績評価の方法及び基準】		定期試験 (%)	課題・作品・ レポート (50%)	発表 (50%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
学修成果Ⅰ	知識・技能								
	思考力・判断力・表現力								
	態度・志向性								
学修成果Ⅱ	知識・技能								
	思考力・判断力・表現力								
	態度・志向性								
学修成果Ⅲ	知識・技能			○					
	思考力・判断力・表現力		○	○					
	態度・志向性		○						
学修成果Ⅳ	知識・技能								
	思考力・判断力・表現力								
	態度・志向性								

実務経験	—	—
実務経験をいかした教育内容		—
担当教員以外で指導に関わる実務経験者		—
テキスト・参考図書・参考資料	〈テキスト〉 配布資料等	
授業計画	授業項目	授業内容
第1回	オリエンテーション	演習内容の説明を行う
第2回	計画・立案	作品制作の計画を立てる（プレゼンテーション）
第3回	役割分担	音楽・造形・台詞・演出等を考える
第4回	演習 1	音楽（歌唱・効果音）・造形（道具・衣装）・演出（舞台構成・動き・台詞・照明）を準備する。
第5回	演習 2	音楽（歌唱・効果音）・造形（道具・衣装）・演出（舞台構成・動き・台詞・照明）の各分野を完成する
第6回	演習 3	音楽（歌唱・効果音）・造形（道具・衣装）・演出（舞台構成・動き・台詞・照明）の全体を完成する
第7回	リハーサル	通し稽古
第8回	ゲネプロ	本番と同じ状態での最終通し稽古
第9回	発表	学園祭にて実演
第10回	評価	制作活動の過程や実演についての省察と評価
第11回	発表準備	グループに分かれて、幼稚園・保育所（園）で行う表現活動の発表準備を行う
第12回	幼稚園・保育所（園）での発表 1	音楽（歌唱・効果音）・造形（道具・衣装）・演出（舞台構成・動き・台詞・照明）を準備する
第13回	幼稚園・保育所（園）での発表 2	音楽（歌唱・効果音）・造形（道具・衣装）・演出（舞台構成・動き・台詞・照明）の各分野を完成する
第14回	幼稚園・保育所（園）での発表 3	音楽（歌唱・効果音）・造形（道具・衣装）・演出（舞台構成・動き・台詞・照明）の全体を完成する
第15回	総括	レポートにて振り返りを行う
定期試験は実施しない。		
準備学修	指示された事項、各自の役割に応じて個人やグループで準備、自主稽古する。（各回 2h）	
事後学修	授業内で行った内容を個人練習・グループ練習する。（各回 2h）	
注意事項	授業計画の順番は入れ替わることがある。	
備考	学園祭の準備は 2 年生と合同で行う。	

専門科目 (2年)

4B1N310040		授業科目名 (英文名)		子ども家庭福祉 (Child and Family Welfare)		関係資格		幼稚園教諭二種免許状 保育士資格		○
学年	2年	学期	前期	卒業 必修・選択	選択	単位数	2	授業形態	講義	
担当教員名		古屋 康博			担当形態		単独			
メールアドレス		support@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		授業後 10分程度			
【授業の概要】										
子ども家庭福祉の考え方、保育との関連性、子どもの人権擁護、法制度や実施体系、子ども家庭福祉の現状と問題点などについて講義と課題を通して学んでいく。										
【授業の到達目標】										
子ども家庭福祉の考え方、保育との関連性、子どもの人権擁護、法制度や実施体系、子ども家庭福祉の現状と問題点などについて学ぶことで、子ども家庭福祉の全体像を体系的に述べることができる。										
【本科目と学修成果との関連】		知識・技能			思考力・判断力・表現力			態度・志向性		
Ⅰ：保育基礎力		◎			◎					
Ⅱ：子ども・家庭支援力		○			○			○		
Ⅲ：保育実践力										
Ⅳ：社会人基礎力・社会貢献力								◎		
【アクティブラーニング】		知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造		
		○		○		-		-		
		<具体的な方法> グループディスカッション、グループワーク、フィールドワーク								
学修成果のフィードバック		課題は次回授業時に返却する。								
【成績評価の方法及び基準】		定期試験 (60%)	課題・作品・ レポート (40%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	
学修 成果 Ⅰ	知識・技能	○								
	思考力・判断力・表現力		○							
	態度・志向性									
学修 成果 Ⅱ	知識・技能	○								
	思考力・判断力・表現力		○							
	態度・志向性		○							
学修 成果 Ⅲ	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修 成果 Ⅳ	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性		○							

実務経験	有	児童養護・児童家庭福祉センター勤務 24 年
実務経験をいかした教育内容	経験に基づき事例等を交えながら実践的な講義を行う。	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	—	
テキスト・参考図書・参考資料	〈テキスト〉 林浩康『子どもと福祉 子ども・家庭支援論（第3版）』 福村出版	
授業計画	授業項目	授業内容
第1回	子ども福祉の意義	子ども家庭福祉の目的、現代社会における子ども
第2回	児童福祉の展開	イギリス・アメリカ・日本における児童福祉政策の展開
第3回	現代における子育ての状況	未就学児の状況とその課題、社会的子育て観の醸成
第4回	家族支援の背景と目的	家族支援を必要とする背景と現代における家族の状況
第5回	子ども支援の基本的考え方	自立支援という考え方
第6回	子ども支援の実際（1）	自立支援における回復的ケアの必要性
第7回	子ども支援の実際（2）	支援にかかわる職員自身のケアのあり方
第8回	子ども関連法制度と機関	関連法、関連機関・施設、職員倫理、苦情解決と権利擁護
第9回	家族内暴力の状況と課題	子ども虐待の要因と社会的取り組み及び課題
第10回	社会的養護の現状と課題	社会的養護関係施策とその体制、家族支援と自立支援
第11回	非行の捉え方	非行の実態と対応
第12回	ひとり親家族の現状と支援	母子家族・父子家族の現状とその支援のあり方
第13回	乳幼児期・学童期における生活状況とその社会的保障	保育所・認定こども園、学童期の放課後生活保障
第14回	母子保健施策の現状と課題	子どもの健康と母子保健、母子保健施策の現状
第15回	今後の課題	児童福祉政策の動向と課題
定期試験		
準備学修	授業終了時に次回講義テキスト範囲を伝えます。事前学習として読んだ上で受講してください。（各回 1h）	
事後学修	配布資料を用いて授業内容の理解度を深める。（各回 1h）	
注意事項	授業終了時にまとめとして課題を提示しますので、小レポートとして提出してください。	
備考	テキストは購入し、授業に持ってきてください。なお講義で配布する資料に関しては、ファイルに綴じておくこと。	

6A2N310060		授業科目名 (英文名)		子育て支援 (Child Care Support)		関係資格		幼稚園教諭二種免許状 保育士資格		○
学年	2年	学期	前期	卒業 必修・選択	選択	単位数	1	授業形態	演習	
担当教員名		森 依子 上田 真由美			担当形態		オムニバス			
メールアドレス		mori@higashikyusyu.ac.jp ueda@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		月金以外の4限終了後1時間			
<p>【授業の概要】 ①保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等について、その特性の理解と、展開を考える。②多様な子育て家庭の問題を事例等を通して問題解決を考える。そのために、調査を行なうこともある。③子育て支援を、地域のひろばの場や対象に合った内容と方法を考え、多角的な視点から考える。</p>										
<p>【授業の到達目標】 (1)保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する子育て支援の内容(相談、助言、情報提供、行動見本の提示等)の特性について説明することができる。 (2)保育士の行う子育て支援の内容にかかわる環境配慮や展開を理解し、説明することができる。 (3)保育士の行う子育て支援の方法および技術を理解し、実践することができる。</p>										
【本科目と学修成果との関連】			知識・技能		思考力・判断力・表現力		態度・志向性			
I: 保育者基礎力										
II: 子ども・家庭支援力			○		○		◎			
III: 保育実践力			○		○		◎			
IV: 社会人基礎力・社会貢献力										
【アクティブラーニング】			知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造	
			○		○		○		○	
			<p><具体的な方法>①現地で実際に子育て支援のひろばを見学し、理解する。子育て支援のひろばでは子育て支援のために子どもたちへの保育内容の一部を実演する。見学の後、自分の考えをまとめたり、他の人の意見を聞いたりして考察を深める。</p>							
学修成果のフィードバック			計画書等作品は掲示したり共有する。返却できるものは返却する。							
【成績評価の方法及び基準】			定期試験 (%)	課題・作品・ レポート (40%)	発表 (10%)	グループ行動 (25%)	実践演習 (25%)	(%)		
学修 成果 I	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修 成果 II	知識・技能			○						
	思考力・判断力・表現力			○		○	○			
	態度・志向性				○	○	○			
学修 成果 III	知識・技能			○						
	思考力・判断力・表現力			○		○	○			
	態度・志向性				○	○	○			
学修 成果 IV	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									

実務経験	有 有	保育士・ひろばスタッフとして勤務 保育士として勤務 13 年
実務経験をいかした教育内容		保育士・ひろばスタッフの経験から実践へ助言。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者		子育て支援に関わる地域の行政の職員やスタッフ
テキスト・参考図書・参考資料		〈テキスト〉新基本保育シリーズ⑱『子育て支援』児童育成協会監修、中央法規
授業計画	授業項目	授業内容
第 1 回	子どもの保育と保護者の支援	子どもの保育とともに行なう保護者の支援（担当：上田）
第 2 回	保護者の相互理解と信頼関係の形成	保護者との相互理解と信頼関係の形成（担当：上田）
第 3 回	支援のニーズへの気づきと多面的な理解	保護者や家庭の現状・個別の支援（担当：上田）
第 4 回	社会資源の活用と連携	社会資源とは何か（担当：上田）
第 5 回	地域の子育て家庭に対する支援 1	地域での子育て支援を見学する準備（担当：上田・森）
第 6 回	地域の子育て家庭に対する支援 2	地域での子育て支援を見学する（担当：上田・森）
第 7 回	職員間の連携・協働	職員間の連携と協働の必要性（担当：上田）
第 8 回	保育所等における支援	保護者の子育てに関する相談内容（担当：上田）
第 9 回	子ども・保護者の状況・状態の理解	子育て支援における支援のプロセスの意義（担当：森）
第 10 回	支援の計画と環境の構成	目標の設定・支援内容や方法の計画（担当：森）
第 11 回	支援実践・記録・評価・カンファレンス	支援の実践を考察する（担当：森）
第 12 回	障がいのある子どもとその家庭への支援	障害児支援の事業体系、関連機関とのネットワークの構築（担当：森）
第 13 回	特別な配慮を要する子どもと家庭の支援	保護者自身に特別な配慮が必要な場合を検討する（担当：森）
第 14 回	子ども虐待の予防と防止と対応	児童問題の背景（担当：森） ゲストティチャー他
第 15 回	多様な支援ニーズをかかえる家庭の理解	地域支援へのつながり・多文化共生社会（担当：森）
定期試験は実施しない。		
準備学修	事前に示す課題部分を読む。また新出の用語を調べておく。(各回 1h 程度) 他者と共同で行なう実践準備や見学を成功させるために協力して行なう。(各 2h 程度)	
事後学修	ふり返りを行う(各回 1h) 実践後のレポートを記述(各 1h 程度)	
注意事項	アクティブラーニングや実践に参加し、課題を提出しなければ失点されるので注意をする。	
備考	—	

6A2N310071		授業科目名 (英文名)	社会的養護Ⅱ (Social Care Ⅱ)			関係資格	幼稚園教諭二種免許状 保育士資格	○
学年	2年	学期	前期	卒業 必修・選択	選択	単位数	1	授業形態 演習
担当教員名		森 依子			担当形態		単独	
メールアドレス		mori@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		月金以外の4限終了後1時間	
【授業の概要】 基本理念を踏まえて社会的養護の知識を深める。さらに、子どもの権利を護る保育士の価値と専門性を意識し、社会的養護の具体的な方法について実践的に学んでいく。								
【授業の到達目標】 (1)施設の実践事例を理解し、説明することができる。 (2)社会的養護に関心や興味を持ち調べて説明することができる。 (3)実践事例により、社会的養護に求められる専門性について述べるることができる。								
【本科目と学修成果との関連】			知識・技能		思考力・判断力・表現力		態度・志向性	
Ⅰ：保育者基礎力								
Ⅱ：子ども・家庭支援力			○		◎		○	
Ⅲ：保育実践力			◎		○		○	
Ⅳ：社会人基礎力・社会貢献力								
【アクティブラーニング】			知識の定着・確認	表現志向		応用志向		知識の活用・創造
			—	○		○		◎
			<具体的な方法>パワーポイント等を用いての意見や感想の共有、グループでの模擬課題のファシリテーション					
学修成果のフィードバック			課題は、採点后説明をして返却。調査物に関しては内容を講義内で提示や共有後返却。レポート課題は後で返却。グループ課題は発表を行う					
【成績評価の方法及び基準】			定期試験 (50%)	課題・作品・ レポート (10%)	演習課題 (40%)	(%)	(%)	(%)
学修 成果 Ⅰ	知識・技能							
	思考力・判断力・表現力							
	態度・志向性							
学修 成果 Ⅱ	知識・技能		○					
	思考力・判断力・表現力			○	○			
	態度・志向性				○			
学修 成果 Ⅲ	知識・技能		○					
	思考力・判断力・表現力			○	○			
	態度・志向性				○			
学修 成果 Ⅳ	知識・技能							
	思考力・判断力・表現力							
	態度・志向性							

実務経験	無	—
実務経験をいかした教育内容		—
担当教員以外で指導に関わる実務経験者		社会的養護施設、または児童相談所職員
テキスト・参考図書・参考資料		〈テキスト〉『図解で学ぶ保育 社会的養護Ⅱ』杉山宗尚、原田旬哉他 (萌文書林) 〈参考資料〉『新・基本保育シリーズ 18 社会的養護Ⅱ』公益財団法人 児童育成会 監修/相澤仁、村井美紀、大竹智編集 (中央法規)
授業計画	授業項目	授業内容
第1回	社会的養護の理解のために1	第2次世界大戦以降の社会的養護
第2回	社会的養護の理解のために2	特別養子縁組について
第3回	アドミッションケア1	子どもの保護について (一時保護)
第4回	アドミッションケア2	子どもを受入れるにあたって: 権利擁護
第5回	インケア1	日常生活支援 豊かな暮らしのために
第6回	インケア2	治療的支援 心のケア
第7回	リービングケア1	社会への巣立ち
第8回	リービングケア2	生き立ちの理解
第9回	アフターケア1	家庭復帰に伴うアフターケア
第10回	アフターケア2	就職・進学によって社会へ出た子どもへのアフターケア
第11回	ソーシャルワーク1	ソーシャルワークとは1 ソーシャルワークの定義について
第12回	ソーシャルワーク2	ソーシャルワークとは2 ソーシャルワークの技法について
第13回	記録と評価1	記録の必要性
第14回	記録と評価2	ケアプランの策定
第15回	社会的養護についてのまとめ	社会的養護Ⅱのまとめ
定期試験		
準備学修	事前に示す課題の事例を読み考えておく。用語の意味を調べる。(各回 1h 程度)	
事後学修	ふり返し (各回 1h 程度) 演習後の感想やレポート等 (各回 1h)	
注意事項	行なう演習や課題は評価点になります。グループ演習はその参加と発表物とともに評価されます。	
備考	社会的養護に関する時事やニュースに日頃から関心を持つようにしてください。調べものは近隣の公共の図書館などを活用してください。	

6A2N310120		授業科目名 (英文名)		子どもの健康と安全 (Child Health and Safety)		関係資格	幼稚園教諭免許状 保育士資格		○
学年	2年	学期	前期	卒業 必修・選択	必修	単位数	1	授業形態	演習
担当教員名		小林 芳子			担当形態		単独		
メールアドレス		support@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		授業開始 10 分前		
【授業の概要】 ・保育における衛生・危機管理、安全・災害対策についてガイドラインや、最近のデータを踏まえ学習する。 ・子どもの体調不良に対する適切な対応について、具体的に学習する。 ・子どもの健康及び、安全の管理に関わる取り組みや保健活動の計画、評価について学習する。									
【授業の到達目標】 (1)保育における衛生・危機管理、安全・災害対策についてガイドラインや、最近のデータを踏まえ説明することができる。 (2)子どもの体調不良や傷害発生時の適切な対応と応急処置について、演習を通して具体的について説明することができる。 (3)子どもの健康及び、安全の管理に関わる職員間の連携・協働と組織的取り組みについて説明することができる。 (4)個別的な配慮を要する子どもへの対応（慢性疾患、アレルギー性疾患）について説明することができる。 (5)職員間の連携・協働と組織的取り組み、家庭、地域、自治体との連携について説明することができる。									
【本科目と学修成果との関連】		知識・技能		思考力・判断力・表現力		態度・志向性			
I：保育者基礎力		◎		○		○			
II：子ども・家庭支援力									
III：保育実践力									
IV：社会人基礎力・社会貢献力									
【アクティブラーニング】		知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造	
		○		○		-		-	
		<具体的な方法> KJ法、ディスカッションに参加し、発表して意見を述べる。							
学修成果のフィードバック		課題は提出させて次回授業時に返却する。							
【成績評価の方法及び基準】		定期試験 (70%)	課題・作品・ レポート (20%)	発表 (10%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
学修成果 I	知識・技能	○	○						
	思考力・判断力・表現力	○	○	○					
	態度・志向性			○					
学修成果 II	知識・技能								
	思考力・判断力・表現力								
	態度・志向性								
学修成果 III	知識・技能								
	思考力・判断力・表現力								
	態度・志向性								
学修成果 IV	知識・技能								
	思考力・判断力・表現力								
	態度・志向性								

実務経験	有	看護師 病院勤務 6年
実務経験をいかした教育内容	病院勤務や高等学校での講義や実習の経験を通し、講義を行う。	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	—	
テキスト・参考図書・参考資料	〈テキスト〉 小林美由紀『子どもの健康と安全演習ノート』改訂第2版（診断と治療社） 〈参考図書〉 中根淳子『子どもの健康と安全』（ななみ書房 2019年）	
授業計画	授業項目	授業内容
第1回	保健的観点を踏まえた保健環境①	子どもの健康と保育環境（健康を守る保育環境 職員・保護者・施設）
第2回	保健的観点を踏まえた保健環境②	健康診査、体調変化の際の個別対応、安全の管理 健康状態を評価
第3回	保育における健康・安全の管理①	施設環境（屋内・屋外）の衛生管理 手洗い 砂場、プール DVD（演習）
第4回	保育における健康・安全の管理②	事故防止および安全対策（事故の特徴、種類と場所）視野体験めがね製作
第5回	危機管理と災害への備え（演習）	保育における危機管理、災害への備え（災害マニュアル）課題
第6回	体調不良等に対する適切な対応	発熱、けいれん、嘔吐、脱水、出血、骨折、傷の対応と薬の投与
第7回	救急処置が必要な場合の判断と対応①	救急処置と心肺蘇生法 アナフィラキシーとエピペン DVD 課題
第8回	救急処置が必要な場合の判断と対応②	消防署から講義と演習の講義（AEDの使用法）演習 動ける服装
第9回	救急処置が必要な場合の判断と対応③	消防署から講義と演習の講義（AEDの使用法）演習 動ける服装
第10回	感染症対策（集団発生の予防）	感染症の症状と対応 突発性発疹、手足口病 麻疹、風疹など
第11回	感染症発生時と罹患後の対応	出席停止期間の基準、感染症罹患後の対応 課題1～4
第12回	保育における保健的対応①	保健的視点 食事 排泄、睡眠、外出、行事における保健的対応 3歳未満児への対応（抱き方、食事、排泄、保清、外出など）
第13回	保育における保健的対応②	慢性疾患や障害 アレルギー疾患、障害への対応 課題1～12
第14回	健康及び安全の管理の実施体制	保健計画作成の根拠と手順（健診、健康観察、保護者への対応） 課題提出（ほけんだより作成）
第15回	健康及び安全の管理の実施体制	職員間の連携・協働（保健所・保健センター・医療機関・地域）
定期試験		
準備学修	テキストを読んで予習する。課題に目を通しておく。（各回1h）	
事後学修	配布資料を用いて授業内容の理解度を深める。（各回1h） 授業で学習したことを、振り返り問題を通して知識を定着させる。（各回30min）	
注意事項	講義ごとに配布するプリントを解く。演習・DVD・製作後のレポートを提出する。	
備考	—	

5B2N310130		授業科目名 (英文名)		子どもの食と栄養 I (Food and Nutrition for Children I)		関係資格		幼稚園教諭二種免許状 保育士資格		○
学年	2年	学期	前期	卒業 必修・選択	選択	単位数	1	授業形態	演習	
担当教員名		麻生 愛子			担当形態		単独			
メールアドレス		asou@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		平日放課後 (～17:00 まで)			
【授業の概要】 「食」を通じ、親子や家族・仲間や地域とのかかわりを深め、小児期の健やかな心と身体の発育を促すため、保育にかかわる者として、食に関する基本的な知識や実際の調理法習得の必要性を理解する。										
【授業の到達目標】 (1)栄養に関する基本的知識を理解し、健康な食生活についての知識について説明することができる。 (2)子どもの食生活上の発育・発達の特徴や、発達に応じた支援の方法について説明することができる。 (3)特別な配慮を必要とする子どもの食と栄養について、近年のデータを踏まえながらその対応方法について説明することができる。										
【本科目と学修成果との関連】		知識・技能			思考力・判断力・表現力			態度・志向性		
I : 保育者基礎力		○								
II : 子ども・家庭支援力		◎			○					
III : 保育実践力		○								
IV : 社会人基礎力・社会貢献力										
【アクティブラーニング】		知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造		
		○		-		-		-		
		<具体的な方法> 食に関する絵本の読み聞かせ								
学修成果のフィードバック		受講記録シートは次回授業時に返却する。								
【成績評価の方法及び基準】		定期試験 (40%)	課題・作品・ レポート (15%)	受講記録 シート提出 (40%)	ファイル 提出 (5%)	(%)	(%)			
学修 成果 I	知識・技能	○	○	○	○					
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修 成果 II	知識・技能	○								
	思考力・判断力・表現力		○	○						
	態度・志向性									
学修 成果 III	知識・技能		○							
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修 成果 IV	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									

実務経験	無	—
実務経験をいかした教育内容		—
担当教員以外で指導に関わる実務経験者		—
テキスト・参考図書・参考資料	〈テキスト〉 児玉浩子『子どもの食と栄養』 中山書店	
授業計画	授業項目	授業内容
第1回	オリエンテーション	小児栄養の意義と重要性 (DVD 鑑賞)
第2回	子どもの心身の健康と食生活	乳幼児の食生活の現状と問題 乳幼児の栄養アセスメント (栄養評価) について
第3回	栄養に関する基本的知識 (1)消化と吸収	食べ物の消化吸収の仕組み 乳幼児の消化吸収機能の発達
第4回	栄養に関する基本的知識 (2)栄養の基礎知識①	栄養素の種類とはたらきを理解する 3大栄養素 (炭水化物、たんぱく質、脂質) について
第5回	栄養に関する基本的知識 (3)栄養の基礎知識②	栄養素の種類とはたらきを理解する 微量栄養素 (ビタミン、ミネラル、水) について
第6回	栄養に関する基本的知識 (4)食品の知識	食品の種類と特徴、食品の機能について (6つの基礎食品群)
第7回	栄養に関する基本的知識 (5)食品の選択	日本人の食事摂取基準について 食生活指針及び食事バランスガイドの活用
第8回	献立作成と調理の基本 伝承料理について	献立作成の手順、調理方法等について 大分県の伝承料理について
第9回	食の安全 (衛生管理)	感染症と食中毒 (種類、発生状況、予防策など) 食品の安全性について (DVD 鑑賞)
第10回	妊娠期・授乳期の食生活	妊婦・授乳期の食事 乳汁栄養 (母乳・人工栄養) について
第11回	離乳期の栄養と食生活	授乳・離乳の支援ガイド 乳幼児期の咀嚼・味覚・消化吸収機能の発達と食事について
第12回	幼児期の栄養と食生活	幼児期の心身の発達と食生活 幼児期の食生活の特徴と問題点
第13回	特別な配慮が必要な子どもの食生活①	乳幼児期の疾病と食生活① (食物アレルギーについて (DVD 鑑賞))
第14回	特別な配慮が必要な子どもの食生活②	乳幼児期の疾病と食生活② (幼児期のその他の疾病について)
第15回	学童期・思春期の栄養と食生活	学童期・思春期の心身の発達と食生活 学童期・思春期の食生活の特徴と問題点
定期試験		
準備学修	授業内容に該当する範囲のテキストに目を通しておく。(各回 1h)	
事後学修	配布資料や返却された受講記録シートを確認し、講義内容の理解度を深める。また、講義資料をファイルに整理して閉じこむ。(各回 1h)	
注意事項	15回の授業の後に、講義資料を閉じたファイルを提出すること。	
備考	—	

5A2N310131		授業科目名 (英文名)		子どもの食と栄養Ⅱ (Food and Nutrition for ChildrenⅡ)		関係資格		幼稚園教諭二種免許状 保育士資格		○
学年	2年	学期	後期	卒業 必修・選択	選択	単位数	1	授業形態	演習	
担当教員名		麻生 愛子			担当形態		単独			
メールアドレス		asou@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		平日放課後 (～17:00 まで)			
【授業の概要】										
保育にかかわる者が実際の保育の場、給食の場において必要とされる食育やクッキング保育についての知識や技術を身につける。										
【授業の到達目標】										
(1)保育の場、給食の場における食育の意義や目的、基本的な考え方について説明することができる。										
(2)家庭や児童福祉施設における子ども達の食生活の現状や問題点について説明することができる。										
(3)食について関心を持ち、実習や演習を通して食べることの楽しさ、大切さを知り、保育者として子どもたちに伝える食の大切さについて述べるができる。										
【本科目と学修成果との関連】		知識・技能			思考力・判断力・表現力			態度・志向性		
Ⅰ：保育者基礎力		○								
Ⅱ：子ども・家庭支援力		○			○					
Ⅲ：保育実践力		◎			○					
Ⅳ：社会人基礎力・社会貢献力										
【アクティブラーニング】		知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造		
		○		○		-		○		
		<具体的な方法> グループ別に調理実習の計画・実施や食育教材を作成し発表する。								
学修成果のフィードバック		受講記録シートは次回授業時に返却する。								
【成績評価の方法及び基準】		定期試験 (%)	課題・作品・ レポート (15%)	発表・ 調理実習 (20%)	受講記録 シート提出 (60%)	ファイル 提出 (5%)	(%)			
学修 成果 Ⅰ	知識・技能				○	○				
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修 成果 Ⅱ	知識・技能		○	○	○					
	思考力・判断力・表現力			○						
	態度・志向性									
学修 成果 Ⅲ	知識・技能		○	○						
	思考力・判断力・表現力			○						
	態度・志向性									
学修 成果 Ⅳ	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									

実務経験	無	—
実務経験をいかした教育内容		—
担当教員以外で指導に関わる実務経験者		—
テキスト・参考図書・参考資料		〈テキスト〉 児玉浩子『子どもの食と栄養』 中山書店
授業計画	授業項目	授業内容
第1回	オリエンテーション 家庭や児童福祉施設における栄養と食生活	食育の基本と実践（食育基本法、食育推進基本計画の概要） 保育所等の食育の推進 家庭における食事の役割、児童福祉施設における食事と栄養
第2回	離乳期の栄養と食生活	離乳の実際（離乳食の進め方）
第3回	調理実習（離乳期の食事）①	離乳期の食事（実習）（実習準備）
第4回	調理実習（離乳期の食事）②	離乳期の食事（実習）（調理実習）
第5回	幼児期の食事	幼児期のお弁当献立作成（テーマ：秋の遠足）
第6回	調理実習（幼児のお弁当）①	幼児期のお弁当作り（実習）（実習準備）
第7回	調理実習（幼児のお弁当）②	幼児期のお弁当作り（実習）（調理実習）
第8回	演習（伝承料理）	日本の行事食・郷土料理について調べる
第9回	クッキング保育計画	クッキング保育について（計画作成）
第10回	調理実習（幼児のおやつ）①	幼児期のおやつ作り（実習）（実習準備）
第11回	調理実習（幼児のおやつ）②	幼児期のおやつ作り（実習）（調理実習）
第12回	食育教材作り①	幼児向け食育教材の作成（内容検討・準備）
第13回	食育教材作り②	幼児向け食育教材の作成（下案作成）
第14回	食育教材作り③	幼児向け食育教材の作成（仕上げ）
第15回	発表・まとめ	幼児向け食育教材の発表、総括
定期試験は実施しない。		
準備学修	授業内容に該当する範囲のテキストに目を通しておく。（各回 1h） 調理実習の前は、献立や作り方を確認しておくこと。（10min 程度） 第 12 回～14 回は、作業が遅れないように、各自空き時間に準備をすること。（30min～1h）	
事後学修	配布資料や返却された受講記録シートを確認し、講義内容の理解度を深める。また、講義資料をファイルに整理して閉じこむ。（各回 1h）	
注意事項	15 回の授業の後に、講義資料を閉じたファイルを提出すること。	
備考	—	

4B1N310140		授業科目名 (英文名)		子ども家庭支援論 (Theories of Child and Family Support)		関係資格		幼稚園教諭二種免許状		
								保育士資格		○
学年	2年	学期	後期	卒業 必修・選択	選択	単位数	2	授業形態	講義	
担当教員名		上田 真由美			担当形態		単独			
メールアドレス		ueda@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		授業終了後, 又は事前連絡後			
【授業の概要】 近年の子どもを取り巻く養育環境の中で, 保育士が担う子どもの家庭支援について学ぶ。さらに, 国の子育て支援の施策や動向を知り, 保育所だけではなく児童養護施設, 療育施設等の社会資源においてすべての子どもの多様な家庭にはたらきかける, 家庭支援の実践の中で求められる意義と役割について理解する。										
【授業の到達目標】 (1) 子どもの育ちを支援することの重要性を説明することができる。 (2) 家庭が必要としている支援の種類・方法・技術等について説明することができる。 (3) 国の子育て支援施策や次世代育成支援施策の流れを学び, 社会全体のなかで保育士の担う子育て支援の位置づけについて述べるることができる。										
【本科目と学修成果との関連】		知識・技能			思考力・判断力・表現力			態度・志向性		
I : 保育基礎力		○			○			○		
II : 子ども・家庭支援力		○			○			◎		
III : 保育実践力										
IV : 社会人基礎力・社会貢献力										
【アクティブラーニング】		知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造		
		○		-		-		○		
		<具体的な方法> 毎回の講義後小レポートを提出し, 知識の定着を確認する。								
学修成果のフィードバック		小レポートは, 次回の授業時に返却する。								
【成績評価の方法及び基準】		定期試験 (%)	課題・作品・ レポート (70%)	発表 (30%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
学修成果 I	知識・技能		○	○						
	思考力・判断力・表現力		○	○						
	態度・志向性			○						
学修成果 II	知識・技能		○							
	思考力・判断力・表現力		○	○						
	態度・志向性		○	○						
学修成果 III	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修成果 IV	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									

実務経験	有	保育士として勤務 13 年
実務経験をいかした教育内容		保育所での保育士の経験から、保育現場では子どもにどのような援助が行われているか、事例を交えて講義を行う。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者		—
テキスト・参考図書・参考資料		〈テキスト〉松本園子/永田陽子/福川須美/森和子 著『実践子ども家庭支援論』（ななみ書房）
授業計画	授業項目	授業内容
第 1 回	子ども家庭支援の意義と役割①	オリエンテーション・子ども家庭支援の意義と必要性
第 2 回	子ども家庭支援の意義と役割②	家族・家庭の動向・現代の子育て困難
第 3 回	保育士による子ども家庭支援①	子ども家庭支援の目的・子ども家庭支援の対象と内容
第 4 回	保育士による子ども家庭支援②	保育士に求められる基本的態度・保育士自身を観る
第 5 回	保育士による子ども家庭支援③	相談・支援への心配り・育児モデルとなる伝承法
第 6 回	多様な支援の展開と関連との連携①	主な連携機関との連携・保育所利用家庭への支援
第 7 回	多様な支援の展開と関連との連携②	地域の子育て家庭への支援
第 8 回	多様な支援の展開と関連との連携③	父親の子育てへの支援・要保護児童への支援
第 9 回	子育て家庭に対する支援の体制①	子育て支援の政策動向
第 10 回	子育て家庭に対する支援の体制②	子育て支援の制度
第 11 回	子育て家庭に対する支援の体制③	子育て家庭の経済的支援—子どもの貧困化
第 12 回	子育て家庭に対する支援の体制④	子どもに関する相談事業と虐待等の予防・発見・対策
第 13 回	子育て家庭に対する支援の体制⑤	保育・預かり型支援・ひとり親家庭等への援助
第 14 回	子育て家庭に対する支援の体制⑥	特別な理解と支援の必要な子どもを育てる家庭支援・社会的養護・子どもを育てる時間の保障・子育て家庭支援の政策動向と課題
第 15 回	世界の子育て	国際比較
定期試験は実施しない。		
準備学修	事前学習として、テキストの指定されたページを読んで予習しておく。(毎回 1h)	
事後学修	授業内での配付資料や、関連するニュース等を調べたりし情報収集を行う。(毎回 1h)	
注意事項	—	
備考	—	

6B1C310150		授業科目名 (英文名)		教育課程論 (Educational Curriculums)		関係資格		幼稚園教諭二種免許状		○
								保育士資格		○
学年	2年	学期	前期	卒業 必修・選択	必修	単位数	2	授業形態	講義	
担当教員名		江玉 睦美			担当形態		単独			
メールアドレス		edama@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		昼休み(金曜日を除く)			
【授業の概要】										
<p>本授業では、幼稚園教育要領を基準として幼稚園、保育所、認定こども園において編成される教育課程・全体的な計画の役割・機能・意義、基本原理・編成方法、カリキュラム・マネジメントの意義と重要性について、事例や映像の分析等を通して学習する。さらに、教育課程・全体的な計画を編成し実践できる保育者として必要な専門性について、グループワークやグループディスカッションを通して検討する。</p>										
【授業の到達目標】										
(1)幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の性格及び位置づけに加えて、それらの改訂の変遷とその社会的背景について説明することができる。										
(2)幼児教育において教育課程・全体的な計画が有する役割・機能・意義について説明することができる。										
(3)教育課程・全体的な計画の編成の基本原理と、実際の教育課程・全体的な計画の在り方を関連づけ、説明することができる。										
(4)子ども、幼稚園、地域の実態を踏まえて教育課程・全体的な計画と指導計画を編成する重要性について述べることができる。										
(5)領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、教育目標を達成することの意義や重要性について述べることができる。										
(6)カリキュラムを評価・改善するための基礎的な考え方について説明することができる。										
【本科目と学修成果との関連】			知識・技能		思考力・判断力・表現力			態度・志向性		
Ⅰ：保育者基礎力			◎							
Ⅱ：子ども・家庭支援力										
Ⅲ：保育実践力			◎		◎			○		
Ⅳ：社会人基礎力・社会貢献力										
【アクティブラーニング】			知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造	
			○		-		-		○	
			<具体的な方法> グループワーク、グループディスカッション							
学修成果のフィードバック			小レポートにより授業内容の理解度をはかり、質問については次回の授業に反映できるようにする。							
【成績評価の方法及び基準】			定期試験 (50%)	課題・作品・ レポート (50%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
学修成果Ⅰ	知識・技能		○	○						
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修成果Ⅱ	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修成果Ⅲ	知識・技能		○	○						
	思考力・判断力・表現力		○	○						
	態度・志向性			○						
学修成果Ⅳ	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									

実務経験	有	幼稚園で幼稚園教諭として勤務
実務経験をいかした教育内容		幼稚園での幼稚園教諭の経験に基づき、保育現場の実態に即した授業を行う。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者		—
テキスト・参考図書・参考資料		<p>〈テキスト〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩崎淳子・及川留美・粕谷亘正編著『教育・保育の計画と評価—書いて学べる指導計画—』萌文書林、2018年 ・『幼稚園教育要領解説』（平成29年告示 文部科学省）フレーベル館、2018年 ・『幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開』（令和3年2月 文部科学省）チャイルド本社、2021年 <p>〈参考図書〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『保育所保育指針解説』（平成29年告示 厚生労働省）フレーベル館、2018年 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成29年告示 内閣府）フレーベル館、2018年
授業計画	授業項目	授業内容
第1回	オリエンテーション—教育課程・全体的な計画が有する意義・役割—	教育課程・全体的な計画の意義と役割
第2回	教育課程・全体的な計画と指導計画	教育課程・全体的な計画編成の基本原則と指導計画とのつながり
第3回	幼稚園教育の基本と教育課程の変遷の歴史	幼稚園教育要領改訂の変遷と改訂内容にみる教育課程の変遷
第4回	幼稚園における教育課程の実際	幼稚園における教育課程と指導計画の実際
第5回	教育実践に即した教育課程の編成	認定こどもや園、地域の実態をふまえた教育課程の編成
第6回	短期指導計画の作成①	幼稚園における短期指導計画の作成
第7回	保育所保育の基本と全体的な計画の変遷の歴史	保育所保育指針の変遷と改訂内容にみる全体的な計画の変遷
第8回	保育所における全体的な計画の実際	保育所における全体的な計画と保育の実際
第9回	短期指導計画の作成②	養護を意識した生活場面の指導
第10回	短期指導計画の作成③	子どもの発達に即した指導計画の作成
第11回	多様な教育・保育計画	小学校との接続、異年齢保育
第12回	カリキュラム・マネジメントの意義と重要性	幼児教育におけるカリキュラム・マネジメントの意義と重要性
第13回	カリキュラム評価の基礎的な考え方	教育課程・全体的な計画・指導計画のPDCAサイクル
第14回	幼稚園・保育所・認定こども園の要録の理解	幼児指導要録・保育児童要録・園児指導要録の理解
第15回	教育課程・保育課程をめぐる現状と課題	教育課程・全体的な計画をめぐる現状と課題
定期試験		
準備学修	テキストの指示されたページを読んで予習する。(各回 90min)	
事後学修	配布資料や講義ノートを用いて授業内容の理解を深める。(各回 90min)	
注意事項	—	
備考	実習中に作成した指導案や実習日誌などを参考資料として活用しますので保管に注意してください。	

6B1C310170		授業科目名 (英文名)		幼児と健康 (Infant and Health)		関係資格		幼稚園教諭二種免許状		○
								保育士資格		○
学年	2年	学期	前期	卒業 必修・選択	選択	単位数	1	授業形態	講義	
担当教員名		小林 宜義 麻生 愛子			担当形態		オムニバス			
メールアドレス		kobayashi@higashikyusyu.ac.jp asou@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		月～木曜日放課後(17:00 まで) 平日放課後 (～17:00 まで)			
【授業の概要】										
<p>健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の指導の基盤となる知識、技能を身につける。具体的には、乳児の心身の発達、基本的生活習慣、安全な生活、運動発達等において、幼児期には大人と違った特徴や意義があることを踏まえ、その相違が指導方法にも関連していることについて理解する。</p>										
【授業の到達目標】										
(1)幼児期の健康課題と健康の発達の意味について説明することができる。										
(2)幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成について説明することができる。										
(3)安全な生活と怪我や病気の予防について説明することができる。										
(4)乳幼児期の運動発達の特徴と意義について説明することができる。										
【本科目と学修成果との関連】			知識・技能			思考力・判断力・表現力			態度・志向性	
I：保育者基礎力										
II：子ども・家庭支援力			◎			○				
III：保育実践力			○			◎				
IV：社会人基礎力・社会貢献力										
【アクティブラーニング】			知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造	
			—		—		—		—	
			<具体的な方法> —							
学修成果のフィードバック			受講記録シートは可能な限り次回授業時に返却する。							
【成績評価の方法及び基準】			定期試験 (30%)	課題・作品・ レポート (30%)	受講記録 シート提出 (40%)	(%)	(%)	(%)		
学修 成果 I	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修 成果 II	知識・技能		○	○						
	思考力・判断力・表現力				○					
	態度・志向性									
学修 成果 III	知識・技能		○	○						
	思考力・判断力・表現力				○					
	態度・志向性									
学修 成果 IV	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									

実務経験	有 無	保育所での運動指導/小学校特別非常勤講師（体育）15年 —
実務経験をいかした教育内容		指導現場で見受けられた身体の変化について、実例を紹介しながら講義を進行していく。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者		—
テキスト・参考図書・参考資料		〈テキスト〉 『デジタル社会の子どもの育ちを支える保育内容 健康 [第2版]』（田口喜久恵 編者、北大路書房） 〈参考図書〉 『幼児期運動指針』（平成24年3月告示、文部科学省） 春日晃章 編集代表『保育内容 健康 [第2版]』みらい 『幼稚園教育要領解説』（平成29年告示、文部科学省） フレーベル館
授業計画	授業項目	授業内容
第1回	乳幼児期の健康課題	健康の定義と乳幼児期の健康の意義、乳幼児を取り巻く生活環境と健康（担当：麻生）
第2回	乳幼児の身体の発達の特徴	乳幼児期の身体的発達の特徴、生理的機能の発達（担当：麻生）
第3回	乳幼児期の生活習慣の形成	乳幼児期の生活習慣（着脱衣、食事、睡眠、清潔、排泄）の獲得及び生活リズムの形成とその意義（担当：麻生）
第4回	幼児の安全教育と危険 （リスクとハザード）	子どもの安全への意識や態度を育むことの重要性と安全管理（担当：麻生）
第5回	幼児期の怪我や自己の特徴 と応急処置・病気の予防	幼児期に起こりやすいけがの特徴と応急処置の基礎及び病気の予防（担当：小林）
第6回	乳幼児期の運動発達の特徴	運動コントロール能力の発達と「多様な動き」の意味及び両者の関係（担当：小林）
第7回	日常生活における運動	社会の変化と生活の中の動きの体験、またその配置の基本的な考え方（担当：小林）
第8回	遊びとしての運動	子どもにとっての遊びとして行う運動のあり方（担当：小林）
定期試験		
準備学修	授業内容に該当する範囲のテキストに目を通しておく。（各回1h）	
事後学修	配布資料や返却された受講記録シートを確認し、講義内容の理解度を深める。 また、講義資料をファイルに整理して閉じこむ。（各回1h）	
注意事項	—	
備考	—	

6B1C310200		授業科目名 (英文名)		幼児と言葉 (Infant and Language)		関係資格		幼稚園教諭二種免許状		○
								保育士資格		○
学年	2年	学期	前期	卒業 必修・選択	選択	単位数	1	授業形態	講義	
担当教員名		江玉 睦美			担当形態		単独			
メールアドレス		edama@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		昼休み（金曜日を除く）			
【授業の概要】										
<p>本授業は、幼児期の子どもの言葉の獲得に関する領域「言葉」に関して、子どもが言葉を豊かに育めるよう、保育者として必要な子どもへのかかわり方や支援方法及び教材や実践に関する基礎的な知識を身につけることを目的とする。特に、映像資料や事例を用いたり、絵本の読み聞かせなどの言葉にかかわる保育活動の体験を通して学生の理解を深める。</p>										
【授業の到達目標】										
<p>(1) 人間にとっての言葉の意義や機能について説明することができる。</p> <p>(2) 乳幼児期の言葉の発達過程と特徴について説明することができる。</p> <p>(3) 乳幼児にとっての児童文化財の意義について説明することができる。</p> <p>(4) ことばあそびや児童文化財を通して言葉の楽しさや美しさに気づき、子どもの言葉を豊かに育むことのできる教材や実践に関する基礎的な知識について説明することができる。</p>										
【本科目と学修成果との関連】		知識・技能			思考力・判断力・表現力			態度・志向性		
I：保育者基礎力										
II：子ども・家庭支援力		◎								
III：保育実践力		◎								
IV：社会人基礎力・社会貢献力										
【アクティブラーニング】		知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造		
		-		○		-		-		
		<具体的な方法>グループディスカッション								
学修成果のフィードバック		レポートにより授業内容の理解度をはかり、質問については次回の授業に反映できるようにする。								
【成績評価の方法及び基準】		定期試験 (60%)	課題・作品・ レポート (40%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
学修成果 I	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修成果 II	知識・技能	○	○							
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修成果 III	知識・技能	○	○							
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修成果 IV	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									

実務経験	有	幼稚園で幼稚園教諭として勤務
実務経験をいかした教育内容		幼稚園での幼稚園教諭の経験に基づき、保育現場の実態に即した授業を行う。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者		—
テキスト・参考図書・参考資料		〈テキスト〉 ・齋藤政子『保育内容「言葉」と指導法』中央法規、2023年 ・『幼稚園教育要領解説』（平成29年告示 文部科学省）フレーベル館、2018年 〈参考図書〉 ・『保育所保育指針解説』（平成29年告示 厚生労働省）フレーベル館、2018年 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成29年告示 内閣府）フレーベル館、2018年
授業計画	授業項目	授業内容
第1回	言葉とは何か	人間にとっての言葉の意義及び機能について学ぶ
第2回	乳幼児期における言葉の発達	乳幼児期における言葉の発達過程及び各段階の特徴について学ぶ
第3回	保育内容領域「言葉」とは	保育における領域「言葉」について学ぶ
第4回	言葉と児童文化財①－手遊び・わらべうたなど－	児童文化財としての手遊びやわらべうたの意義について学ぶ
第5回	ことばあそびを体験しよう	保育実技としてのことばあそびを実践する
第6回	言葉と児童文化財②－絵本・紙芝居など－	児童文化財としての絵本や紙芝居の意義について学ぶ
第7回	絵本の読み聞かせをやってみよう	保育実技としての絵本の読み聞かせを実践する
第8回	言葉の発達における幼児教育と小学校教育とのつながり	言葉の発達における幼児教育と小学校教育とのつながりについて学ぶ
定期試験		
準備学修	テキストの指示されたページを読んで予習する。（各回 90min）	
事後学修	配布資料や講義ノートを用いて授業内容の理解を深める。（各回 90min）	
注意事項	—	
備考	テキストは2年次後期開講の「保育内容（言葉）の指導法」で引き続き使用します。	

7A2C310230		授業科目名 (英文名)		保育内容(健康)の指導法 (Teaching Methods of Contents of Childcare (Health))		関係資格		幼稚園教諭二種免許状		○
								保育士資格		○
学年	2年	学期	後期	卒業 必修・選択	必修	単位数	1	授業形態	演習	
担当教員名		小林 宜義			担当形態		単独			
メールアドレス		kobayashi@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		月～木曜日放課後(17:00 まで)			
【授業の概要】										
<p>領域「健康」におけるねらい、内容及び、基礎的事項について理解を深める。そして、他領域との関連も考慮しながら総合的にねらいが達成できるような運動遊びの指導計画立案ができ、それを実践に移すことができるようになる。さらに、発育発達に応じた系統的、段階的指導方法について実践を通して学習する。</p>										
【授業の到達目標】										
(1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらい及び内容について説明することができる。										
(2) 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を実践することができる。										
【本科目と学修成果との関連】		知識・技能			思考力・判断力・表現力			態度・志向性		
I：保育基礎力					○					
II：子ども・家庭支援力		○								
III：保育実践力					◎					
IV：社会人基礎力・社会貢献力										
【アクティブラーニング】		知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造		
		○		○		○		-		
		<具体的な方法> 模擬保育・他者評価								
学修成果のフィードバック		指導案は随時添削し返却する。模擬保育を通して随時指導方法について伝える。								
【成績評価の方法及び基準】		定期試験 (%)	課題・作品・ レポート (30%)	実技 (50%)	指導案 (20%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
学修成果 I	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力		○							
	態度・志向性									
学修成果 II	知識・技能		○							
	思考力・判断力・表現力			○	○					
	態度・志向性									
学修成果 III	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力			○	○					
	態度・志向性									
学修成果 IV	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									

実務経験	有	保育所での運動指導 15年 保育者研修会依頼講師
実務経験をいかした教育内容		保育所での運動指導の経験から、現代の子ども達に必要な安全能力や、その能力を育む運動遊びを実践する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者		—
テキスト・参考図書・参考資料		〈テキスト〉 『デジタル社会の子どもの育ちを支える保育内容 健康 [第2版]』(田口喜久恵 編者、北大路書房) 〈参考図書〉 『幼稚園教育要領』(平成29年告示 文部科学省)、『保育所保育指針解説』(平成29年告示 厚生労働省)、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(平成29年告示 内閣府)
授業計画	授業項目	授業内容
第1回	保育における「健康」とは	幼稚園教育の基本と領域「健康」のねらい及び内容の理解
第2回	基本的な生活習慣の形成を支える援助	食事、排泄、着脱衣、清潔の習慣形成を支える環境構成と援助(特別な配慮を要する子どもへの援助を含む)
第3回	健康管理と安全能力を育む援助	健康指導、交通安全や避難訓練の指導と安全能力育む援助(特別な配慮を要する子どもへの援助を含む)
第4回	健康な心と体を育む保育の構想①	健康指導、安全指導の実際(指導計画の立案)
第5回	健康な心と体を育む保育の構想②	健康指導、安全指導の実際(教材研究)
第6回	健康な心と体を育む保育の実践①	健康指導、安全指導の実際(模擬保育)
第7回	健康な心と体を育む保育の評価と改善①	幼児理解と保育の視点を基盤とした評価(振り返り)
第8回	多様な動きの経験を促す援助	遊びや生活の中の動きの経験を促す環境構成と援助
第9回	領域「健康」における心身の発達の特徴を踏まえた環境構成と援助	気になる子、障害児、肥満児、家庭経験、性格特性等に応じた援助の在り方
第10回	健康な心と体を育む保育の構想③	運動遊びを中心とした具体的な保育現場を想定した指導(指導計画の立案)
第11回	健康な心と体を育む保育の構想④	運動遊び指導の実際(教材研究)
第12回	健康な心と体を育む保育の実践②	幼児の動機付けや意欲などを配慮した遊びとしての運動指導の在り方(模擬保育)
第13回	健康な心と体を育む保育の評価と改善②	幼児理解と保育の視点を基盤とした評価(振り返り)
第14回	幼児期に育まれる健康な心と体と小学校の生活や学習で生かされる力	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と小学校教科とのつながり
第15回	領域「健康」をめぐる現代的課題と保育実践	幼児を取り巻く現代的課題を踏まえた健康な心と体を育む活動(まとめ)
定期試験は実施しない。		
準備学修	模擬保育の準備をする。(第4～7回、第10～13回×1h)	
事後学修	各回の授業について授業内にメモをした内容をノートにまとめる。(各回1h)	
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・体操服、体育館シューズ、ノート、筆記用具持参。 ・髪の毛はまとめゴムで縛る。 ・爪は他者を傷つけないよう短くする。 ・貴金属は身に着けない。 ・携帯電話は電源を切る。 	
備考	—	

7A2C310240		授業科目名 (英文名)		保育内容(人間関係)の指導法 (Teaching Methods of Contents of Childcare (Humen Relationships))		関係資格		幼稚園教諭二種免許状		○
								保育士資格		○
学年	2年	学期	前期	卒業 必修・選択	必修	単位数	1	授業形態	演習	
担当教員名		上田 真由美			担当形態		単独			
メールアドレス		ueda@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		授業終了後、又は事前連絡後			
【授業の概要】										
本演習では、幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について、幼児の姿と保育実践とを関連させて理解を深める。その上で、幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身につけることを目指す。										
【授業の到達目標】										
(1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえた、領域「人間関係」のねらい及び内容を説明することができる。										
(2) 幼児の発達や学びの過程について説明することができる。										
(3) 領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法として、指導案の作成や模擬保育を通じた保育改善などを行うことができる。										
【本科目と学修成果との関連】		知識・技能			思考力・判断力・表現力			態度・志向性		
I：保育者基礎力										
II：子ども・家庭支援力		○			◎					
III：保育実践力		◎			◎			◎		
IV：社会人基礎力・社会貢献力										
【アクティブラーニング】		知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造		
		○		○		○		-		
		<具体的な方法>グループワーク、グループディスカッション、模擬保育								
学修成果のフィードバック		小レポートにより授業内容の理解度をはかり、質問については次回の授業に反映できるようにする。また、指導案は個別に添削し、返却する。								
【成績評価の方法及び基準】		定期試験 (%)	課題・作品・ レポート (40%)	発表 (20%)	指導案 (20%)	模擬保育 (20%)	(%)			
学修成果Ⅰ	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修成果Ⅱ	知識・技能		○			○				
	思考力・判断力・表現力		○	○	○	○				
	態度・志向性									
学修成果Ⅲ	知識・技能		○		○	○				
	思考力・判断力・表現力		○	○	○	○				
	態度・志向性		○				○			
学修成果Ⅳ	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									

実務経験	有	保育士として勤務 13 年
実務経験をいかした教育内容		保育士としての経験に基づき、保育現場の実態に即した実践的な授業を行う。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者		—
テキスト・参考図書・参考資料		〈テキスト〉・菊池篤子『ワークで学ぶ保育内容「人間関係」』みらい、2019 年 ・『幼稚園教育要領解説』（平成 29 年告示 文部科学省）フレーベル館、2018 年 〈参考図書〉・『保育所保育指針解説』（平成 29 年告示 厚生労働省）フレーベル館、2018 年 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成 29 年告示 内閣府）フレーベル館、2018 年
授業計画	授業項目	授業内容
第 1 回	幼稚園教育要領における領域「人間関係」	幼稚園教育要領における領域「人間関係」の全体像をつかむ —これからの社会を生き抜く人を育てるために—
第 2 回	教師との信頼関係と園生活における安定感を形成する援助の在り方	個々の子どもへの丁寧な関わりと集団保育の展開について学ぶ
第 3 回	自立心を育む保育	3～5 歳児の育ちの姿に沿った必要な援助と環境構成を考える
第 4 回	いざこざと教師の援助	友達との遊びを楽しむ中で多様な感情を経験し、自他の気持ちに気づく援助の在り方 を考える
第 5 回	自分の気持ちを調整する力を育む援助の在り方	自他の気持ちの違いに気づき、自分の気持ちを調整する力を育む援助の在り方を考える—折り合いがつかない事例を考える—
第 6 回	きまりをめぐる様々な幼児の葛藤と援助	家庭生活・園生活・社会生活のきまりと幼児に体験させたい内容を考える
第 7 回	ルールのある遊びと援助	葛藤しながら自分たちにとって意味のあるきまりをつくる（模擬保育）
第 8 回	幼児同士の関わり合いを生かす間接的援助の在り方	幼児同士の関わり合いを生かす間接的援助の在り方を考える—個と集団の育ち—
第 9 回	協同的な遊びの中で育ち合う長期的な保育の展開	協同的な遊びの中で育ち合う長期的な保育の展開を考える—見通しや振り返りの工夫を意識して—
第 10 回	協同的な活動の 1 ヶ月の展開を考える	幼児にとって意味のある行事のねらいと活動内容を考える（模擬保育）
第 11 回	相互主体的で互恵的な活動の工夫と展開	幼小の交流活動を考える（模擬保育）
第 12 回	小学校以降の生活や学習で生かされる力を育む援助の在り方	小学校以降の生活や学習で生かされる力—「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を軸に幼小接続を考える—（模擬保育）
第 13 回	地域の中の幼稚園の在り方	地域の中の幼稚園の在り方を考える—様々な人との関わりにある特徴を捉えて、幼児期に経験させたい地域の人との関わりを考える—
第 14 回	幼児の経験を育ちへ根付かせる長期的な計画と教師の援助	様々な人、多様な子どもとの関わりの中で豊かに生きる子どもへ—幼児の経験を育ちへ根付かせる長期的な計画と教師の援助を考える—
第 15 回	領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題	領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題及びまとめ
定期試験は実施しない。		
準備学修	テキストの指示されたページを読んで予習する。（各回 1h）	
事後学修	配布資料や講義ノートを用いて授業内容の理解を深める。（各回 1h）	
注意事項	—	
備考	—	

7A2C310250		授業科目名 (英文名)		保育内容(環境)の指導法 <small>(Teaching Methods of Contents of Childcare (Environment))</small>		関係資格		幼稚園教諭二種免許状		○
								保育士資格		○
学年	2年	学期	前期	卒業 必修・選択	必修	単位数	1	授業形態	演習	
担当教員名		梅高 賢正 江玉 睦美			担当形態		オムニバス			
メールアドレス		support@higashikyushu.ac.jp edama@higashikyusu.ac.jp			オフィスアワー		授業後 10分 昼休み(金曜日を除く)			
【授業の概要】										
<p>幼児教育において育みたい資質能力を理解し、幼稚園教育要領、保育所保育指針に示された領域「環境」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を通して領域「環境」の具体的な指導場面を想定し保育を構想する知識・方法・スキルを修得する。</p>										
【授業の到達目標】										
<p>(1) 幼稚園教育要領における幼児教育の基本、領域「環境」のねらい及び内容を説明することができる。</p> <p>(2) 領域「環境」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身につけていく内容と指導上の留意点を説明することができる。</p> <p>(3) 領域「環境」に関わる周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする経験と、小学校以降の教科等との繋がりを述べるすることができる。</p>										
【本科目と学修成果との関連】			知識・技能		思考力・判断力・表現力		態度・志向性			
I：保育者基礎力										
II：子ども・家庭支援力			○		○		○			
III：保育実践力			◎		○		○			
IV：社会人基礎力・社会貢献力										
【アクティブラーニング】			知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造	
			○		-		-		○	
			<具体的な方法>グループワーク							
学修成果のフィードバック			課題は次回授業時に返却する。							
【成績評価の方法及び基準】			定期試験 (60%)	課題・作品・ レポート (40%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
学修成果 I	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修成果 II	知識・技能		○							
	思考力・判断力・表現力			○						
	態度・志向性			○						
学修成果 III	知識・技能		○							
	思考力・判断力・表現力			○						
	態度・志向性			○						
学修成果 IV	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									

実務経験	有 有	幼稚園園長 幼稚園で幼稚園教諭として勤務
実務経験をいかした教育内容		幼稚園園長、教諭としての経験に基づき、保育現場の実態に即した実践的な授業を行う。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者		元高等学校教諭（理科）
テキスト・参考図書・参考資料		〈テキスト〉小田豊、湯川秀樹編、『保育内容環境』、北大路書房 〈参考図書〉『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』など
授業計画	授業項目	授業内容
第1回	オリエンテーション	授業概要、子どもたちを取り巻く環境 オムニバス(担当:梅高)
第2回	保育内容「環境」の特徴	幼稚園教育要領、保育所保育指針のねらいと内容 オムニバス(担当:梅高)
第3回	子どもの発達と領域「環境」(1)	幼児の世界、子どもの発達と環境、物的環境、人的環境、保育環境、社会的環境 オムニバス(担当:梅高)
第4回	子どもの発達と領域「環境」(2)	環境とのかかわり方、自然とのかかわり、「もの」とのかかわり オムニバス(担当:梅高)
第5回	生活に関係の深い情報や施設に関わる保育の実際(1)	園生活や遊びの中で身近な情報、日本文化や異文化に触れる活動とは オムニバス(担当:梅高)
第6回	生活に関係の深い情報や施設に関わる保育の実際(2)	子どもにとっての問題解決、法則性、因果関係への気づき・発見 オムニバス(担当:梅高)
第7回	自然環境としての動植物	動植物のかかわりと子どもの育ち、自然と出会う環境構成等 オムニバス(担当:梅高)
第8回	文字と標識、数量と図形	文字に親しむ、交通標識、お散歩マップ、手作りロードマップ時計と数字、量を測る（ひまわりの種子）、積み木と空間認識オムニバス(担当:梅高)
第9回	身近な素材や自然物を用いた保育の実際(1)	様々なものに触れる（触感遊び）（教材研究） オムニバス(担当:梅高)
第10回	身近な素材や自然物を用いた保育の実際(2)	身近な情報、日本の伝統の遊び オムニバス(担当:梅高)
第11回	身近な素材や自然物を用いた保育の実際(3)	身近なものや自然物を利用した製作活動(指導計画立案) オムニバス(担当:江玉)
第12回	身近な素材や自然物を用いた保育の実際(4)	模擬保育と振り返り① オムニバス(担当:江玉) 1～2グループ
第13回	身近な素材や自然物を用いた保育の実際(5)	模擬保育と振り返り② オムニバス(担当:江玉) 3～4グループ
第14回	身近な素材や自然物を用いた保育の実際(6)	模擬保育と振り返り③ オムニバス(担当:江玉) 5～6グループ
第15回	幼児期の様々な環境への関わりと小学校の生活や学習で生かされる力	幼児期に経験し身につけた内容と小学校教科（生活科を中心に）とのつながり オムニバス(担当:梅高)
定期試験		
準備学修	テキストの指示されたページを読んで予習する。（各回 1h）	
事後学修	配布資料や講義ノートを用いて授業内容の理解度を深める。（各回 1h）課題や教材研究を完成させる。	
注意事項	—	
備考	—	

7A2C310260		授業科目名 (英文名)		保育内容(言葉)の指導法 (Teaching Methods of Contents of Childcare (Language))		関係資格		幼稚園教諭免許状		○
								保育士資格		○
学年	2年	学期	後期	卒業 必修・選択	必修	単位数	1	授業形態	演習	
担当教員名		江玉 睦美			担当形態		単独			
メールアドレス		edama@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		昼休み(金曜日を除く)			
【授業の概要】										
<p>本授業では、幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について、幼児の姿と保育実践とを関連させて理解を深める。とくに、保育における子どもの言葉によるコミュニケーションや絵本などの文化財とのかかわりなど言葉にかかわる具体的な保育内容の指導法を実践的に学ぶ。その上で、幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身につけることを目指す。</p>										
【授業の到達目標】										
(1)幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本および全体構造を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を説明することができる。										
(2)乳幼児期の言葉の発達に即した保育内容「言葉」に関する保育実践のあり方(情報機器及び教材の活用を含む)を理解し、指導案の作成や模擬保育を通じた保育の構想ならびに改善の視点を身につけることができるよう取り組むことができる。										
(3)保育内容「言葉」における小学校教育との接続について説明することができる。										
【本科目と学修成果との関連】		知識・技能			思考力・判断力・表現力		態度・志向性			
I: 保育者基礎力										
II: 子ども・家庭支援力		○			◎					
III: 保育実践力		◎			◎		◎			
IV: 社会人基礎力・社会貢献力										
【アクティブラーニング】		知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造		
		○		○		○		-		
		<具体的な方法>グループワーク、グループディスカッション、模擬保育								
学修成果のフィードバック		レポートにより授業内容の理解度をはかり、質問については次回の授業に反映できるようにする。また、指導案は個別に添削し、返却する。								
【成績評価の方法及び基準】		定期試験 (%)	課題・作品・ レポート (20%)	模擬保育 (20%)	指導案 (50%)	絵本 Book (10%)	(%)			
学修成果 I	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修成果 II	知識・技能		○	○		○				
	思考力・判断力・表現力		○	○	○					
	態度・志向性									
学修成果 III	知識・技能		○	○	○					
	思考力・判断力・表現力		○	○	○					
	態度・志向性		○	○		○				
学修成果 IV	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									

実務経験	有	幼稚園で幼稚園教諭として勤務
実務経験をいかした教育内容		幼稚園教諭としての経験に基づき、保育現場の実態に即した実践的な授業を行う。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者		—
テキスト・参考図書・参考資料		<p>〈テキスト〉・齋藤政子『保育内容「言葉」と指導法』中央法規、2023年</p> <p>・『幼稚園教育要領解説』（平成29年告示 文部科学省）フレーベル館、2018年</p> <p>〈参考図書〉・川勝泰介他編著『ことばと表現力を育む児童文化』萌文書林、2018年</p> <p>・『保育所保育指針解説』（平成29年告示 厚生労働省）フレーベル館、2018年</p> <p>・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成29年告示 内閣府）フレーベル館、2018年</p>
授業計画	授業項目	授業内容
第1回	幼稚園教育要領における領域「言葉」	幼稚園教育の基本と5領域－幼稚園教育要領における領域「言葉」の全体像をつかむ－
第2回	乳児期の言葉の発達	乳児期における言葉の発達過程と特徴について学ぶ
第3回	幼児期の言葉の発達	幼児期における言葉の発達過程と特徴について学ぶ
第4回	言葉の発達をうながす保育計画と実践①	保育の全体的な計画と保育内容「言葉」について学ぶ
第5回	言葉の発達をうながす保育計画と実践②	事例を通して言葉の発達をうながす保育計画と実践のあり方について学ぶ
第6回	言葉の発達をうながす保育者の援助①	保育者に求められる応答的な働きかけや子どもとの接し方について考える
第7回	言葉の発達をうながす保育者の援助②	子ども同士のトラブルの場面での保育者の言葉がけについて考える
第8回	子どもの言葉を育む環境構成	子どもの言葉を育む環境構成の重要性とあり方について学ぶ（言葉や文字による伝え合いなど）
第9回	保育内容「言葉」における保育実践①	保育計画の立案（子ども理解にもとづく保育計画ならびに教材研究）と評価のあり方
第10回	保育内容「言葉」における保育実践②	指導案の作成
第11回	保育内容「言葉」における保育実践③	模擬保育と評価①（前半グループ）
第12回	保育内容「言葉」における保育実践④	模擬保育と評価②（後半グループ）
第13回	保育内容「言葉」における保育実践⑤	特別な配慮を必要とする子どもへの指導および家庭との連携について学ぶ
第14回	小学校以降の生活や学習で生かされる力を育む援助の在り方	小学校以降の生活や学習で生かされる力－「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を軸に幼小接続を考える－
第15回	保育内容「言葉」をめぐる現代的諸問題	保育内容「言葉」をめぐる現代的諸問題及びまとめ
定期試験は実施しない。		
準備学修	テキストの指示されたページを読んで予習する。（各回 90min） 模擬保育の準備をする。（第9～12回×1h）	
事後学修	配布資料や講義ノートを用いて授業内容の理解を深める。（各回 90min） 授業で学習したことを活かし、指導案の完成度を高める。（第10～12回×1h）	
注意事項	—	
備考	—	

7A2C310270		授業科目名 (英文名)		保育内容(表現A)の指導法 <small>(Teaching Methods of Contents of Childcare (ExpressionA))</small>		関係資格		幼稚園教諭二種免許状		○
								保育士資格		○
学年	2年	学期	前期	卒業 必修・選択	必修	単位数	1	授業形態	演習	
担当教員名		尾家 京子			担当形態		単独			
メールアドレス		oie@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		月・火曜日 16:30~17:00			
<p>【授業の概要】 保育・教育において育みたい資質能力を理解し、領域「表現」のねらい及び内容について各専門分野と関連させて理解を深め、幼児の発達に即し、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。</p>										
<p>【授業の到達目標】</p> <p>(1)各領域のねらい及び内容や全体構造を説明することができる。</p> <p>(2)乳幼児が経験し身につけていく内容と指導上の留意点を説明することができる。</p> <p>(3)保育・教育における評価の考え方を説明することができる。</p> <p>(4)領域「表現」に関わる内容の関連性と小学校の教科等のつながりを説明することができる。</p> <p>(5)保育の構想の重要性を説明することができる。</p> <p>(6)情報機器及び活用法を理解し活用することができる。</p> <p>(7)模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につけ、実施することができる。</p> <p>(8)領域「表現」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができ</p>										
【 本 科目と学修成果との関連】		知識・技能			思考力・判断力・表現力		態度・志向性			
Ⅰ：保育基礎力		○								
Ⅱ：子ども・家庭支援力		○			○		○			
Ⅲ：保育実践力		○			◎		○			
Ⅳ：社会人基礎力・社会貢献力										
【アクティブラーニング】		知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造		
		—		○		○		—		
		<具体的な方法>学修者が発見学習を行うことによって、認知的、倫理的、知識、教養などの能力の向上や育成を目指す。								
学修成果のフィードバック		—								
【成績評価の方法及び基準】		定期試験 (%)	課題・作品・ レポート (50%)	発表 (50%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
学修成果Ⅰ	知識・技能		○							
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修成果Ⅱ	知識・技能		○	○						
	思考力・判断力・表現力			○						
	態度・志向性			○						
学修成果Ⅲ	知識・技能		○							
	思考力・判断力・表現力		○							
	態度・志向性			○						
学修成果Ⅳ	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									

実務経験	無	—
実務経験をいかした教育内容		—
担当教員以外で指導に関わる実務経験者		—
テキスト・参考図書・参考資料		〈テキスト〉『楽しい音楽表現』圭文社、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針
授業計画	授業項目	授業内容
第1回	領域「表現」のねらい及び内容	乳幼児の表現の姿と関連付けることを通して理解する。
第2回	育みたい資質能力	乳幼児の発達や学びの過程を理解し、表現活動において育みたい資質・能力について具体的に考える。
第3回	乳幼児の表現活動と評価の考え方	表現活動と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を具体的に関連付けることを通し、幼児の表現における評価の考え方を理解する。
第4回	事例や映像からの幼児の考察	事例や映像から幼児の心情・認識・思考及び動き等を考察し、幼児が経験し身につけていく表現の内容と指導上の留意点を理解する。
第5回	学びの連続性	幼児期の表現活動と、小学校の様々な教科との学びの連続性について理解し、具体的な実践を考える。
第6回	表現活動の具体的事例	インクルーシブ保育における表現活動の可能性について、具体的な事例を通して理解し、保育構想への活用を考える。
第7回	国内外の音楽メソッド	保育実践研究の論文や国内外における音楽メソッドを参照し、音楽表現における保育実践の動向について知見を深め、保育構想の向上に取り組む。
第8回	感性を育む言葉	豊かな感性を育み表現を引き出す言葉かけについて理解し、具体的な保育を想定した指導場面での活用を考える。
第9回	感性豊かな音環境	感性豊かな音環境について、自ら身体の諸感覚を通じた体験を活かし、具体的な環境構成を考える。
第10回	情報機器及び教材の活用	表現活動における情報機器及び教材の活用法について学び、実際に体験することを通し、保育構想に活用できるように考える。
第11回	教材研究	指導案作成の構想を理解し、音楽的なねらいについて具体的に考えるとともに様々な教材研究を行う。
第12回	保育と援助	モデル指導案に基づいた保育実践をイメージしたり、体験したりして、保育者の援助について考える。
第13回	3歳未満児の模擬保育	3歳未満児の音楽遊びの指導案を作成して模擬保育を行い、その振り返りを通して保育の改善について考える。
第14回	3歳から5歳児の模擬保育	3歳から5歳児の音楽遊びの指導案を作成して模擬保育を行い、その振り返りを通して保育の改善について考える。
第15回	まとめ	ドキュメンテーションやポートフォリオ等の作成を通して保育を振り返り幼児の心情や思考についての理解を深め保育構想の向上に取り組む。
定期試験は実施しない。		
準備学修	テキストの指示されたページを読んで予習する。(各回 1h)	
事後学修	配布資料や講義ノートを用いて授業内容の理解度を深める。(各回 1h)	
注意事項	—	
備考	—	

6B1C310290		授業科目名 (英文名)		教育方法 (Educational Methods)			関係資格		幼稚園教諭二種免許状	○
							保育士資格		○	
学年	2年	学期	前期	卒業 必修・選択	選択	単位数	2	授業形態	講義	
担当教員名		桑原 広治			担当形態		単独			
メールアドレス		kuwahara@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		月・木			
【授業の概要】										
これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な、保育・教育の方法、保育・教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身につける。										
【授業の到達目標】										
(1)教育方法の基礎的理論と実践について説明することができる。										
(2)これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）について説明することができる。										
(3)保育を行う上での基礎的な技術を実践することができる。										
(4)基礎的な保育理論を踏まえ、ねらい、内容、教材、教具、保育展開、保育形態、評価基準等の視点を含めた保育指導案を作成することができる。										
(5)情報機器を活用した効果的な保育や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成ならびにそれらを活用した指導法について説明することができる。										
【本科目と学修成果との関連】			知識・技能			思考力・判断力・表現力		態度・志向性		
I：保育基礎力			◎			○				
II：子ども・家庭支援力			○							
III：保育実践力			◎			○				
IV：社会人基礎力・社会貢献力										
【アクティブラーニング】			知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造	
			○		○		-		○	
			<具体的な方法>コミュニケーション、アウトプット、グループワーク、ディスカッション							
学修成果のフィードバック			コメントシートについて次回授業時に解説する。							
【成績評価の方法及び基準】			定期試験 (40%)	発表 (20%)	コメントシート (40%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
学修成果Ⅰ	知識・技能		○	○	○					
	思考力・判断力・表現力		○	○	○					
	態度・志向性									
学修成果Ⅱ	知識・技能		○							
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修成果Ⅲ	知識・技能			○	○					
	思考力・判断力・表現力			○	○					
	態度・志向性									
学修成果Ⅳ	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									

実務経験	有	小学校教員
実務経験をいかした教育内容	「保・幼・小」の具体的事例を踏まえて「理論と実践の往還」をめざし、教育への理解と実践的指導力について学ぶ。	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	—	
テキスト・参考図書・参考資料	〈テキスト〉 『幼稚園教育要領』（平成29年告示 文部科学省） 〈参考書・参考資料等〉 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年告示 内閣府） 『保育所保育指針』（平成29年告示 厚生労働省）	
授業計画	授業項目	授業内容
第1回	オリエンテーション 教育の方法とは何か	保育者の専門性とその向上を図るために
第2回	保育・教育方法の本質	幼稚園教育要領における保育・教育方法
第3回	幼児の発達と保育・教育方法	発達の時期に応じた指導方法
第4回	環境による保育	環境を生かした保育・教育方法 環境構成と保育の展開
第5回	一人一人に応じた指導の方法	幼児期の子どもの個人差と興味関心が中心の生活に応じる
第6回	遊びによる保育（1）	遊びの中に見る「資質・能力」の三つの柱の視点
第7回	遊びによる保育（2）	遊びの場から、「主体的・対話的で深い学び」を探る
第8回	幼児の生活とその援助	基本的な生活習慣の自立・道徳性の芽生え
第9回	保育形態と保育・教育方法	様々な保育形態の特徴を生かした保育・教育方法
第10回	幼児理解と保育・教育方法	幼児理解からはじまる保育・教育方法
第11回	保育の計画と実践	ねらい、内容、保育展開、評価の視点を含めた指導案の作成
第12回	保育の記録・省察	保育の記録の方法と記録の生かし方
第13回	小学校教育を見通した保育課程の構想	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関係
第14回	情報機器を活用した教材の作成や提示	子どもの興味や関心・意欲を引き出すために
第15回	マスメディア時代の子どもと保育	子どものメディア・リテラシー教育
定期試験は実施する。		
準備学修	指示された資料等を事前に読んでおく。（各回 1h）	
事後学修	授業で理解した内容やポイントをノートにまとめる。（各回 1h）	
注意事項	提出された課題やレポート内容は、授業を通して、フィードバックを行う。	
備考	国語辞書（紙の辞書）は準備しておく。	

5A1C310310		授業科目名 (英文名)		幼児理解と教育相談 (Infant Comprehension and Educational Counseling)		関係資格		幼稚園教諭二種免許状	○
								保育士資格	○
学年	2年	学期	後期	卒業 必修・選択	選択	単位数	2	授業形態	講義
担当教員名		久恒 由美			担当形態		単独		
メールアドレス		support@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		授業開始前後の10分程度		
【授業の概要】 保育者は子育て支援の専門家として保護者の教育相談に対応できることが期待されている。本講義は、幼児理解の理論と方法についての能動的な学修を基礎として、教育相談、保育カウンセリングの理論と実践的方法を、講義、実習を中心に学習する。また、カウンセリングマインドを身につけるために必要なスキルを習得するための能動的、対話的な演習を行う。									
【授業の到達目標】 (1) 教育相談の意義と理論について説明することができる。 (2) 幼児理解の意義と原理について説明することができる。 (3) 教育相談の方法と展開について説明することができる。 (4) 幼児理解の方法について説明することができる。									
【本科目と学修成果との関連】			知識・技能		思考力・判断力・表現力		態度・志向性		
I：保育者基礎力									
II：子ども・家庭支援力			◎		○				
III：保育実践力			◎		○				
IV：社会人基礎力・社会貢献力									
【アクティブラーニング】			知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造
			○		○		○		-
学修成果のフィードバック			<具体的な方法> グループワーク、グループディスカッション、ロールプレイング 提出物等によって授業内容の理解度をはかり、質問等については次回の授業に反映できるようにする。						
【成績評価の方法及び基準】			定期試験 (50%)	課題・作品・ レポート (50%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
学修成果 I	知識・技能								
	思考力・判断力・表現力								
	態度・志向性								
学修成果 II	知識・技能		○	○					
	思考力・判断力・表現力		○	○					
	態度・志向性								
学修成果 III	知識・技能		○	○					
	思考力・判断力・表現力		○	○					
	態度・志向性								
学修成果 IV	知識・技能								
	思考力・判断力・表現力								
	態度・志向性								

実務経験	有	教諭（38年間）、公認心理師・学校心理士として教育・矯正教育機関に勤務
実務経験をいかした教育内容		公認心理師、教諭としての経験に基づき、保育現場の実際に即した授業を行う。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者		—
テキスト・参考図書・参考資料		〈テキスト〉 ・小田豊・秋田喜代美編著『子どもの理解と保育・教育相談（第2版）』みらい、2020年 ・文部科学省『幼児理解に基づいた評価』チャイルド社、2019年 〈参考図書〉 ・富田久枝・杉原一昭『保育カウンセリングへの招待』北大路書房、2016年 ・國分康孝『カウンセリング心理学入門』PHP新書、1998年 ・『幼稚園教育要領解説』・『保育所保育指針解説』・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成29年告示 内閣府）フレーベル館、2018年
授業計画	授業項目	授業内容
第1回	現代保育の課題と教育相談	保育・教育相談の意義と課題、子どもを理解する視点、カウンセリングマインド
第2回	教育相談の方法と対象	カウンセリングの基礎理論と基本原理、保育カウンセリングの方法と対象
第3回	カウンセリングの技法（1）	援助的な態度（受容・共感・自己一致）、非言語的技法
第4回	カウンセリングの技法（2）	言語的技法
第5回	カウンセリングの技法（3）	カウンセリングプロセスとカウンセリングの実際
第6回	幼児の発達理解と支援	幼児理解の視点、乳幼児期の発達理解と支援の仕方
第7回	幼児理解のための方法と実際（1）	乳幼児期の心理発達の特徴
第8回	幼児理解のための方法と実際（2）	幼児理解のためのアセスメント、アセスメントの対象と方法
第9回	幼児理解のための方法と実際（3）	アセスメントの実際
第10回	発達相談と発達支援	発達障害や気になる子どもの理解とその援助
第11回	子育て相談の方法と実際	子育て支援事業、子育て相談の内容と対象
第12回	家庭問題の理解と支援	児童虐待・DVの防止と支援
第13回	家族問題の理解と支援	不安症、うつ病、PTSD等精神疾患の理解と支援
第14回	保育者の専門性と支援体制	保育カンファレンス、コンサルテーション、ストレスマネジメント
第15回	教育相談における連携	保健センター・医療機関・児童相談所・小学校・市町村との連携
定期試験		
準備学修	テキストの指示されたページを読んで予習する。（各回1h）	
事後学修	配布資料等を用いて授業内容の理解を深める。（各回1h）	
注意事項	—	
備考	—	

6A2N310330		授業科目名 (英文名)		伴奏法 I (Accompaniment I)		関係資格		幼稚園教諭二種免許状 保育士資格		○
学年	2年	学期	前期	卒業 必修・選択	選択	単位数	1	授業形態	演習	
担当教員名		尾家京子・松本朋美 宮崎望・前野涼子・松原千恵			担当形態		複数			
メールアドレス		oie@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		月・火曜日 16:30～17:00			
【授業の概要】 ピアノⅠ・Ⅱにおいて習得した、保育者として必要なピアノの基本的技能を、子どもの様々な表現活動と音楽表現の展開ができるよう能力を高める。「こどものうたの」の弾き歌い、伴奏法を行う。グレード制を設け、個々の到達度に応じた個人レッスンで進める。										
【授業の到達目標】 (1)「ピアノグレード進度表」グレードE・F・Gの曲を演奏することができる。 (2)「こどものうた」を歌うことができる。										
【本科目と学修成果との関連】			知識・技能		思考力・判断力・表現力		態度・志向性			
Ⅰ：保育基礎力										
Ⅱ：子ども・家庭支援力										
Ⅲ：保育実践力			◎		◎		◎			
Ⅳ：社会人基礎力・社会貢献力										
【アクティブラーニング】			知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造	
			—		—		○		—	
			<具体的な方法>学修者が問題解決型学習を行い参加をすることにより、認知的、知識、ピアノ伴奏技術などの能力の向上や育成を目指す。							
学修成果のフィードバック			ピアノ課題は、次回授業時に確認する。							
【成績評価の方法及び基準】			定期試験 (%)	課題・作品・ レポート (50%)	演奏 (50%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
学修成果Ⅰ	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修成果Ⅱ	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修成果Ⅲ	知識・技能			○	○					
	思考力・判断力・表現力			○	○					
	態度・志向性			○	○					
学修成果Ⅳ	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									

実務経験	有	ピアノ講師
実務経験をいかした教育内容	ピアノ指導経験に基づき、保育現場に対応する実践的なレッスンを行う	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	—	
テキスト・参考図書・参考資料	〈テキスト〉 『こどものうた』東九州短期大学編 『こどものうた200』チャイルド本社	
授業計画	授業項目	授業内容
第1回	ピアノレッスン 1	ピアノ実技の基礎を学ぶ 「ピアノグレード進度表」グレードEを中心に
第2回	ピアノレッスン 2	ピアノ実技の基礎を学ぶ 「ピアノグレード進度表」グレードEを中心に
第3回	ピアノレッスン 3	ピアノ実技の基礎を学ぶ 「ピアノグレード進度表」グレードEを中心に
第4回	ピアノレッスン 4	ピアノ実技の基礎を学ぶ 「ピアノグレード進度表」グレードEを中心に
第5回	ピアノレッスン 5	ピアノ実技の基礎を学ぶ 「ピアノグレード進度表」グレードEを中心に
第6回	ピアノレッスン 6	ピアノ実技の基礎を学ぶ 「ピアノグレード進度表」グレードEを中心に
第7回	ピアノレッスン 7	ピアノ実技の基礎を学ぶ 「ピアノグレード進度表」グレードEを中心に
第8回	ピアノレッスン 8	ピアノ実技の基礎を学ぶ 「ピアノグレード進度表」グレードEを中心に
第9回	ピアノレッスン 9	ピアノ実技の基礎を学ぶ 「ピアノグレード進度表」グレードEを中心に
第10回	ピアノレッスン 10	ピアノ実技の基礎を学ぶ 「ピアノグレード進度表」グレードEを中心に
第11回	ピアノレッスン 11	ピアノ実技の基礎を学ぶ 「ピアノグレード進度表」グレードEを中心に
第12回	ピアノレッスン 12	ピアノ実技の基礎を学ぶ 「ピアノグレード進度表」グレードEを中心に
第13回	ピアノレッスン 13	ピアノ実技の基礎を学ぶ 「ピアノグレード進度表」グレードEを中心に
第14回	ピアノレッスン 14	ピアノ実技の基礎を学ぶ 「ピアノグレード進度表」グレードEを中心に
第15回	評価・まとめ	公開演奏
定期試験は実施しない。		
準備学修	毎回、次の授業の課題を指示するので各自で練習をしてください。(各回 2h)	
事後学修	ピアノ練習室や自宅で練習をしてください。(各回 2h)	
注意事項	手・指の消毒を必ず行ってください。毎回のレッスン時、ピアノ進度表を担当教員に提出し捺印をもらってください。	
備考	—	

6A2N310331		授業科目名 (英文名)		伴奏法Ⅱ (AccompanimentⅡ)		関係資格		幼稚園教諭二種免許状 保育士資格		○
学年	2年	学期	後期	卒業 必修・選択	選択	単位数	1	授業形態	演習	
担当教員名		尾家京子・松本朋美 宮崎望・前野涼子・松原千恵			担当形態		複数			
メールアドレス		oie@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		月・火曜日 16:30～17:00			
【授業の概要】 子どもの様々な表現活動と音楽表現の展開ができるよう能力を高める。「こどものうたの」の弾き歌い、簡易伴奏法等の伴奏技術を高める。グレード制を設け、個々の到達度に応じた個人レッスンで進める。										
【授業の到達目標】 (1)読譜力、歌唱表現力、伴奏技術を身につけることができる。 (2)「ピアノグレード進捗表」グレードE・F・Gの曲を演奏することができる。										
【本科目と学修成果との関連】			知識・技能		思考力・判断力・表現力			態度・志向性		
Ⅰ：保育基礎力										
Ⅱ：子ども・家庭支援力										
Ⅲ：保育実践力			◎		◎			◎		
Ⅳ：社会人基礎力・社会貢献力										
【アクティブラーニング】			知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造	
			—		—		○		—	
			<具体的な方法>学修者が問題解決型学習を行い参加をすることにより、認知的、知識、ピアノ伴奏技術・歌唱などの能力の向上や育成を目指す。							
学修成果のフィードバック			ピアノ課題は、次回授業時に確認する。							
【成績評価の方法及び基準】			定期試験 (%)	課題・作品・ レポート (50%)	演奏 (50%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
学修成果Ⅰ	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修成果Ⅱ	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修成果Ⅲ	知識・技能			○	○					
	思考力・判断力・表現力			○	○					
	態度・志向性			○	○					
学修成果Ⅳ	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									

実務経験	有	ピアノ講師
実務経験をいかした教育内容	ピアノ指導経験に基づき、保育現場に対応する実践的なレッスンを行う	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	—	
テキスト・参考図書・参考資料	〈テキスト〉 『こどものうた』東九州短期大学編 『こどものうた200』チャイルド本社	
授業計画	授業項目	授業内容
第1回	ピアノレッスン1	歌唱法、ピアノ伴奏法を学ぶ 「グレード進度表」グレードFを中心に
第2回	ピアノレッスン2	歌唱法、ピアノ伴奏法を学ぶ 「グレード進度表」グレードFを中心に
第3回	ピアノレッスン3	歌唱法、ピアノ伴奏法を学ぶ 「グレード進度表」グレードFを中心に
第4回	ピアノレッスン4	歌唱法、ピアノ伴奏法を学ぶ 「グレード進度表」グレードFを中心に
第5回	ピアノレッスン5	歌唱法、ピアノ伴奏法を学ぶ 「グレード進度表」グレードFを中心に
第6回	ピアノレッスン6	歌唱法、ピアノ伴奏法を学ぶ 「グレード進度表」グレードFを中心に
第7回	ピアノレッスン7	歌唱法、ピアノ伴奏法を学ぶ 「グレード進度表」グレードFを中心に
第8回	ピアノレッスン8	歌唱法、ピアノ伴奏法を学ぶ 「グレード進度表」グレードFを中心に
第9回	ピアノレッスン9	歌唱法、ピアノ伴奏法を学ぶ 「グレード進度表」グレードFを中心に
第10回	ピアノレッスン10	歌唱法、ピアノ伴奏法を学ぶ 「グレード進度表」グレードFを中心に
第11回	ピアノレッスン11	歌唱法、ピアノ伴奏法を学ぶ 「グレード進度表」グレードFを中心に
第12回	ピアノレッスン12	歌唱法、ピアノ伴奏法を学ぶ 「グレード進度表」グレードFを中心に
第13回	ピアノレッスン13	歌唱法、ピアノ伴奏法を学ぶ 「グレード進度表」グレードFを中心に
第14回	ピアノレッスン14	歌唱法、ピアノ伴奏法を学ぶ 「グレード進度表」グレードFを中心に
第15回	評価・まとめ	公開演奏
定期試験は実施しない。		
準備学修	毎回、次の授業の課題を指示するので各自で練習をしてください。(各回2h)	
事後学修	ピアノ練習室や自宅で練習をしてください。(各回2h)	
注意事項	手・指の消毒を必ず行ってください。毎回のレッスン時、ピアノ進度表を担当教員に提出し捺印をもらってください。	
備考	—	

6A2N310370		授業科目名 (英文名)		幼児体育 (Early Childhood Physical Education)		関係資格		幼稚園教諭二種免許状 保育士資格		○
学年	2年	学期	前期	卒業 必修・選択	選択	単位数	1	授業形態	演習	
担当教員名		小林 宜義			担当形態		単独			
メールアドレス		kobayashi@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		月～木曜日放課後(17:00 まで)			
【授業の概要】 幼児期における身体的発達の特徴を理解し学習するとともに、コーディネーション運動を通じ、幼児の各種運動能力や非認知能力の発達を助長する具体的な運動遊びや、小学校体育(運動領域)に必要とされる動きづくりを実践する。これらの実践を通して指導法や援助の方法を学習する。										
【授業の到達目標】 (1) 身体の発達について理解を深め、保育士・幼稚園教諭に必要とされる運動遊びに関する基礎知識や、小学校体育(運動領域)に必要とされる動きづくりの技能を身につけ、実践することができる。 (2) 幼児期における運動遊びが、非認知能力の獲得にどのような影響を及ぼしていくかの重要視について説明することができる。										
【本科目と学修成果との関連】			知識・技能		思考力・判断力・表現力		態度・志向性			
I：保育基礎力					◎					
II：子ども・家庭支援力			○		○		○			
III：保育実践力			◎		◎		◎			
IV：社会人基礎力・社会貢献力					○					
【アクティブラーニング】			知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造	
			-		○		-		○	
			<具体的な方法> パワーポイントを活用した学習、グループディスカッション、グループワーク							
学修成果のフィードバック			配布したプリントをまとめ、次回授業時において提出をする。							
【成績評価の方法及び基準】			定期試験 (%)	課題・作品・ レポート (50%)	実技 (50%)	(%)	(%)	(%)	(%)	
学修 成果 I	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力			○	○					
	態度・志向性									
学修 成果 II	知識・技能			○						
	思考力・判断力・表現力			○	○					
	態度・志向性				○					
学修 成果 III	知識・技能			○						
	思考力・判断力・表現力			○	○					
	態度・志向性				○					
学修 成果 IV	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力			○						
	態度・志向性									

実務経験	有	保育園での運動指導・小学校特別非常勤講師（体育）15年
実務経験をいかした教育内容		保育園や小学校での運動指導経験に基づき、運動に親しむ資質や各種運動能力を高める実践的な講義を行う。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者		—
テキスト・参考図書・参考資料		〈テキスト〉 なし 〈参考資料〉 適宜、補助資料を配布する
授業計画	授業項目	授業内容
第1回	オリエンテーション	幼児期の運動の重要性について理解を深める。
第2回	かけっこ・リレー	身近な用具を使用し、走力を高めていく運動遊びを紹介する。
第3回	マット・鉄棒	身近な用具を使用し、マット運動や、鉄棒に必要な動きを高めていく運動遊びを紹介する。
第4回	跳の運動	身近な用具を使用し、跳躍力を高める運動遊びを紹介する。
第5回	跳び箱	身近な用具を使用し、跳び箱に必要な動きづくりを紹介する。
第6回	縄跳び	身近な用具を使用し、大縄・短輪に必要な動きづくりを紹介する。
第7回	振り返り①	これまで学習したことをパワーポイントを使用し、学びを深める。
第8回	小型ハードル	身近な用具を使用し、ハードルに必要な動きづくりを紹介する。
第9回	ゴール型遊び	集団での遊びの楽しさを高められる運動遊びを紹介する。
第10回	体づくり運動①	多様な動きをつくる運動遊びを紹介する。
第11回	体づくり運動②	体ほぐしの運動遊びを紹介する。
第12回	振り返り②	これまで学習したことをパワーポイントを使用し、学びを深める。
第13回	プログラム作成①	運動に親しむ資質を高められるプログラムを作成する。
第14回	プログラム作成②	運動に親しむ資質を高められるプログラムを完成する。
第15回	講義のまとめ	これまで学んだことをまとめる。
定期試験は実施しない。		
準備学修	次回の学習内容について、指示された課題を調べ予習する。（各1h）	
事後学修	配布資料を用いて、講義内容を振り返り理解度を深める。（各1h）	
注意事項	運動のしやすい服装（ジャージ・トレーナー等）で受講し、体育館シューズを持参すること。また、アクセサリーなどの装飾品は外して参加すること。携帯電話等も使用不可とする。	
備考	こどもの運動に関する新たな情報が発せられた場合、随時講義内で紹介をしていく。	

8P4T310390		授業科目名 (英文名)		教育実習 I (Teaching Practice I)		関係資格	幼稚園教諭二種免許状 保育士資格	○	
学年	2年	学期	前期	卒業 必修・選択	選択	単位数	2	授業形態 実習	
担当教員名		江玉 睦美			担当形態		単独		
メールアドレス		edama@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		昼休み(金曜日を除く)		
【授業の概要】									
<p>教育実習 I では、附属幼稚園及び学外の幼稚園(実習協力園 6 園)において 10 日間の実習を行う。実習内容は、観察実習・参加実習・指導実習とする。加えて、特別参加実習として、附属幼稚園で行われる行事の運営補助や保育補助に携わる参加実習を行う。なお、指導実習においては必ず指導案を立案し、保育指導を行うこととする。</p>									
【授業の到達目標】									
(1)これまでに学んだ知識や技能を基礎として、幼稚園における保育実践に参加し、保育指導に取り組むことができる。									
(2)幼児の実際の姿や幼稚園教諭の役割を学び、保育者としての自覚を持ってふさわしい態度をとることができる。									
(3)自己課題を持ち、実習を通して課題に取り組むことができる。									
(4)実習の反省・評価をふまえて今後の学習課題を明確にし、具体的に述べることができる。									
【本科目と学修成果との関連】			知識・技能		思考力・判断力・表現力		態度・志向性		
I : 保育者基礎力									
II : 子ども・家庭支援力					◎		○		
III : 保育実践力					◎		○		
IV : 社会人基礎力・社会貢献力					○		◎		
【アクティブラーニング】			知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造
			-		-		-		-
			<具体的な方法>						
学修成果のフィードバック			実習後、評価票をもとに面談を行う。						
【成績評価の方法及び基準】			定期試験 (%)	課題・作品・ レポート (%)	実習園による 評価 (75%)	特別参加 実習 (15%)	事前事後の 取り組み (10%)	(%)	
学修 成果 I	知識・技能								
	思考力・判断力・表現力								
	態度・志向性								
学修 成果 II	知識・技能								
	思考力・判断力・表現力				○	○	○		
	態度・志向性				○	○	○		
学修 成果 III	知識・技能								
	思考力・判断力・表現力				○	○	○		
	態度・志向性				○	○	○		
学修 成果 IV	知識・技能								
	思考力・判断力・表現力				○				
	態度・志向性				○	○	○		

実務経験	有	幼稚園で幼稚園教諭として勤務
実務経験をいかした教育内容		幼稚園教諭としての経験をいかした指導助言
担当教員以外で指導に関わる実務経験者		実習園における実習指導担当者等
テキスト・参考図書・参考資料		<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習 I 実施要項 ・実習日誌
授業計画	授業項目	授業内容
<ul style="list-style-type: none"> ・観察実習 ・参加実習 ・指導実習（部分保育・ピアノ） ・特別参加実習 		
準備学修	実習前までに実習課題、指導案を作成する。(5h 程度)	
事後学修	実習日誌を作成する。(1日 2～3h 程度)	
注意事項	詳細は「教育実習 I 実施要項」で確認してください。	
備考	単位取得状況によって履修できない場合があります。	

8P4T310400		授業科目名 (英文名)		教育実習Ⅱ (Teaching Practice Ⅱ)		関係資格		幼稚園教諭免許状 保育士資格		○
学年	2年	学期	前期	卒業 必修・選択	選択	単位数	2	授業形態	実習	
担当教員名		江玉 睦美			担当形態		単独			
メールアドレス		edama@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		昼休み(金曜日を除く)			
【授業の概要】										
教育実習Ⅱでは、学外の幼稚園において10日間の実習を行う。実習内容は、基本的に観察実習・参加実習・指導実習(部分保育または半日保育、全日保育)とするが、詳細な内容については実習園の指示に従って行うものとする。なお、指導実習においては必ず指導案を立案し、保育指導を行うこととする。										
【授業の到達目標】										
(1)これまでに学んだ知識や技能を基礎として、総合的に実践することができる。										
(2)教育実習Ⅰをふまえて幼児理解を深めるとともに、幼稚園教諭の役割を学び、保育者としての自覚を持った行動ができる。										
(3)自己課題を持ち、実習を通して課題に取り組むことができる。										
(4)実習の反省・評価をふまえて保育者としての自分を見つめ直し、今後の学習課題を明確にし、述べることができる。										
【本科目と学修成果との関連】		知識・技能			思考力・判断力・表現力			態度・志向性		
Ⅰ：保育者基礎力										
Ⅱ：子ども・家庭支援力					◎			◎		
Ⅲ：保育実践力					◎			◎		
Ⅳ：社会人基礎力・社会貢献力					○			◎		
【アクティブラーニング】		知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造		
		-		-		-		-		
		<具体的な方法>						-		
学修成果のフィードバック		実習後、評価票をもとに面談を行う。								
【成績評価の方法及び基準】		定期試験 (%)	課題・作品・ レポート (%)	実習園による 評価 (70%)	事前事後の 取り組み (30%)	(%)		(%)		
学修 成果 Ⅰ	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修 成果 Ⅱ	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力			○	○					
	態度・志向性			○	○					
学修 成果 Ⅲ	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力			○	○					
	態度・志向性			○	○					
学修 成果 Ⅳ	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力			○						
	態度・志向性			○	○					

実務経験	有	幼稚園で幼稚園教諭として勤務
実務経験をいかした教育内容		幼稚園教諭としての経験をいかした指導助言
担当教員以外で指導に関わる実務経験者		実習園における実習指導担当者等
テキスト・参考図書・参考資料		<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習Ⅱ実施要項 ・実習日誌
授業計画	授業項目	授業内容
		<ul style="list-style-type: none"> ・観察実習 ・参加実習 ・指導実習（部分保育・半日保育、全日保育）
準備学修	実習前までに実習課題、指導案を作成する。（5h 程度）	
事後学修	実習日誌を作成する。（1日 2～3h 程度）	
注意事項	詳細は「教育実習Ⅱ実施要項」で確認してください。	
備考	単位取得状況によって履修できない場合があります。	

8G2T310410		授業科目名 (英文名)		教育実習指導 (Guidance for Teaching Practice)		関係資格		幼稚園教諭二種免許状	○
								保育士資格	
学年	2年	学期	前期	卒業 必修・選択	選択	単位数	—	授業形態	演習
担当教員名		江玉 睦美 麻生 愛子			担当形態		複数		
メールアドレス		edama@higashikyusyu.ac.jp asou@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		昼休み(金曜日を除く) 平日放課後(～17:00まで)		
【授業の概要】									
<p>本科目は、1年次後期開講の「教育実習指導」に引き続き行われるものである。主に、教育実習Ⅰの事前指導・事後指導ならびに教育実習Ⅱの事前指導を行う。事前指導では、実習生として求められる姿勢や態度を身につけ、実習課題・実習計画を立てること、事後指導では、実習のふり返りから各自の課題を明確にすることを旨とする。</p>									
【授業の到達目標】									
(1) 教育実習の意義と実習内容、実習に際しての留意事項(勤務と服務、守秘義務、心構え)について説明することができる。									
(2) 教育実習に必要な知識や技能を理解し、実践することができる。									
(3) 実習課題を明確化し、述べるすることができる。									
【本科目と学修成果との関連】		知識・技能			思考力・判断力・表現力		態度・志向性		
Ⅰ：保育者基礎力									
Ⅱ：子ども・家庭支援力									
Ⅲ：保育実践力		◎			◎		○		
Ⅳ：社会人基礎力・社会貢献力		◎			○		○		
【アクティブラーニング】		知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造	
		○		○		○		○	
		<具体的な方法>グループディスカッション、グループワーク、模擬保育							
学修成果のフィードバック		エピソード記録、実習日誌、指導案は添削し、返却する。事前事後指導を通して自己課題を明確にできるよう助言する。							
【成績評価の方法及び基準】		実習課題 (30%)	実習日誌・ エピソード記録 (20%)	指導案 (10%)	模擬保育 (10%)	実習自己評価 (10%)	資料ファイル (20%)		
学修成果Ⅰ	知識・技能								
	思考力・判断力・表現力								
	態度・志向性								
学修成果Ⅱ	知識・技能								
	思考力・判断力・表現力								
	態度・志向性								
学修成果Ⅲ	知識・技能		○	○	○		○		
	思考力・判断力・表現力	○		○	○				
	態度・志向性	○			○	○			
学修成果Ⅳ	知識・技能	○			○		○		
	思考力・判断力・表現力	○							
	態度・志向性	○				○			

実務経験	有 無	幼稚園で幼稚園教諭として勤務 —
実務経験をいかした教育内容		幼稚園での幼稚園教諭の経験に基づき、幼稚園現場の実態に即した実践的な授業を行う。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者		附属幼稚園副園長
テキスト・参考図書・参考資料		〈テキスト〉・民秋言ほか編著『幼稚園実習（新版）』北大路書房、2020年 ・『幼稚園教育要領解説』（平成29年告示 文部科学省）フレール館、2018年 ・田中亨胤監修・山本淳子編著『実習の記録と指導案』ひかりのくに、2018年 〈参考資料〉教育実習指導ファイルならびに資料を配布します
授業計画	授業項目	授業内容
第1回	教育実習Ⅰ・Ⅱの概要	教育実習の意義（目的と概要）、実習内容、実習に際しての留意事項（勤務とサービス、守秘義務、心構え）について
第2回	教育実習Ⅰ事前指導①	教育実習Ⅰの意義（目的と概要）、実習内容、実習計画について（学外講師：附属幼稚園副園長）
第3回	教育実習Ⅰ事前指導②	教育実習Ⅰにおける実習課題の作成
第4回	教育実習Ⅰ事前指導③	観察記録の書き方について
第5回	教育実習Ⅰ事前指導④	教育実習Ⅰにおける実習日誌の書き方・指導案の作成について
第6回	教育実習Ⅰ事前指導⑤	保育記録の書き方について（エピソード記録）
第7回	教育実習Ⅰ事後指導①	教育実習Ⅰのふり返りと自己評価
第8回	教育実習Ⅰ事後指導②	エピソード記録による実習のふり返り（保育カンファレンス）
第9回	教育実習Ⅰ事後指導③	教育実習Ⅰの反省・評価にもとづく自己課題の明確化
第10回	教育実習Ⅱ事前指導①	教育実習Ⅱの意義（目的と概要）、実習内容、実習計画について
第11回	教育実習Ⅱ事前指導②	教育実習Ⅱにおける実習課題の作成
第12回	教育実習Ⅱ事前指導③	教育実習Ⅱにおける実習日誌の書き方・指導案の作成について
第13回	教育実習Ⅱ事前指導④	模擬保育及び指導実習の観察、反省・評価について①（前半グループ）
第14回	教育実習Ⅱ事前指導⑤	模擬保育及び指導実習の観察、反省・評価について②（後半グループ）
第15回	教育実習Ⅱオリエンテーション	教育実習Ⅱに関する説明
定期試験は実施しない。		
準備学修	テキストの指示されたページ、資料を読んで予習する。（第1～6、10～12回×90min） 模擬保育の準備をする。（第13～14回×1h）	
事後学修	授業で学習したことを活かし、実習課題、エピソード記録、実習日誌、指導案の完成度を高める。（第3～6、11～14回×90min）	
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・単位の認定は2年次後期に行い、3期（1年次後期・2年次前期・2年次後期）の平均点で評価する。 ・教育実習に直接関わる授業となるため、必ず出席すること。やむを得ず欠席する場合は事前に担当教員に届け出ること。 	
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・授業計画の順番は入れ替わる場合がある。 ・教育実習指導ファイル、テキストは2年次後期まで使用する。 	

8G2T310410		授業科目名 (英文名)		教育実習指導 (Guidance for Teaching Practice)		関係資格		幼稚園教諭二種免許状 保育士資格		○
学年	2年	学期	後期	卒業 必修・選択	選択	単位数	1	授業形態	演習	
担当教員名		江玉 睦美 麻生 愛子			担当形態		複数			
メールアドレス		edama@higashikyusyu.ac.jp asou@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		昼休み(金曜日を除く) 平日放課後(～17:00まで)			
【授業の概要】										
<p>本科目は、教育実習Ⅱの事後指導及び教育実習全体の事後指導として行うものである。まず、教育実習Ⅱの事後指導として、実習のふり返りを通して自己課題を明確にする。特に、卒業までに取り組む課題ならびに卒業後の幼稚園教諭として取り組む課題を各自が明確化できることを目指す。次に、教育実習の報告会を開き、他の学生の実習体験を共有するとともに、1年生に対して先輩からのメッセージを伝える。また、事後指導において明確化された自己課題は、「保育・教職実践演習(幼稚園)」においても活用する。</p>										
【授業の到達目標】										
(1) 実習のふり返りを通して自己課題を明確化し、述べることができる。										
(2) 実習報告会の準備ならびに報告に取り組むことができる。										
(3) お別れ会の準備ならびに発表に取り組むことができる。										
【本科目と学修成果との関連】		知識・技能			思考力・判断力・表現力			態度・志向性		
Ⅰ：保育者基礎力										
Ⅱ：子ども・家庭支援力										
Ⅲ：保育実践力		○			◎			◎		
Ⅳ：社会人基礎力・社会貢献力		○			◎			◎		
【アクティブラーニング】		知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造		
		—		○		○		○		
		<具体的な方法>グループディスカッション、グループワーク								
学修成果のフィードバック		事後指導を通して自己課題を明確にできるよう助言する。								
【成績評価の方法及び基準】		実習自己評価 (20%)	実習課題 (20%)	報告会への 取り組み (20%)	お別れ会への 取り組み (30%)	資料ファイル (10%)	(%)			
学修成果Ⅰ	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修成果Ⅱ	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修成果Ⅲ	知識・技能				○	○				
	思考力・判断力・表現力				○					
	態度・志向性	○	○		○					
学修成果Ⅳ	知識・技能					○				
	思考力・判断力・表現力	○	○	○						
	態度・志向性	○	○	○						

実務経験	有 無	幼稚園で幼稚園教諭として勤務 —
実務経験をいかした教育内容		幼稚園での幼稚園教諭の経験に基づき、幼稚園現場の実態に即した実践的な授業を行う。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者		—
テキスト・参考図書・参考資料		〈テキスト〉・民秋言ほか編著『幼稚園実習（新版）』北大路書房、2020年 ・『幼稚園教育要領解説』（平成29年告示 文部科学省）フレーベル館、2018年 ・田中亨胤監修・山本淳子編著『実習の記録と指導案』ひかりのくに、2018年 〈参考資料〉教育実習指導ファイルならびに資料を配布します
授業計画	授業項目	授業内容
第1回	教育実習Ⅱ事後指導①	教育実習Ⅱのふり返りと自己評価
第2回	教育実習Ⅱ事後指導②	エピソード記録による実習のふり返り（保育カンファレンス）
第3回	教育実習Ⅱ事後指導③	教育実習Ⅱの反省・評価にもとづく自己課題の明確化
第4回	教育実習報告会①	教育実習Ⅰ・Ⅱの反省・評価にもとづく実習報告会の準備
第5回	教育実習報告会②	実習報告会
第6回	保育アイデア集の作成	実習での実践を共有化するための「保育アイデア集」の作成
第7回	附属幼稚園お別れ会準備①	附属幼稚園お別れ会（2月）の企画
第8回	附属幼稚園お別れ会準備②	附属幼稚園お別れ会（2月）の準備（台本づくり）
第9回	附属幼稚園お別れ会準備③	附属幼稚園お別れ会（2月）の準備（道具づくり）
第10回	附属幼稚園お別れ会準備④	附属幼稚園お別れ会（2月）の準備（立ちげいこ）
第11回	附属幼稚園お別れ会準備⑤	附属幼稚園お別れ会（2月）の学年別リハーサル
第12回	附属幼稚園お別れ会準備⑥	附属幼稚園お別れ会（2月）の全体リハーサル
第13回	附属幼稚園お別れ会準備⑦	附属幼稚園お別れ会（2月）の直前リハーサル
第14回	附属幼稚園お別れ会の反省・評価	附属幼稚園お別れ会の反省・評価
第15回	教育実習のふり返り	教育実習Ⅰ（特別参加実習を含む）の反省・評価
定期試験は実施しない。		
準備学修	授業で用いる資料を作成する。（第1～4回×2h） 実習報告会、お別れ会に必要な事前準備を行う。（第4～13回×1h）	
事後学修	授業の内容をふまえて課題に取り組む。（第1～4回×2h） 授業内での作業の進捗状況に応じて授業外で作業を行う。（第4～13回×1h）	
注意事項	・単位の認定は2年次後期に行い、3期（1年次後期・2年次前期・2年次後期）の平均点で評価する。 ・教育実習に直接関わる授業となるため、必ず出席すること。やむを得ず欠席する場合は事前に担当教員に届け出ること。	
備考	授業計画の順番は入れ替わる場合がある。	

8P4N310460		授業科目名 (英文名)		保育実習Ⅱ (保育所) (Nurturing Practice Ⅱ)		関係資格	幼稚園教諭二種免許状 保育士資格		○
学年	2年	学期	前期	卒業 必修・選択	選択	単位数	2	授業形態	実習
担当教員名		上田 真由美			担当形態		単独		
メールアドレス		ueda@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		授業終了後、又は事前連絡後		
【授業の概要】 2年次、夏期休業中の8月中に10日間、学外の保育所で保育実習を行う。実習内容は、参加・指導実習とする。園側の指示により、部分実習あるいは一日実習を行う。部分実習や一日実習では、事前に指導案を作成し実際に指導を行う。詳細については、保育実習指導の授業にて行う。実習中に幼児教育学科の教員が、訪問指導を行う。									
【授業の到達目標】 (1)指導案を作成し事前に必要な準備を行い、実際に部分実習や一日実習の保育を実践することができる。 (2)保育所を利用している子どもと家族・地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力・判断力を身につけ、実習ノート等で述べることができる。 (3)保育実習Ⅰ(保育所)で振り返った内容を実際に保育実習Ⅱで活用することができる。									
【本科目と学修成果との関連】		知識・技能		思考力・判断力・表現力		態度・志向性			
Ⅰ：保育者基礎力									
Ⅱ：子ども・家庭支援力									
Ⅲ：保育実践力									
Ⅳ：社会人基礎力・社会貢献力		○		○		◎			
【アクティブラーニング】		知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造	
		—		—		—		—	
		<具体的な方法> —							
学修成果のフィードバック		実習後に評価を基に面談する。							
【成績評価の方法及び基準】		定期試験 (%)	課題・作品・ レポート (%)	(%)		実習園の評価 (70%)	事前事後の 取組み (20%)	実習手続 取組み (10%)	
学修 成果 Ⅰ	知識・技能								
	思考力・判断力・表現力								
	態度・志向性								
学修 成果 Ⅱ	知識・技能								
	思考力・判断力・表現力								
	態度・志向性								
学修 成果 Ⅲ	知識・技能								
	思考力・判断力・表現力								
	態度・志向性								
学修 成果 Ⅳ	知識・技能					○	○	○	
	思考力・判断力・表現力					○	○	○	
	態度・志向性					○	○	○	

実務経験	有	保育士として勤務 13 年
実務経験をいかした教育内容		保育士の経験からの指導助言を行なう
担当教員以外で指導に関わる実務経験者		実習先の保育者
テキスト・参考図書・参考資料		<p>〈テキスト〉</p> <p>厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館（2018）・田中亨胤監修、山本淳子編著『実習の記録と指導案』ひかりのくに（2018）〈参考図書〉大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木美枝子・田澤里喜編著『これからの時代の保育者養成・実習ガイド』中央法規（2020）実習日誌・実習指導案『パーフェクトガイド』小櫃智子・田中君枝・小山朝子・遠藤純子（2024）幼稚園・保育所・認定こども園実習『パーフェクトガイド』小櫃智子・守巧・佐藤めぐみ・小山朝子（2023）</p>
授業計画	授業項目	授業内容
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 観察実習 ・ 参加実習 ・ 指導実習（部分・全日）
準備学修		実習前までに事前課題、指導案を作成する。（5h 程度）
事後学修		実習日誌の作成を行う。（1 日 2h 程度）
注意事項		「保育実習（保育所）心得」を確認する。
備考		実習手続き（実習先への電話・訪問、持参文書）等は期日を守り、自分で行う。

8P4N310470		授業科目名 (英文名)		保育実習Ⅲ (施設) (Nurturing Practice Ⅲ)		関係資格		幼稚園教諭免許状		
								保育士資格		○
学年	2年	学期	前期	卒業 必修・選択	選択	単位数	2	授業形態	実習	
担当教員名		森 依子			担当授業		単独			
メールアドレス		mori@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		月金以外の4限終了後1時間			
【授業の概要】										
実習施設は「保育実習実施基準」に示されている施設とし、2年次の夏季休業中の11日間（休日を含む）、施設で宿泊または通所で実習を行う。実習内容は観察・参加実習を基本とし、実習施設の指示により指導実習を行うことがある。実習中に幼児教育学科の教員が訪問指導を行う。										
【授業の到達目標】										
(1)児童福祉施設（保育所以外）、その他社会福祉施設などの養護を施設の現場で実践することができる。										
(2)施設保育士として必要な資質・能力・技術を身につけ、実践することができる。										
【本科目と学修成果との関連】			知識・技能		思考力・判断力・表現力			態度・志向性		
Ⅰ：保育者基礎力										
Ⅱ：子ども・家庭支援力										
Ⅲ：保育実践力										
Ⅳ：社会人基礎力・社会貢献力			○		○			◎		
【アクティブラーニング】			知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造	
			—		—		—		—	
			<具体的な方法>						—	
学修成果のフィードバック			実習後、評価票をもとに面談を行う。							
【成績評価の方法及び基準】			定期試験 (%)	課題・作品・ レポート (%)	(%)	実習園による 評価 (70%)	事前事後の 取り組み (20%)	実習手続き の取り組み (10%)		
学修 成果 Ⅰ	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修 成果 Ⅱ	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修 成果 Ⅲ	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修 成果 Ⅳ	知識・技能					○	○	○	○	○
	思考力・判断力・表現力					○	○	○	○	○
	態度・志向性					○	○	○	○	○

実務経験	無	—
実務経験をいかした教育内容	—	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	実習施設における実習指導担当者等	
テキスト・参考図書・参考資料	〈テキスト〉 守巧他『施設実習パーフェクトガイド』わかば社（2020）, 厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館 （2018）・田中亨胤監修、山本淳子編著『実習の記録と指導 案』ひかりのくに（2018）・大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木 美枝子・田澤里喜編著『これからの時代の保育者養成・実習ガ イド』中央法規（2020）	
授業計画	授業項目	授業内容
<ul style="list-style-type: none"> ・ 観察実習 ・ 参加実習 ・ 指導実習（部分保育・全日保育） 		
準備学修	実習前までに実習課題、指導案を作成する。（5h 程度）	
事後学修	実習日誌の作成。（1日 2～3h 程度）	
注意事項	「保育実習（施設）心得」を確認する。	
備考	実習手続き（実習先への電話・訪問、持参文書）等は期日を守り、自分で行う。また、受講状況及び単位取得状況によって実習に参加できない場合がある。	

8G2N310480		授業科目名 (英文名)		保育実習指導Ⅱ (保育所) (Guidance For Nurturing Practice Ⅱ)		関係資格		幼稚園教諭二種免許状 保育士資格		○
学年	2年	学期	通年	卒業 必修・選択	選択	単位数	1	授業形態	演習	
担当教員名		上田 真由美			担当形態		単独			
メールアドレス		ueda@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		授業終了後、又は事前連絡後			
【授業の概要】										
① 1年次春期休業中に実施した保育実習Ⅰの事後指導も行う。										
② 2年次の夏期休業中に実施される保育実習Ⅱに向けての具体的課題に取り組む。										
③ 保育実習Ⅱの保育所実習に必要な事前事後の手続き等を行う。										
【授業の到達目標】										
(1)保育実習の意義と目的を理解し、保育実習Ⅰの反省を踏まえて自己の課題を明確にし、述べることができる。										
(2)既習の教科の学びに基づき、保育技術・保育計画等を身につけ、実習に向けた準備を行うことができる。										
(3)保育士の専門性と職業倫理について理解し、述べることができる。										
【本科目と学修成果との関連】			知識・技能		思考力・判断力・表現力			態度・志向性		
Ⅰ：保育者基礎力										
Ⅱ：子ども・家庭支援力										
Ⅲ：保育実践力										
Ⅳ：社会人基礎力・社会貢献力			◎		◎			○		
【アクティブラーニング】			知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造	
			○		○		○		○	
			<具体的な方法> 指導案作成、模擬保育演習、実習後発表、グループ討議							
学修成果のフィードバック			課題は必要な部分の共有をし、評価の後返却する。							
【成績評価の方法及び基準】			定期試験 (%)	課題・作品・ レポート (50%)	発表 (20%)	模擬保育 (30%)	(%)	(%)		
学修 成果 Ⅰ	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修 成果 Ⅱ	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修 成果 Ⅲ	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修 成果 Ⅳ	知識・技能			○	○	○				
	思考力・判断力・表現力			○	○	○				
	態度・志向性			○	○	○				

実務経験	有	保育士として勤務 13 年
実務経験をいかした教育内容		保育士経験からの指導
担当教員以外で指導に関わる実務経験者		—
テキスト・参考図書・参考資料		〈テキスト〉厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館(2018)・田中亨胤監修、山本淳子編著『実習の記録と指導案』ひかりのくに(2018)〈参考図書〉大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木美枝子・田澤里喜編著『これからの時代の保育者養成・実習ガイド』中央法規(2020)実習日誌・実習指導案『パーフェクトガイド』小櫃智子・田中君枝・小山朝子・遠藤純子(2024)幼稚園・保育所・認定こども園実習『パーフェクトガイド』小櫃智子・守巧・佐藤めぐみ・小山朝子(2023)
授業計画	授業項目	授業内容
第 1 回	保育実習 I 振り返り①	保育所実習振り返り 保育実習 II のオリエンテーション
第 2 回	保育実習 I 振り返り②	保育実習 I 反省・振り返り
第 3 回	保育実習 I 振り返り③	保育実習 I 反省・振り返りから課題を考える
第 4 回	評価について	保育実習 II の評価内容とその理解
第 5 回	自己課題確認	保育実習 II 実習準備 (自己 PR 作成)
第 6 回	保育の実際	保育所の子どもへの対応について
第 7 回	実習日誌①	日誌の書き方① 保育実習 I (保育所) の実習日誌の振り返り
第 8 回	実習日誌②	日誌の書き方② 保育実習 II に向けて
第 9 回	指導案について①	3 才未満児・以上児・異年齢保育の指導案の立案
第 10 回	指導案について②	3 才未満児・以上児・異年齢保育の指導案の作成
第 11 回	模擬保育①	模擬保育のグループ分け・グループ討議・指導案の作成
第 12 回	模擬保育②	模擬保育 演習① (前半グループ)
第 13 回	模擬保育③	模擬保育 演習② (後半グループ)
第 14 回	指導案について③	保育実習 II の指導案の作成
第 15 回	実習直前準備	連絡・終了手続きについて 日誌・指導案等の配付
第 16 回	実習事後指導 実習の振り返り①	実習内容の確認
第 17 回	実習事後振り返り②	実習の自己評価と実習体験の共有① (報告準備)
第 18 回	実習事後振り返り③	実習の自己評価と実習体験の共有② (報告準備とグループの共有)
第 19 回	実習事後指導自己課題について①	保育士に求められる資質・能力・技術についての再確認 1
第 20 回	実習事後指導自己課題について②	保育士に求められる資質・能力・技術についての再確認 2
定期試験は実施しない。		
準備学修	指定された部分の予習。(各回 1h) 模擬保育の指導案作成等。(3~5h 程度)	
事後学修	各回のふり返しをして学びを深める (レポート課題)。(各回 1~2h)	
注意事項	実習に出る人は必ず受けなければならないので、欠席はできません。	
備考	—	

8G2N310490		授業科目名 (英文名)		保育実習指導Ⅲ (施設) (Guidance For Nurturing Practice Ⅲ)		関係資格		幼稚園教諭二種免許状 保育士資格		○
学年	2年	学期	通年	卒業 必修・選択	選択	単位数	1	授業形態	演習	
担当教員名		森 依子			担当形態		単独			
メールアドレス		mori@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		月金以外の4限終了後1時間			

【授業の概要】

1年春季休業中に実施した保育実習Ⅰ(施設)の事後指導。また2年夏期休業中に実習される保育実習Ⅲ(施設)に向けて、課題を明確にし、準備する。自分で資料を集め、発信するポートフォリオ、プロジェクト的発想が必要とされている。プレゼンテーション力も強く求められる。

【授業の到達目標】

- (1)保育実習Ⅰ(施設)での施設実習での経験を生かし、さらには福祉援助の内容、方法について説明することができる。
(2)援助計画に基づいて実習する力を養うとともに、保育士としての援助技術、他の関係機関の役割や専門職の業務について述べるができる。
(3)学習として重要なことは、「自己課題の明確化」「自立支援計画」「実習中の留意事項」「利用者(児)の理解」「職員間の連携」「施設保育士と地域の関係」等を、具体的に現場で体験し、それをプロジェクトとしてまとめ文書化できること、且つ、それをプレゼンテーションすることができる。

【本科目と学修成果との関連】	知識・技能	思考力・判断力・表現力	態度・志向性
I：保育者基礎力			
II：子ども・家庭支援力			
III：保育実践力			
IV：社会人基礎力・社会貢献力	○	○	◎

【アクティブラーニング】	知識の定着・確認	表現志向	応用志向	知識の活用・創造
	○	○	○	○
	<具体的な方法>模擬演習 対話的授業 KJ法 プロジェクト・メソッド ポートフォリオ プレゼンテーション等			

学修成果のフィードバック	課題は返却または共有					
--------------	------------	--	--	--	--	--

【成績評価の方法及び基準】		定期試験 (%)	課題・作品・ レポート (60%)	発表 (40%)	(%)	(%)	(%)
学修成果Ⅰ	知識・技能						
	思考力・判断力・表現力						
	態度・志向性						
学修成果Ⅱ	知識・技能						
	思考力・判断力・表現力						
	態度・志向性						
学修成果Ⅲ	知識・技能						
	思考力・判断力・表現力						
	態度・志向性						
学修成果Ⅳ	知識・技能		○	○			
	思考力・判断力・表現力		○	○			
	態度・志向性		○	○			

実務経験	無	—
実務経験をいかした教育内容		—
担当教員以外で指導に関わる実務経験者		施設職員
テキスト・参考図書・参考資料		〈テキスト〉守巧他『施設実習パーフェクトガイド』わかば社 (2023) 厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館 (2018) 田中亨胤監修、山本淳子編著『実習の記録と指導致案』ひかりのくに (2018) 参考資料：『ワークシートで学ぶ施設実習』 和田上田貴昭 那須信樹 原孝成 編著、同文書院 (2020)
授業計画	授業項目	授業内容
第1回	保育実習Ⅲについて	オリエンテーション 実習全体の振り返り：保育Ⅲの目的と実習課題
第2回	保育実習Ⅰの振り返り①	保育実習Ⅰの振り返り（保育）シートに記述後 発表共有
第3回	保育実習Ⅰの振り返り②	保育実習Ⅰの振り返り（施設）シートに記述後 発表共有
第4回	実習自己課題の明確化	保育実習Ⅲ（施設）の内容、評価の理解を深める
第5回	利用者（児）の理解	各々の利用者（児）の抱えている問題とそれへの関わり方 施設職員のお話をおききする（またはDVD）質問・意見交換
第6回	職員間の役割分担	施設内における異業種間の業務内容や連携のあり方について 施設職員のお話をおききする（またはDVD）質問・意見交換
第7回	施設保育士と地域との関係	それぞれの施設の社会への働きかけ、それぞれの関係機関との連携
第8回	実習日誌①	実習日誌について学習する（自己の振り返り）：実習計画作成
第9回	実習日誌②	実習日誌について（保育Ⅲに対応する書き方）：実習計画作成
第10回	指導致案	指導致案について（施設の指導致案・例と立案と演習）
第11回	事前訪問準備	事前訪問についての留意点（模擬演習続き）
第12回	実習中の内容	実習中の内容と過ごし方：留意点
第13回	実習前後手続きについて	必要な手続きの確認と準備（履歴書・誓約書・健康診断・御礼状など）
第14回	実習中の留意事項	勤務と服務・心構え・守秘義務についての再確認
第15回	実習直前準備	連絡法・終了手続きについて 日誌・指導致案等の配布
第16回	実習事後振り返り①	実習内容の確認と振り返り パワーポイント作成のための調査①
第17回	実習事後振り返り②	実習の自己評価と実習体験の共有①パワーポイント作成準備②
第18回	実習事後振り返り③	実習の自己評価と実習体験の共有②パワーポイント発表③
第19回	実習事後指導自己課題について①	保育士に求められる資質・能力・技術についての再確認 1 振り返り
第20回	実習事後指導自己課題について②	保育士に求められる資質・能力・技術についての再確認 2 発表
定期試験は実施しない。		
準備学修	予習(2h以上)が必要。実習日誌、メモ等、自己資料を利用しICTなども活用する。	
事後学修	授業で発表・考察したものをまとめる。各自の実習の課題を克服できるようにする。（各回1～2h）	
注意事項	保育実習1（施設）で得たものを基に、積極的な自己学習が必要となる。	
備考	事後報告などは自己のためだけではなく後輩へ伝えられることを整理しておくことも含む	

8A2C310500		授業科目名 (英文名)		保育・教職実践演習 (幼稚園) (Practical Training For Childcare and Teaching(Kindergarten))		関係資格		幼稚園教諭二種免許状		○
								保育士資格		○
学年	2年	学期	後期	卒業 必修・選択	必修	単位数	1	授業形態	演習	
担当教員名		桑原 広治 江玉 睦美			担当形態		クラス分け・単独			
メールアドレス		kuwahara@higashikyusyu.ac.jp edama@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		月・木 昼休み (金曜日を除く)			
【授業の概要】										
<p>本授業は、これまでの科目の履修や実習等を通じて身につけた資質能力が、保育者として必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて確認する学修の集大成となる科目である。特に、保育者として求められる①使命感や責任感、教育的愛情、②社会性や対人関係能力、③幼児理解力、④幼児教育の指導力について、未修得の知識や技能を補い、その定着を図ることを目的とする。そのため、自己の課題を明確にし、グループワークやディスカッション等によって授業を進める。また、保育に関する現代的課題の現状についての発表では、その内容に演習を取り入れることで模擬保育の経験につながるようにする。</p>										
【授業の到達目標】										
(1)将来、保育者になる上での自己課題を自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることができる。										
(2)自分の求める保育者像を明確にし、述べることができる。										
(3)保育に関する現代的課題の現状について情報の収集・分析・考察し、発表することができる。										
【本科目と学修成果との関連】			知識・技能		思考力・判断力・表現力		態度・志向性			
I：保育者基礎力			◎		◎		◎			
II：子ども・家庭支援力					◎		◎			
III：保育実践力					◎		◎			
IV：社会人基礎力・社会貢献力					○		◎			
【アクティブラーニング】			知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造	
			○		○		○		○	
			<具体的な方法> グループワーク、グループディスカッション、ロールプレイング							
学修成果のフィードバック			自己課題への取り組みやグループ発表については進捗状況に応じて助言を行う。レポートについては回収後に必要に応じてコメントをつけて返却する。							
【成績評価の方法及び基準】			定期試験 (%)	課題・作品・ レポート (50%)	発表 (50%)	(%)	(%)	(%)	(%)	
学修成果Ⅰ	知識・技能			○	○					
	思考力・判断力・表現力				○					
	態度・志向性				○					
学修成果Ⅱ	知識・技能				○					
	思考力・判断力・表現力			○	○					
	態度・志向性			○	○					
学修成果Ⅲ	知識・技能				○					
	思考力・判断力・表現力			○	○					
	態度・志向性			○	○					
学修成果Ⅳ	知識・技能				○					
	思考力・判断力・表現力			○	○					
	態度・志向性			○	○					

実務経験	有 有	小学校教員 幼稚園で幼稚園教諭として勤務
実務経験をいかした教育内容		幼稚園教諭としての経験に基づき、保育現場の実態に即した実践的な授業を行う。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者		幼稚園主幹教諭、保育所主任保育士等
テキスト・参考図書・参考資料		〈テキスト〉適宜資料を配布する。 〈参考図書〉 ・『幼稚園教育要領解説』（平成 29 年告示 文部科学省）フレーベル館、2018 年 ・『保育所保育指針解説』（平成 29 年告示 厚生労働省）フレーベル館、2018 年 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成 29 年告示 内閣府）フレーベル館、2018 年
授業計画	授業項目	授業内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の内容・進め方等の説明、履修カルテを用いてこれまでの学びをふり返し、自己課題を見つける
第 2 回	保育者が身につけるべき知識や技能について	保育者が身につけるべき知識や技能についてディスカッションする
第 3 回	保育者からのメッセージ	外部講師による講義
第 4 回	保育に関する現代的課題について①	自分で解決したい、考察してみたいと思った保育に関する現代的課題について（研究テーマ、研究計画）
第 5 回	保育に関する現代的課題について②	研究計画に沿って情報収集を行う
第 6 回	保育に関する現代的課題について③	研究計画に沿って調査、文献分析を行う
第 7 回	発表準備①	発表のための資料づくり
第 8 回	発表準備②	発表リハーサル
第 9 回	発表①	グループ発表（前半）
第 10 回	発表②	グループ発表（後半）
第 11 回	発表のふり返し	発表の結果をふまえてふり返しを行う
第 12 回	他大学の学生との交流	保育者をめざす他大学の学生との交流、情報交換（オンライン）
第 13 回	小学校との接続について	外部講師による講義
第 14 回	保育者として地域で働くということ	外部講師による講義
第 15 回	まとめ	履修カルテを用いて自己課題および到達目標の達成度を確認する
定期試験は実施しない。		
準備学修	事前に配布資料を読む。（第 2～3、12～14 回×90min） 発表に向けて準備する。（第 4～10 回×2h）	
事後学修	レポートを作成する。（第 2～3、12～14 回×2h） 発表に向けて準備する。（第 4～10 回×2h）	
注意事項	これまでの学びの総仕上げとなる授業のため、真摯な姿勢で臨むこと。また、欠席、遅刻、早退等は必ず届け出ること。	
備考	外部講師の時には 2 クラス合同になる。また、外部講師の都合等により、シラバスを変更することがある。	

3B1T310530		授業科目名 (英文名)		心の教育 (Moral Education)		関係資格		幼稚園教諭二種免許状 保育士資格		○
学年	2年	学期	後期	卒業 必修・選択	選択	単位数	2	授業形態	講義	
担当教員名		緒方 義英			担当形態		単独			
メールアドレス		ogata@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		月～木曜日 16:30～17:00			
【授業の概要】										
<p>本授業は、幼児期における心の教育について、特に道徳的側面に着目しながら考察を進めていく。前半は、心や感情に関する基礎的な内容、文部科学省が示す「徳育」について取り上げる。後半は、テキストを中心に幼児期における道徳教育の重要性と指導法について考察する。</p>										
【授業の到達目標】										
(1)幼児期における「心の教育」の重要性について説明することができる。										
(2)幼児期における徳育の必要性について説明することができる。										
(3)心を豊かにする教育（保育）を実践することができる。										
【本科目と学修成果との関連】			知識・技能		思考力・判断力・表現力		態度・志向性			
I：保育者基礎力										
II：子ども・家庭支援力					○		○			
III：保育実践力			○		◎		○			
IV：社会人基礎力・社会貢献力										
【アクティブラーニング】			知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造	
			—		—		○		○	
			<具体的な方法> 対話型授業							
学修成果のフィードバック			課題は次回授業時に返却する。							
【成績評価の方法及び基準】			定期試験 (70%)	課題・作品・ レポート (30%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	
学修成果 I	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修成果 II	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力			○						
	態度・志向性		○							
学修成果 III	知識・技能		○							
	思考力・判断力・表現力		○	○						
	態度・志向性		○	○						
学修成果 IV	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									

実務経験	無	—
実務経験をいかした教育内容		—
担当教員以外で指導に関わる実務経験者		—
テキスト・参考図書・参考資料		〈テキスト〉 『幼稚園における道徳性の芽生えを培うための事例集』（文部科学省） 〈参考図書〉 『真宗保育の基礎』（真宗保育学会）
授業計画	授業項目	授業内容
第1回	心とは何か	授業の概要と学修成果の説明 心（知・情・意）のはたらき
第2回	心の教育とは何か	思考・感情・行動の教育
第3回	心を豊かにする教材	心を豊かにする教材について考える ※事例「他者の存在に気付く」 p66
第4回	幼児期からの心の教育	文部科学省 「幼児期からの心の教育の在り方」・「子どもの徳育」 ※事例「幼稚園生活のきまり」 p72
第5回	幼児期と道徳性Ⅰ	道徳性の基盤とその発達 p1～ ※事例「順番が分かるまでに」 p77
第6回	幼児期と道徳性Ⅱ	幼児期の道徳性 p5～ ※事例「よいこと・悪いことに気付く」 p81
第7回	幼児期の道徳性を培うための指導	社会性を身につけさせる p13～ ※事例「遊びのルールを守る」 p86
第8回	幼稚園生活の中で学ぶ	葛藤の中で学ぶ園児／園児と向き合い心を通わせる p22～ ※事例「みんなのものを大切にする」 p93
第9回	教師の役割	教師が適切な役割を果たす p30～ ※事例「けんかを通して学ぶ」 p97
第10回	人とのかかわりを通して学ぶⅠ	友達と遊ぶ面白さを知る／ルールの意味を知る p37～ ※事例「集団生活の約束」 p101
第11回	人とのかかわりを通して学ぶⅡ	トラブルを通して学ぶ／遊びの中で公正さを学ぶ p41～ ※事例「障害のある幼児とともに」 p104
第12回	家庭との連携を図る	保護者と幼児の成長に寄り添う p48～ ※事例「高齢者との交流」 p108
第13回	幼稚園全体の協力体制Ⅰ	幼稚園全体での幼児理解と指導感の共有 p55～ ※事例：小さな生命に愛着を持つ p113
第14回	幼稚園全体の協力体制Ⅱ	教師間の協力体制／小学校との協力体制 p60～ ※事例：生命の大切さに気付く p117
第15回	総括	これまでの授業のまとめ 幼稚園生活と教師の役割：実践 1～3
定期試験		
準備学修	事前にテキストを一読し、各時間の授業の概要を把握しておくこと。（各回 1h）	
事後学修	レポート課題を提示するので、配布資料を参考にして計画的に取り組むこと。（各回 1h）	
注意事項	配布資料は一括してファイリングしておくこと。	
備考	—	

3B1F310540		授業科目名 (英文名)		真宗保育 (Sinshu-Hoiku)		関係資格		幼稚園教諭二種免許状 保育士資格	
学年	2年	学期	後期	卒業 必修・選択	選択	単位数	2	授業形態	講義
担当教員名		緒方 義英 尾家 京子			担当形態		オムニバス		
メールアドレス		ogata@higashikyusyu.ac.jp oie@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		月～木曜日 16:30～17:00 月・火曜日 16:30～17:00		
【授業の概要】 本授業は、浄土真宗の精神の上に実践される「真宗保育」について、その基本理念と保育内容、さらには仏参行事、仏教讃歌について取り上げる。15回目の授業では、「仏式による模擬入・卒園式」を設定し、それまでの学修のまとめとする。									
【授業の到達目標】 (1)真宗保育の理念や行事について説明することができる。 (2)真宗保育における仏参行事で荘厳、作法指導、聖歌指導ができるようになる。									
【本科目と学修成果との関連】		知識・技能			思考力・判断力・表現力			態度・志向性	
I：保育者基礎力									
II：子ども・家庭支援力									
III：保育実践力		○			◎			○	
IV：社会人基礎力・社会貢献力									
【アクティブラーニング】		知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造	
		○		○		-		○	
		<具体的な方法> 実技（作法）、実践（荘厳、聖歌）							
学修成果のフィードバック		課題は次回授業時に返却する。							
【成績評価の方法及び基準】		定期試験 (%)	課題・作品・ レポート (30%)	実技テスト (70%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
学修成果 I	知識・技能								
	思考力・判断力・表現力								
	態度・志向性								
学修成果 II	知識・技能								
	思考力・判断力・表現力								
	態度・志向性								
学修成果 III	知識・技能		○	○					
	思考力・判断力・表現力			○					
	態度・志向性			○					
学修成果 IV	知識・技能								
	思考力・判断力・表現力								
	態度・志向性								

実務経験	無 無	— —
実務経験をいかした教育内容		—
担当教員以外で指導に関わる実務経験者		—
テキスト・参考図書・参考資料		〈テキスト〉 担当教員が配布する教材 〈参考図書〉 『真宗保育の基礎』（真宗保育学会）
授業計画	授業項目	授業内容
第1回	真宗保育の理念	授業の概要説明、真宗保育の理念を学ぶ（担当：緒方）
第2回	仏前荘厳の意義	仏前荘厳について理解し、実際に荘厳する（担当：緒方）
第3回	礼拝作法	礼拝時の所作・作法について学ぶ 実技テスト1（担当：緒方）
第4回	さまざまな礼拝行事1	行事（灌仏会・成道会）の意義について学ぶ 課題1 実技テスト2（担当：緒方）
第5回	さまざまな礼拝行事2	行事（涅槃会、彼岸会）の意義について学ぶ 課題2 実技テスト3（担当：緒方）
第6回	さまざまな礼拝行事3	行事（降誕会、報恩講）の意義について学ぶ 課題3 実技テスト4（担当：緒方）
第7回	真宗保育の実践	実践上の課題 ～ 事例を通してみえてくる問題～ 課題4（担当：緒方）
第8回	幼児のおつとめ1	「幼児のおつとめ」次第を理解する（担当：尾家）
第9回	幼児のおつとめ2	「幼児のおつとめ」次第を実践する（担当：尾家）
第10回	幼児向け仏教讃歌を学ぶ1	保育現場で用いられる仏教讃歌を学ぶ ①（担当：尾家）
第11回	幼児向け仏教讃歌を学ぶ2	保育現場で用いられる仏教讃歌を学ぶ ②（担当：尾家）
第12回	幼児向け仏教讃歌を学ぶ3	保育現場で用いられる仏教讃歌を学ぶ ③（担当：尾家）
第13回	幼児向け仏教讃歌を学ぶ4	仏教讃歌の簡易伴奏の編曲法を学ぶ ①（担当：尾家）
第14回	幼児向け仏教讃歌を学ぶ5	仏教讃歌の簡易伴奏の編曲法を学ぶ ②（担当：尾家）
第15回	礼拝行事 総括	模擬入・卒園式（担当：尾家・緒方）
定期試験は実施しない。		
準備学修	各時間の授業項目を確認し、事前に該当ページを一読しておく。（各回 1h）	
事後学修	配布された教材プリントを用いて理解を深め、課題に向けた取り組みをする。（各回 1h）	
注意事項	配布された教材プリント、返却する課題プリントはファイリングしておくこと。	
備考	—	

6B1F310550		授業科目名 (英文名)		医学一般 (General Medical Science)		関係資格		幼稚園教諭二種免許状 保育士資格		○
学年	2年	学期	前期	卒業 必修・選択	選択	単位数	2	授業形態	講義	
担当教員名		佐矢野 義博			担当形態		単独			
メールアドレス		support@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		授業開始前 10 分程度			
【授業の概要】 ・人体のつくり（解剖学）とはたらき（生理学）、及び「受精卵からヒトになるまで」（発生学）について。 ・小児の特性について。 ・以上を独自のプリント、スライドを用いて解説する。										
【授業の到達目標】 (1)上記の内容について、大まかなイメージを持ち述べることができる。 （医学用語を暗記しようとはしないこと） (2)子どもたちと実際に接するにあたって、子どもの体調の変化を察知するために必要なことを述べることができる。 (3)「いのち」について、自分なりに感じ取り考えたことを表現することができる。										
【本科目と学修成果との関連】		知識・技能			思考力・判断力・表現力			態度・志向性		
I：保育者基礎力		○			○					
II：子ども・家庭支援力		◎			◎			◎		
III：保育実践力		○			○					
IV：社会人基礎力・社会貢献力										
【アクティブラーニング】		知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造		
		○		-		-		-		
		<具体的な方法> 些細と思われても疑問点はその場で積極的に質問・討議する。								
学修成果のフィードバック		質問等への対応								
【成績評価の方法及び基準】		定期試験 (100%)		(%)		(%)		(%)		(%)
学修成果 I	知識・技能	○								
	思考力・判断力・表現力	○								
	態度・志向性									
学修成果 II	知識・技能	○								
	思考力・判断力・表現力	○								
	態度・志向性	○								
学修成果 III	知識・技能	○								
	思考力・判断力・表現力	○								
	態度・志向性									
学修成果 IV	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									

実務経験	有	臨床医として 29 年の診療
実務経験をいかした教育内容	小児科医としての知識と経験に基づき、資格取得後にも役立つ講義を行う。	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	—	
テキスト・参考図書・参考資料	〈テキスト〉 『医学一般』医療教育協会	
授業計画	授業項目	授業内容
第 1 回	人体発生学総論	受精卵からヒトになるまでのあらまし
第 2 回	人体の基本的な成り立ち	原子から人体までの各レベルについて
第 3 回	循環器系	心臓・血管系の発生と解剖生理
第 4 回	呼吸器系	呼吸器系の発生と解剖生理
第 5 回	消化器系	消化器系の発生と解剖生理
第 6 回	泌尿器系	消化器系の発生と解剖生理
第 7 回	血液・免疫系	血液の成り立ちと免疫の働き
第 8 回	神経系	神経系の発生と解剖生理
第 9 回	感覚器系	感覚器系の発生と解剖生理
第 10 回	内分泌系	内分泌系の発生と解剖生理
第 11 回	生殖器系	生殖器系の発生と解剖
第 12 回	筋・骨格系	筋・骨格系の発生と解剖生理
第 13 回	感染症	小児によく見られる感染症について
第 14 回	アレルギー	アレルギー疾患について
第 15 回	子どものからだどこころに必要なもの	子どもの成長に大切な遺伝因子、環境因子など 子どもの精神的発達、心身の連関
定期試験		
準備学修	テキスト当該箇所の通読。(各回 1h)	
事後学修	テキスト、配布資料等を用いて理解を深める。(各回 1h)	
注意事項	スマートフォンはカバンの中にしまうこと。	
備考	—	

3A2F310561		授業科目名 (英文名)		ゼミナールⅡ (SeminarⅡ)		関係資格		幼稚園教諭二種免許状 保育士資格	
学年	2年	学期	前期	卒業 必修・選択	選択	単位数	1	授業形態	演習
担当教員名		江玉睦美 ほか学科教員			担当形態		複数		
メールアドレス		edama@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		昼休み(金曜日を除く)		
【授業の概要】 子どもの発達と音楽表現、造形表現、言語表現等に関する知識や表現技術を実践を通して総合的に捉える。感性と表現のかかわりについて演習を通して学ぶ。実践発表は5月・6月・7月に開催されるオープンキャンパスにおいて行う。									
【授業の到達目標】 (1) 感性や表現する力を身につけ、実践することができる。 (2) 実践発表することができる。									
【本科目と学修成果との関連】		知識・技能			思考力・判断力・表現力		態度・志向性		
Ⅰ：保育者基礎力									
Ⅱ：子ども・家庭支援力									
Ⅲ：保育実践力		◎			○		○		
Ⅳ：社会人基礎力・社会貢献力									
【アクティブラーニング】		知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造	
		—		○		○		○	
		<具体的な方法>履修者が問題解決型学習を行い積極的に参加をすることにより、認知的、論理的、知識、教養などの能力の向上や育成を目指す。							
学修成果のフィードバック		レベルをあげるために必要に応じて教員から講評を行ったり、学生同士による進捗状況の確認や議論を行う。							
【成績評価の方法及び基準】		定期試験 (%)	課題・作品・ レポート (30%)	発表 (70%)	(%)	(%)	(%)	(%)	
学修成果Ⅰ	知識・技能								
	思考力・判断力・表現力								
	態度・志向性								
学修成果Ⅱ	知識・技能								
	思考力・判断力・表現力								
	態度・志向性								
学修成果Ⅲ	知識・技能			○					
	思考力・判断力・表現力			○					
	態度・志向性		○	○					
学修成果Ⅳ	知識・技能								
	思考力・判断力・表現力								
	態度・志向性								

実務経験	—	—
実務経験をいかした教育内容		—
担当教員以外で指導に関わる実務経験者		—
テキスト・参考図書・参考資料		〈テキスト〉 配布資料等
授業計画	授業項目	授業内容
第1回	オリエンテーション	グループ分け、総合演習発表の企画・立案
第2回	実践発表に向けて1	総合演習発表の企画プレゼンテーション（グループ別） 実践発表に向けたスケジュール、役割分担決定
第3回	実践発表に向けて2	グループ練習① 分担内容を完成する
第4回	実践発表に向けて3	グループ練習② 発表内容を完成する
第5回	リハーサル1	通し稽古（5月・6月グループ）
第6回	ゲネプロ1	本番と同じ状態での最終通し稽古（5月グループ）
第7回	発表・評価1	実演（5月オープンキャンパス）、制作活動の過程や実演についての省察と評価（5月グループ）
第8回	リハーサル2	通し稽古（6月・7月グループ）
第9回	ゲネプロ2	本番と同じ状態での最終通し稽古（6月グループ）
第10回	発表・評価2	実演（6月オープンキャンパス）、制作活動の過程や実演についての省察と評価（6月グループ）
第11回	リハーサル3	通し稽古（7月グループ）
第12回	ゲネプロ2	本番と同じ状態での最終通し稽古（7月グループ）
第13回	発表・評価3	実演（7月オープンキャンパス）、制作活動の過程や実演についての省察と評価（7月グループ）および「表現」における今後の課題
第14回	総括	レポートにてふり返しを行う
第15回	ゼミナールⅣの事前活動	ふり返しをふまえて、学園祭の企画を考える
定期試験は実施しない。		
準備学修	指示された事項、各自の役割に応じて個人やグループで準備、自主稽古する。（各回 2h）	
事後学修	授業内で行った内容を個人練習・グループ練習する。（各回 2h）	
注意事項	授業計画の順番は入れ替わることがある。	
備考	—	

3A2F310562		授業科目名 (英文名)		ゼミナールⅢ (SeminarⅢ)		関係資格		幼稚園教諭二種免許状 保育士資格	
学年	2年	学期	後期	卒業 必修・選択	選択	単位数	1	授業形態	演習
担当教員名		江玉睦美 ほか学科教員			担当形態		複数		
メールアドレス		edama@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		昼休み(金曜日を除く)		
【授業の概要】 音楽表現・造形表現・言語表現・身体表現を融合させた作品を制作し、発表する。前半は学園祭での発表に向けた準備、後半は附属幼稚園で行うお別れ会に向けた準備として進める。									
【授業の到達目標】 (1)5領域における保育内容を総合的に捉え、各領域の相互関係について説明することができる。 (2)総合表現活動の発表を通して、保育者として必要な基礎的技術の深まりと豊かな人間力を表現することができる。									
【本科目と学修成果との関連】		知識・技能			思考力・判断力・表現力		態度・志向性		
Ⅰ：保育者基礎力									
Ⅱ：子ども・家庭支援力									
Ⅲ：保育実践力		◎			◎		○		
Ⅳ：社会人基礎力・社会貢献力									
【アクティブラーニング】		知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造	
		—		○		○		○	
		<具体的な方法>履修者が問題解決型学習を行い積極的に参加をすることにより、認知的、論理的、知識、教養などの能力の向上や育成を目指す。							
学修成果のフィードバック		レベルをあげるために必要に応じて教員から講評を行ったり、学生同士による進捗状況の確認や議論を行う。							
【成績評価の方法及び基準】		定期試験 (%)	課題・作品・ レポート (50%)	発表 (50%)	(%)	(%)	(%)	(%)	
学修成果Ⅰ	知識・技能								
	思考力・判断力・表現力								
	態度・志向性								
学修成果Ⅱ	知識・技能								
	思考力・判断力・表現力								
	態度・志向性								
学修成果Ⅲ	知識・技能			○					
	思考力・判断力・表現力		○	○					
	態度・志向性		○	○					
学修成果Ⅳ	知識・技能								
	思考力・判断力・表現力								
	態度・志向性								

実務経験	—	—
実務経験をいかした教育内容		—
担当教員以外で指導に関わる実務経験者		—
テキスト・参考図書・参考資料	〈テキスト〉 配布資料等	
授業計画	授業項目	授業内容
第1回	オリエンテーション	演習内容の説明を行う
第2回	計画・立案	作品制作の計画を立てる（プレゼンテーション）
第3回	役割分担	音楽・造形・台詞・演出等を考える
第4回	演習 1	音楽（歌唱・効果音）・造形（道具・衣装）・演出（舞台構成・動き・台詞・照明）を準備する
第5回	演習 2	音楽（歌唱・効果音）・造形（道具・衣装）・演出（舞台構成・動き・台詞・照明）の各内容を完成する
第6回	演習 3	音楽（歌唱・効果音）・造形（道具・衣装）・演出（舞台構成・動き・台詞・照明）の全体を完成する
第7回	リハーサル	通し稽古
第8回	ゲネプロ	本番と同じ状態での最終通し稽古
第9回	発表	学園祭にて実演
第10回	評価	制作活動の過程や実演についての省察と評価
第11回	お別れ会準備 1	音楽・造形・台詞・演出等を考える
第12回	お別れ会準備 2	音楽（歌唱・効果音）・造形（道具・衣装）・演出（舞台構成・動き・台詞・照明）の各分野の専門性を生かした総合的な内容を展開する
第13回	お別れ会準備 3	学内にて立ち稽古
第14回	お別れ会準備 4	ホールにて通し稽古
第15回	総括	レポートにて振り返りを行う
定期試験は実施しない。		
準備学修	指示された事項、各自の役割に応じて個人やグループで準備、自主稽古する。（各回 2h）	
事後学修	授業内で行った内容を個人練習・グループ練習する。（各回 2h）	
注意事項	授業計画の順番は入れ替わることがある。	
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・学園祭の準備は1年生と合同で行う。 ・お別れ会の準備は教育実習指導と連動して行う。 	